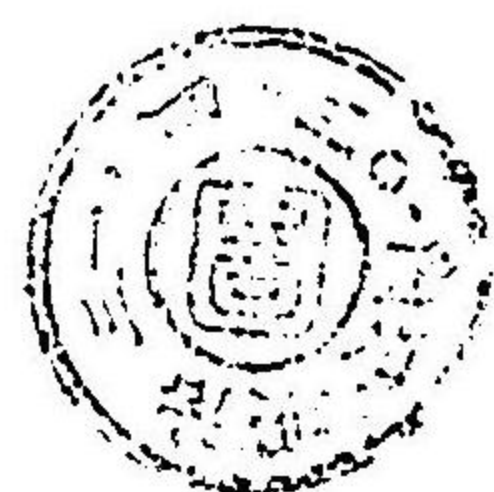


遣米使日記



故村垣淡路守範正記述

安政六年九月十三日例の如く大城に登りしが俄に麻の上下きて芙蓉間に出よとありければ同僚豊前守正興朝臣新見此節神奈川在勤なれは左衛門をのれ監察の小栗忠門尉範忠朝臣赤松名代を勤けるをのれ監察の小栗忠順又一と伺しく出れば彦根中將はしめ執政の方とつらなりて鯖江待從こたひ亞米利加國へ條約取かわせとして遣さるゝ間用意せよとの仰を傳らるやかて新番所前の溜にて豊前守正興は正使をのれは副使小栗忠順は立合の心得にて勤よと書付もて龍野待從傳らる夕かけて家に歸りけるかけふなん後の月の宴なるかおもひきや例しもなき送きと國の御使仰を蒙りけるとかしてさもいわていかにせんくと家の女子等は打しほれたるさまなり昔遣唐使といへどわつか海路を隔たる隣國なり米利堅は皇國と晝夜反對にして一萬里外なりかく例しもなき大任を蒙り五大洲に名の聞へん事は實に男子に生得しかひ有りなと云てすかしけるかよくかへり見ればをろかなる身に天地開闢以來初て異域の使命を蒙り君命をはつかしむれば神州の恥辱と成なんことゝおもへはむねくるしき事かきりなし折しも月のいとよく晴ければ御惠のかしこさを祝ひつゝ酒くみかはして

今よりはこと國人もあふくらん我秋津洲の月のひかりを

航海の術も近頃和蘭國より教師を招かれ其業を傳へ蒸氣軍艦もやと備はりたれと
まだ海外へ出し事なければはたひは彼の國より使節を送迎せしあらしなれば威
臨九といへる御船をそへて遣さるゝ事に成ぬこは軍艦の奉行攝津守喜毅朝臣木村
に命せられたり

○十二月朔日西城に十月十七日日本城登るべきよしの奉書きのふ西尾待從渡さるゝ
まゝとく登りて帝鑑間の庇に出れば暇の賜ものかつけらるゝよし龍野待從つたへ
らるやかて白木の書院の庇に正興をのれ喜毅豊後守忠順十一月十一日順々に出れば
奏者番大隅守親良朝臣名披露す龍野待從亞米利加國へ御用として罷越により御暇
拜領物のかしこまりを聞へあけらるれば御懇の上意を蒙りて御前をまかる芙蓉間
にて黄金吳服道服をかつけらる正興の賜物は金十枚代り二百兩時服二羽緋下司の人とも
とりとり暇の賜もの下し賜ふ

○十二月廿日には米利堅のボーハタンと名つくる蒸氣の軍艦神奈川に來りければ同
廿三日正興をのれ喜毅忠順と其他同行の下司を伴ひて蟠龍丸といへる蒸氣の御船
に乗りて神奈川港に至り驛にやとる次の日ボーハタン船に行て水師提督のタツテ
ナル名船將カビティン名ビイソン名等に面會して迎として渡來の事を収きらひ船
出のことも語合て廿五日に歸りぬいつしか年も暮て安政七年の庚申閏三月朔日は
歸朝して元旦になりぬれば送別として龍野待從

朝發神州向異方春風無恙送龍航豫知能不辱君命萬里洋天鵬翼張

參政右京亮忠毗朝臣

萬里波濤幾日程火輪一蹴破風行此行畢竟關公事莫墜東方君子名
かく執政參政の方に送らるゝは例稀なる事なれば恭事になんありける親しき人々
には壹岐守修就朝臣川村

幾千里かよふ舟路も安からんあまねくれよ御代の光に
歸りきてあみしの國も花鳥の色音いかにと語るをそまつ

山岡景福ぬしは八郎左衛門

奉使春初發日東舟車迅速勝飛鴻諸君傳命投書處宣示 皇朝威武風

一別扶桑冠帶國火輪刻日到殊域看他章綬瀛然容堪想温々君子德

大久保忠篤矢九郎

ためしなへ浪路はるかのこど國に名をかやかす船出ゆゝしも

こど國のことなる船の旅枕おきふし毎にいとへとぞおもふ
塙忠實次郎

四方の海なみたゝぬ世はなみならぬ君か舟出も浦安の國
梅さくら花かさしゝてこど國にわか日本の春をしらせよ

太郎正容

奉使返々渡海濤蠻邦長是望雄旄恩威遐布龍寇伏寧用腰間日本刃

四

なを多ければもらしつ

○正月七日ポーハタン船品川の沖に來りぬれば春なからこゝろせわしく調度ともなにくれととり集て船に遣りぬ

○正月十三日には龍野待從の邸にコモトール等を招かるれば同僚はさらなり外國の事にあつかる大小鑿察其他役々彼の邸に參りぬ在留米利堅のミニストル名ハルリス名はたポーハタンの提督タツテナル名ハ船將ビイソン名ハ一等ロイテナント名ハ二等同しくテレンチャル名ハ例の通辯官ヒースケン名ハとも一同午時過る頃參りぬ今度使節迎船の事を謝せられタツテナルへ刀一腰白大和錦五卷ハルリスビイソンへ大和錦五卷つゝ一等士官へ同三卷船中の士官十二ヒースケンへ紅白縮緬二反つゝ下し賜ふはた饗膳賜りて夕方歸りぬ

○正月十四日正興をのれ忠順一同に御座間に召出され御懇の上意を蒙る

○正月十六日西城樓間におゐて彦根中將執政の方と並居て正興とをのれ出れば御黒印御下知狀を岩城侍從渡され忠順にも同しく渡さる又三人同しく出れば米利堅の大統領へ遣さる御國書黒御條約書同執政より彼の國の外國事務ミニストル名へ贈らるゝ書翰をも同し待從渡され十八日に出立十九日開帆の旨正興申上れば念入るべき旨侍從傳へらるかくて執政參政の方とへ親しく暇を告げるががゝる例し

なき旅立なれば殊更になくさめらるゝも恭なし同僚は更なりしたしき有司の人々何くれとまめたちて名殘をしむさますが御國內の旅立とはかはりてむねくるしき事なり龍野侍從は所勞にてありければ彼の邸に行て暇を告て家に歸る

○正月十八日空晴わたり西北の風はけしく旅衣また寒し朝とく人々入來りて名殘をしみけるががゝる旅立にはつとめて勇壯の景色を示さすは家の子等はしをれかちなり已時過る頃立出るとて

玉の緒は神と君とにまかせつゝしらぬ國にも名をや殘さん

軍艦練所へ參りければ正興忠順勘定組頭森田行岡本また下司の人々皆打揃ひ夕八時頃小舟に乗りて炮臺のあなたに出れば風つよく波高く成りて森田行ははやゑひ心の様子なり

竹芝の浦波遠くこき出てゝ世に珍しき舟出なりけり

など言えるほどに品川沖にかゝれる米利堅の軍艦ポーハタンにつきて乗移れば胡樂を奏しコモドール船將出迎て案内し祝炮とて左右の大砲十七發打たり船の上は荷物などとりちらして部屋にも定まらずこれはかしてへ彼はあなたへなど言ても通辯兩三人なればいかんともせんかたなく混雜を極めたりはや蒸氣さかんに成りたれはいふ横濱に至るといふかうちに碇を引揚れば船の兩端の火輪波をけたてゝ十町あまりもしら波立て颯るさまいとすさまし羽根田の岬など一ひらの雲のはし

五

るかと思ふはかりに過て夕第六時以下編の時を横濱に碇を入たり船將等所用ありて一兩日は滯泊するよしなれば荷物など片付人々も船に少しは馴て出れば都合よき事なりけふ乗組人々正副使監察何れも家司九人つゝ連たり森田行岡本成瀬正典等四郎外國本塚原昌支五郎外國奉行醫官には宮崎正義立元密村山淳伯元刑部何行頭支配頭塚原昌支配兩番格調役醫官には宮崎正義立元密村山淳伯元刑部何某鐵太郎御勤定日高何某同上三郎吉田佐五工門支配定役松本三之丞同上名村五八郎館格通御用定役鹽澤彦次郎御小人栗島彦八上益頭俊次郎請役辻芳五郎上川崎道民座賀師佐立石得十郎長崎和同斧次郎為得十郎見習の從者とも惣計八十一人なり此ボハタン名船といへるは外車の蒸氣船にて千八百五十五年ウイシユヤのうちゴスボルト名港にて造たるフレカト形船なり長二百五十フット間四尺一巾四十五フット我七間深二十六フット五分二尺四間大砲十一挺備二千四百十五噸百八十八石を積よし甲板上敷の板艦の方にコモートル機カビティン船の部屋有その續にある部屋を忠順の部屋となし其下の段の左右を正典とをのれの部屋とさため森田行はるの前にあり甲板上大砲四挺取はつして左右へあらたに部屋とを設けて成瀬正典以下下司家司從僕まで夫々部屋割を定めたり彼の人員は提督タツテナル船將ピソソケヒティン士卒指揮官テイロル人名此人日本人事は皆リウテナント士官六人醫師三人僧官壹人勘定役一人蒸氣機關方頭一人機關方七人水夫頭一人大炮方一人大工一人帆縫役一人書記官二人給仕四人水夫四百人乗組なり

○正月十九日候の二空晴て西風はけしくされと大船なれば家に居るか如し午時過る頃神奈川に在勤せし同僚隠岐守忠行酒井左工衛門尉範忠赤松圖書頭正雅竹本監察の伯耆守神原打つれて船に來り室に入れてゆるく物語せしが名殘おしみつゝさすが歸りかねたるさまなれ忠行は殊更きらひにてはや心地あしき様子にみゆればかきりおしとて歸帆を約して歸りぬ

○正月廿日晴て風も靜なり船のうちも片付たれば船將に行て爰かして見巡るに甲板上艦の櫓のもとに楫とる車有て水夫四人つゝ立たり中櫓の所に一段高き所あり其左右に蒸氣の車あり當番の士官一人つゝ此所に居て船中見渡し帆の進退水夫の勤惰などまて令を下し百事此當番一人の進退にまかせたり此高臺に續て日本人の飯焚所を設け表の櫓の邊には食用の爲に飼置綿羊豕あまた有下の段に下りて見れば士官の部屋廣く中央に大なる食盤を置左右部屋くゝなりこれをカームルといふ其次は蒸氣機關の塲所なりその奇巧中く筆には盡しかたし次に焚焚所有下等士官の部屋くゝ左右に有水夫マタロスは釣床を設けて部屋はなし又病人部屋窄まても備はりたり三段目は火藥庫武器庫惣して船具夥しく有水は船の底に鐵の函を數々置て貯たるもの也船中の掟は嚴なる法にて第一火を嚴に扱ひ部屋くゝには火を置事なし朝第五時砲聲一發あり木鼓に笛を添て囃し暫時に止是より水夫等起出て甲板を砂もて洗かな物杯をみかき第七時頃より掃除濟たり第八時になれば國旗を

艦に引揚御國旗を表の櫓に引揚胡樂を奏し朝飯濟て船將甲板上に出ソルタート兵卒は銃を持水夫は其持場々に並て短き銃を持頭に其人別を改め船將に申事也其式朝夕二度航海中一日も怠事なく夕四時に國旗を下け又胡樂有夜第八時に炮一聲を合圖に當番の外は勝手に休む事也船將部屋入口にソルタート一人宛晝夜立たり聊かの事までも當番の士官より此ソルタートをもて船將に通ずる事なり一船の指揮は船將にありコモトールは海軍總督なれば細事は聞こなし法令嚴整なるものなり

○正月廿一日空晴けるかやかてくもりて夕方より雪ふり出たりコモトールを始め上等下の士官まで絹に漆器などほとくに分ちて正興をのれ忠順より贈りぬあすはとも綱とくと聞ゆれば今宵を限り安くねむりにつきぬ

○正月廿一日晴夜半雨寒暖計四十九度正午測量位地北緯三十四度五十分四十分秒港より四十里我二十朝七時半六時碇を引揚れば蒸氣盛にして船はとく帆出たりよへ雪ふりたれば山も里も白妙に朝日かゝやきて風景いはんかたなしされと御國の船出なりせはかへり見勝なるか心をいさめて

真帆あけてしなとの風にとくはせよ神の御國の船出なりせは

夏しま猿嶋觀音崎のあたりは山のはしるかとおもふはかりいとほやく浦港などはるかあなたに見て安房の淵の岬を出れば士官甲板上に出て測量するに正午也是より日毎に同じ大嶋を右に見て帆けるか西風はけしく浪荒ければさすかの大船も動かしきへてふしはかりそれを見へければ

立歸りむかふ折こそ契らめや不二の高根に別行空

揺すれば人々甲板上に出て御國地の名殘を詠めけるかやと船疊催しければひとり二人いつしか皆室に入てをのか床にふしぬ正興とをのれはつとめて船の上にあるか船は寅卯に向ひ上總の大東岬を遠く見て洋中に帆けるまゝ神州の地山は雪かときへてふしはかりそれを見へければ

漁する舟ともあまた漕よせて異國の船に御國の人の乗りたるを怪しみて見るさま理はりなり小舟の高根に登りては下るさま目もくるめくはかり船も彌動揺つよくなりければをのれ等も室に入けるか胸苦しく心地悪ければ其まゝ床にふしたり誰もく同じさまにて語あふ者もなく夜もすから馴ぬうきねに夢も結はずあかしぬ

○正月廿三日陰西北風猛烈晝暴雨北緯三十五度廿二分四十六秒昨日の正午より百七十八里亞の數也寒暖計經緯度航誰もく皆病る人の如しそか中に甚しくくるしむものもあり又さのみにあらぬも有り船疊ばかりは人の強弱にもよらず不得手のものは氣力にもまかせぬものなり昨日よりまた一飯も食せしものもなく朝の口をきもせずふしたるまゝなり家司などに少し馴たるもの甲板に出しを聞けるか唯大浪の山をおしくるかこどく目に見るものは更になしと聞ゆ

○正月廿四日陰朝西風晝東風五十度北緯三十七度十八分四十五秒東二百三里とかく食もすゝまねは密柑また久年母杯食しけるかけふはあまりに空腹に成ければ粥を一

二わん食したり正興はをのれの部屋とむかひなれば床にふしなからいかにありしやなど打ふし互に聲を掛しのみなり忠順は上の段の部屋なれば洲の岬を出し頃部屋に入しまゝ音信もなくけふなん家司もてとひければいとむねくるしきこと甚しと聞ゆ

○正月廿五日晴西北風烈四十三度北緯三十五度五十一度五十四分五十五秒二百四里安房の海を出てより舟うごくこと彌甚しく日毎に烈風高浪なれば少しもしつまることもなくゆられくつつかれければいつしかねむりにつきけりけふ忠順部屋より下り來りてとひけるか色青くやつれさまなり人々船暈にてふしてはかりあるをコモドールは殊更にいたわりかくしては甚あしくつとめて甲板に出で風に吹かれなは心地も能成ものとしきりにすゝむれと起出んとすればむねくるしく心地よからねは兎角うちふしぬ日々銘々の室をとひ彼の食物など贈るも心ふかき事ともなり

○正月廿六日晴東風五十度北緯三十五度五十一度五十二分二十五秒二百二十五里

○正月廿七日晴南風烈終夜暴雨五十六度北緯三十六度三十三分三十九秒九十九里夕方より雨風はけしく夜に入て彌動搖甚しく荷物調度など皆繩を掛てうかぬよふにせしなれどかく甚しく成りては陶器玻璃器などこゝかしてにろこねける音したり荷物なども轉倒し起出んとすれば足もふみかねて物にとり付たるはかり森田行室の便所にゆかんと開き戸を明れば戸と共にまるひたりしか家司どものうちには重

く病るものゝ如く動こともならずむさきものありける盟の上に手をつきたりそこら清むることもならず行は寢床なれば動搖のたひにころけまはりてくるしければ正興の寢床に這入てふしぬ後にはかたり合ていとをかきことゝもなれと物言人もなく唯動搖の音のみ也をのれは寢床にふしなから力をはらねは盆に桃をのせたることし深更に成ぬれば風波彌はけしく家司の部屋くは大炮を取除て炮門をふさきて作りしものなれば炮門を破りて波打込みければ誰もく驚きて各下の船室に逃來りし也常は當番の士官一人にまかせしかかゝる風波に成ては不殘甲板上に出で働き船將に告る事數次なれと言語通せざるゆへさのみにい思はねと後に聞けは凡三十二度まで船傾けるとなん三十八度より四十度を極といふよし船端に鐵の釣かな物へ鎖りもて引揚置端舟一隻激浪の爲に失ひたり船の側も少し損したるとなんコモドールは二十八年航海せしかかゝる風波には初て出會しと言たり大平海といへど北緯三十五度より北によるほと秋冬波荒きことにてまた春淺きゆへと聞ゆ夜の明る頃少し靜に成たり

○正月廿八日陰西烈風五十六度北緯三十六度四十八分三十三秒百五十四里けふも風つよけれど雨止て少しは靜なり

○正月廿九日陰西北風五十六度半北緯三十六度五十八分四十二秒二百八里

○正月晦日陰東北風五十五里北緯三十五度三十三分三十五秒百八十一里

きのふけふは折々日影もみへて波も靜成方なり

○二月朔日廿二月雨西風夜大風雨五十四度北緯三十三度三十三分五十九秒東百五十五

里また夕かけて雨風はけしく浪あらくて動搖も甚しけれと廿七日ほどにはなしけふは合衆國の始祖華盛頓の誕生日とて祝炮打事なるが動搖強ければ發炮せぬよし

○二月二日陰西風晝雨四十八度半北緯三十七度三十五分十五秒東二百二十里今夕六時頃午線を過て西半球に入しといふが目に見るものは何の限りもなければしらす

○二月三日晴西北風五十度北緯三十七度五十五分四十九秒西二百二十里はや開帆して十日にも成ぬれはいつとなく動搖にも馴て病のいへる如く一人起出ふたり出きのふけふは甲板上に出るもの多し御國を出しよりふしてのみ暮しけるがはしめて三日月を見て時辰儀を量るに日入けるかまた御國は日も高きことゝもひやれは里程の隔りたる事を知るかるふれば千五百里になりぬ

三日月の空なつかしくをもひやれば御國はまたきひる間成るらん

○二月四日晴北風五十五度北緯三十八度三十三分三十三秒西二百四里彼のひゞき蒸氣の機關の音までもいつしか耳馴て夜もまた晝もねむるよふに成りけれと唯夢はかり見て快よく寝る事はなしなと語あへは人々同し事にてどかく古今の夢はかりなりとて森田行唐哥見せければをのれもかく

行かたはしらぬさゝひの春なれば夢路にかよふやとの梅かゝ

○二月五日晴北風五十五度北緯三十九度三十一分三十三秒西二百里

朝夕の胡樂も耳につきていとうるさし此頃は少しつゝ食事も成けれと寢床にありて晝も燭を用ゆるほどの聞き事なればしらさうしが能々見れば茶飯かと思ふ斗いかにとゞへば日をふるまゝ水函の底に成動搖の爲に鐵氣をうこかし水は番茶といへるを養たるか如し心地あしきまゝ士官にとひければ鐵氣なれば少しも腹合にさはることなし心安く用よと言へとせんかたなければそのまゝ用ひたり水は船中第一のものにて船の底に入し鐵函に貯置て一日一人五合つゝといふ事なれと御國人は水多く遣ふとて彼も心を用ひて一日一人一升つゝを計て朝毎に渡すされは飯かしくまでも此水なればをのれ等家司もて瓶に手のつきたる陶器あればそれに一日一盃つゝ受取茶碗にて口そゝき顔あらひなどせし跡を家司とも又その水を遣ふ事なれば百事不自由成事はこれにて知るべしまた太平洋の半成りと聞く

浪の上に幾夜寢覺のうきふしをかそへてもまた半なりけり

○二月六日晴北東風五十七度北緯三十八度四十八分十五秒西百八十二里

○二月七日晴東北風五十七度北緯三十八度四十分三十三秒西百六十三里

かねては米利堅とサンフランシスコ港へ航すること成しか思の外逆風多く船路はかどらす外車の蒸氣は帆前にてはすゝまさることゆへ少しも休むる事ならずよつ

て石炭多く費したれば太平洋中にあるサントウキス嶋へ行きて針路を己午に轉し
たり

十四

○二月八日雨東風五十八度北緯三十五度二十六分五十二秒 二百九里

○二月九日雨南風六十五度北緯三十三度四十分十七分 百七十里

○二月十日雨南風六十四度北緯三十三度四十分十七分 百五十二里

南にむかひてより日毎に雨あれども浪靜にして暖に成ぬかゝる洋中には鳥さへも
なかるべしと思ひけるに我蝦夷に見訓しかもめと信天翁俗に鵜といふといふ鳥多く見
ゆ

百千里島根もみへぬわた津海に何をすみかの浪の浮島

浮島よ友ところみれ我もまた浪のうきねをうしと思はじ

○二月十一日陰東風七十度北緯二十六度三十分四十五秒 百十里

○二月十二日雨東南風七十度北緯二十五度三十分四十五秒 百五十八里

○二月十三日晴東風七十度北緯二十五度三十分四十五秒 百七十二里

明日はかならず嶋につきぬと測量の士官言けるかいかゝあらんとあやしみなから
まちにまたれけり

○二月十四日晴東北風七十度曉ふかく嶋やまの見へけるよし水夫等まで皆よるこひ
て言あへるまゝとく起て甲板上に出れば有明の入さの月いとあかふこなたに横雲

のやゝ分れ行空に間近く島山の黒くみへければ

二十日あまり浪のうきふし重てはさすかにうれし沖の島山

見るかうち月は波に入たり

古郷は月の入さのあなたをとおもへは遠き舟路なりけり

花鳥の色音さへなきわたつ海もあはれば深き春の曙

しま根にろひてまはれば又先に島あり港口淺くしるしを目あてに舩入午時波戸塙
へ十町ばかりにして碇を投したり深さは爰はサントウキス諸島のうちオワホ嶋ホノ
ル、港とて北緯二十七度五十九分昨日の正午より百五十一里神奈川港より四千九
十一里といふ皇國を出てたゞ茫々たる洋中に數日へて此島に至り人家は更なり草
木鳥獸までも見馴ぬものゝみなればかの龍の宮にいさなはれしかとおもふはかり
也爰につきしは石炭を積入船の少し損したるを繕ふとなれば七日程は滯船するよ
しなれば陸にあかりて保養せよとコモトールせつにすゝむれど和親にもあらぬ國
なれば遠慮せしか爰には合衆國のミ、スドルも在留して親しき國なり客舎も設け
たるよしすゝむれは誰もく數日の航海に疲れて病る人の如き姿にて陸を見ては
實に大旱に雨を望むか如くなればすゝめにまかせぬやかてテロールの指揮官案
内して端舟に乗りて出ればポーハタンにて祝炮十七發打たり波戸塙に上れば黒色
甚しき男女もわかぬ斗の大人蟻の如く集りてさへすりける中に兩馬の車ありテ

十五

ロル手をとりて乗るべきよしすゝむるまゝ正興をのれ同車にのれバテロルも同しく三人のりて御者鞭を揚れは一走りに市町五六町過て客舎に至る下司の人に家司までもをのく車にてはしりつきぬ此宿は佛蘭西の商人爰に來り客舎を營しとそ板屋根二階造りにてめぐりに椽頬有入口開戸窓板敷にして間毎に寢床あり白き薄ものを掛たり我國の佛寺の如し二階と下の部屋々々にて未々まで皆入たり二月中旬なれど縁陰の景色は五月頃の如し青葉などいと珍らか成心地して誰もく悦ける齧といへる魚の有ければ作り身にして食しけるが美味なるたとふるにもものなし一兩日過て用ゆれば貯たる酒とり出し一酌せしか再生の心地して今宵は快よく寝たり

○二月十五日晴けるが折々村雲はしりて雨ふるどく起出しが氣力をまして誰も心地よしとていそみけり午後二時の頃より例のテロル案内にて正興をのれ忠順森田行一同人下司四五兩馬の車に乗り客舎を距る事三四町にて王の公館に至る爰は外國人接對所案内の者出たり門の左右扉皆白壁にてぬり玄關よふの所は我寺院の如堂の前にさまくの草花紅白艶をあらそふ石燈籠の臺の如きものあまたあり是は植木鉢を器に登れば惣して白壁にてぬり四面大になる玻璃鏡を掲く鏡毎の前には卓を置陶器に雑花を挿ひ左右間毎に寢床ありて白き薄ものを掛たり正面凡三十疊敷はかりの席を布き椅子余多を設く次に浴室有小間あり皆見巡りて元の正堂に出れば此島

の官吏來り對話するに日本使節を市中の旅店にさし置は忽忙の間とは言なから失敬の事なれば此公館に移れよと王命なるよしせちにすゝむれと程よく斷たれば渠も快よく領掌せりやかて同車にて元の客舎に歸る

○二月十六日けふも折ふし雨ふる此都府の少し後は高山あり雲を起し風あらく此頃は梅雨成よし冬は暑も残りこの節は此地の冬なるよし左れと西瓜の熟したる有くたもの數々有てバナ、芭蕉椰子多し朝夕は袷にても晝は單衣にてよしきのふけふ四方の景色を詠るに春ながら青葉すゝしく茂たるは時鳥も鳴もやせてかと思ひ朝夕の風の音は秋ふけたるかどうたかひ折ふし時雨めきて雲のはしりて村雨のふり來るさま四の時をわかぬ風景なり

春秋をわかぬ詠はかんだんの夢路をたどる心地こそすれ

鳥は見へねと曉の鶏の聲はかりは古郷にかはらねは

鳥か鳴く東をもなしほのくどほのるゝ鳥のはるの曙

けふも二時前八時頃よりテロル案内して市中を遊歩せよとすゝむれは人々打つれて歩行よりそ行南の方海岸寄に王の居所有塀など破れてさひしき山寺の如く本堂めきたるもの二字はかりみゆ海岸より山手まで一里はかりも人家あれと商人の軒つゝきたるは二筋三筋の通りにてよき家は練化石瓦の厚きにて造りたる二階家なり外は板屋根多し商人は皆歐羅巴米利堅の者なり人民過半は西洋風俗なり土人は

男女とも色黒く女は髪の毛長く黒し長き丸形の櫛をさし毛を巻て前より見れば櫛のかとはかりみへてつもの有よふに思はる實に畫ける鬼女の如し杳もはかす鹿末の衣をまとひて鹿暴の人物なれはいやしめられたり瓢の大なる者を二つに切て荷ひ魚野菜など賣歩行なり市店こゝかしこ立寄りみれば異なるさまなれど今は神奈川の横濱を見ればあやしども思はず書屋に寄てみれば新聞紙日ノ評を摺立たるか皆機關なりかたはらに一人立て車を轉すれば數のくるま運轉して墨を點する所も有り又た紙を狹て引入るれば下より押あけて文字顯れ其まゝあなたへ反して紙を入替ればまた狹て引込速に車をまはせは見留る間もなく見るかうちに數百枚を摺上たり仕掛の奇成こと筆には盡しかたしなほ活字を製する具其他さまざま大小數種の機械有り所々歩行するに人も珍ら敷見物すれど穩順にして心易し夕方旅宿へ歸りけるか久しかりにて歩行せしまゝ草臥て心地よし

○二月十七日折々雨午後第一時に此地に在留せる合衆國のミニストルポーハタンのコモドール例のテールホル旅宿に來り渠等にいさなはれ正興はしめ例の車に乗りて王の居所の乘なる役所めきたる堂に至る門内左右に兵卒並たてりケールケール堂前にて車より下れば階上に一同出迎一席に入惣体白聖にて塗り玻璃鏡を掲て美麗なる席なり王の高官ミニストル三人風俗米外に同に官吏四五人對話初ての禮を述今度合衆國へ使節の命を蒙り航海はからずも此港に滯泊して品々世話に成りし謝辭を述

れは渠等も懇切に答けり盤上にコップを銘々に與へてサンハン酒をすゝめける斗にて濟たり車に乗りて歸る合衆國の鯨漁船近きうち此しまより函館に航するよしなればよき便とて書翰贈られよとテールホル言ければいさうれしくて江戸の同僚へ恙なく此島に來りし航海のあらましを言贈家の文も遣しぬ函館に行くとなればをのれより在勤の同僚へ書翰そへて出しけるかゝる二千里外の孤島より便するも珍ら敷事とも也後に三月中旬函府に送し夫より江

○二月十八日晴此島の王日本使節に對面の事を乞けるよしテールホル言出しか親しき國にもあらねば程能斷けれど各國かゝる禮にて斷ふは禮を失ふよしなれば領掌してけふ午後二時八時と約しけるまゝテールホル案内にて先に一見せし公館に至る國は旅衣の長も同しことな此館へ王の弟なる上將軍カメハメハ名迎として來るは先所より從者一禮して王の乗車をもてむかへけるよし懇に述けりやかて堂前より乗車例の兩馬左右飾有りて美麗也正興をのれカメハメハテールホル同車忠順森田行一車成瀬日高一車名村五八郎立石斧次郎一車都合四車順々乗つれて騎兵四人左右にしたかひ一走りに王城に至る凡三破れたる大塀石門を入れは左右に銃兵一隊つゝ立並ひたり使節の入るを見て號令官劍を抜て號令すれば一聲に銃を下けたり門より正堂まで白聖にて送りたる三階四五十間もあるべし階下まで下車此所までミニトルス出迎ひ各手をとりにて階上に案内すれば右の方椽頬にて胡樂を奏す後

聞けは皆ボハタンハタンの樂合衆國のミニストルボハタンボハタンのコモトールケビティンケビティン人等を借りたる様子なり
 士官皆來りたり左の耳房に伴ひ王對面の順序を識しミニストル各出て挨拶有やか
 て正興は米のミニストルをのれはコモトール忠順はケヒティン森田行はティロル
 各手をとりて都而歐羅巴米利堅の風習にて賓客を誘引とすきは高官右の耳房に入れ
 は正面に王西面していさゝかの臺の上に立たり黒羅紗の筒袖にて米の風俗にかは
 らねど金のたすきめきたるものを肩にかけり側に通辯官一人侍立左右衛士十二
 三人有内四人奇麗なる花鎗のとき飾せしものを持北の方には士官と覺敷ものな
 らひにミニストル等陪從正興をのれ忠順王の前に進み黙禮すれば各の姓名を米の
 ミニストル披露王みつからたひはからすも日本使節に面會して恭よしはた碇泊
 中何事も不自由成べしなといとこまやかに述べれば名村五八郎通辯したり正興答
 禮して順々元の席へ退去彼の國の仕來りとして記録帳一冊を出し各姓名を直書せよ
 とあるまゝ各しるしけりしはしありて又最前の席に出る手續前の如し王の立し所
 に妃立たり名はエレマ年頃二十四五容顔色は黒しといへど品格れのつからあり兩
 肩をあらはし薄ものを纏ひ乳のほとりをかくし腰の方より未は美敷錦の袴よふの
 ものをまとひ首には連たる玉の飾ありて生るあみた佛かとうたかふはかり左右侍
 女數人妾と覺敷ものみゆ中には少年姿色の者も有侍女等は歐羅巴人を見へて色白
 く髪毛赤色多し風俗は妃と同じ後に聞は侍女と見へしハミニストルはしゆ士官又他國より在留官吏の妻娘成るよし妃の下婢は士官

正興はしめ妃の前にすゝめは會釋有 妃ならひに侍女退座妃は上將軍侍女も各士官一人つゝ手をとり誘引て後堂に入る 婦人も必男子の手を曳かれて此方何れも元の席に退きてミニストル等挨拶して階を下りて車に乗る此所までミニストル一同送るまた胡樂有りて最前の道を客舎に歸るつくくけふの有様を考ふるに海外の事情はたまさか漂流人の咄しを聞書せるもの見し斗なりけるはかゝる禮節もて國王妃に接對するは實に夢路をたどるはかり也左ればたわむれに

わた津海の龍の宮ともいはまほしうつし繪に見し浦島かさま
 王は金のたすき様のものをかけて飾有妃は前に語る如くあみた佛のことしされば
 またされ歌を

御亭主はたすき掛なりおくさんは大はたぬきて珍客に逢ふ
 なをとりく評して笑を催し日頃のうさも忘てふしぬ

○二月十九日けふは快よく晴たり午後一時にティロル案内にて先の公館に至る無程
 米のミニストル來り佛蘭西コンシユルセ子テール官名セケレタリス官名うちつれて
 來り和親の國なれば吊しよしなり直に歸るやゝありて銃隊ニヘロトン足並太鼓を
 打鳴して進み來り門内左右に列立騎兵一人門前より乗返して程なく馬車にて島の
 外國事務ミニストル官名キルリ官名來る堂内に入て三拜して進み王の名代として過

る日對面の謝辭を述たり壯ニミニストル使節へ對し王に謁見の禮節を施して御國威の
ル云ければ米利堅にても島王はいやせしめしこかくて歸りければ客舎に歸りかねて
と云ければ此方も王の如く送るもせしめしこかくて歸りければ客舎に歸りかねて
 七日と約せしこと出帆には間もあれどけふはポーハタンに行かんと荷物など車に
 て送り夕三時八時過る頃馬車にて波戸場に至り端船にのりてポーハタンに乗組た
 りこれも客船なれど家に歸りたる心地せしとコモトールに言ければいと悦たり船
 中士官等へ西瓜下輩へは鶏數十羽を贈る

○二月廿日快晴終日船にあり

○二月廿一日快晴午前十一時四時にテール案内にて正興をのれ忠順各下司一人つ
 づ伴ひて上陸例の馬車に乗りて公館に至る十二時に米のミニストル來りて程なく
 島のミニストル三人外に官吏四五人來りて對話したりこは過日ミニストルを吊し
 返謝なるよし也米のミニストルの家に招請せし事なるか狭ければ此公館へ夜に入
 七時五時に來よと言王も妃も伴ひ來るよし懇切にすゝむれと夜陰は出行せざる國
 風なれば忝なきことなれと斷ける第二時ポーハタンに歸る

○二月廿二日晴今夕王の別業に踊有けるとて招けるよしの書翰を贈りしか夜陰事な
 れは何くれと斷けれとポーハタンの士官等おとり催しあるは珍らしき事なれば暮
 ぬうちに參るへきよし切にすゝむれと御條約外の國といゝ殊に合衆國へ使節の大
 任濟さるうちは遊興などには出ぬよし言ければ渠も尤なりと領掌したり

○二月廿三日晴この頃在留の米人來り島の手ありの物語を聞けるにサントウキス諸
島檀香島支那人言白檀島を産するゆへかく云 大小八島有小なる方ワホ島のホノル、港は王府也人烟多
 し往昔黒色の土人住居て百年前までは人を喰しといふ二十年前までも小屋掛にひ
 どしき家おいさゝかありしが獨立の王國となり今は第四世アレキサンドルリホリ
 ホカメハメハといふ歐羅巴の教法を用ひて政事も風俗もおなし土産更になし薩摩
 芋を産して常食となす牛馬は多し大平海の孤島なれば米利堅のかりホルニヤの邊
 次第に開らけて支那印度海に航するには能船かゝり場なれば西洋各國より商人來
 り住して商賣壯に成て輸出入の税を收納して國用に充しよし也過し年英國よりこ
 の島へ軍艦をむけ王を虜として彼の王府に送り唯一隻の軍艦もうははれけるよし
 今は一隻もなしかくて英王此島は所有にしてせんなしとて王を返しけるよし其後
 各國の官吏來り住て逐年人家もふへけるよしされは過半歐羅巴人殊に米に近けれ
 は此國に隨從の姿なり

○二月廿四日夜來雨ありしが午後晴たり

○二月廿五日晴て折々雨ふる朝十時四時正興をのれ忠順森田行といふに陸にあかり
 て客舎に至りてテール案内して在留せし米のミニストルの家を吊ふ二階造にし
 て本堂めきたりあるし何くれともてなし妻も出て親しく挨拶などして後堂寢床ま
 ても案内して更に隔意なし草花を好て堂の四面に花壇よふの所ありけるか此地は

熱帯中なれば奇花異草多し中にもおもその葉のごとくにして長さ七八尺はかり有百年に一度花咲といふ米人ゆへ御國産の品など贈けるかくて佛蘭西のミニストルの家もとひ忠順森田行は市店見巡りけるをのれ函館に在勤せしとき米人ヘーツ名といへる醫師來りて在留の事を乞けるまゝ家などかしなへて一とせほと世話せしか其ヘーツの父なるもの此島にありて刑法の官吏と聞ゆ日本使節と聞てこの頃客舎にとひ來り我子の安否を聞て其後度々來りしか渠の家に招けるまゝ正興といもにとひける市町を過て山の麓に尋て渠の家に至るあるしは更なり母なる老婆も妻も出て何くれともてはやし食盤につきて酒をすゝめけり例のサンハン酒ヘーツの妹なる少年にピヤナといふ琴にひとしき糸數條を推して音を發するものをしらへけるかナルゴルに似たる調子也やかて唄出るに其聲夜更て犬のほゆるが如し西洋音聲更にしたがいに聞ゆ笑に堪かねしかまきらしておさなき童に手遊など遣しければよろこぶさま其情かわることなしあるし夫婦親しくもてなしけるも我子の事を思ひての情なればさもありぬへし

もてはやすその眞心はかわかしな姿ことなる色香なからもかくて一同に午後二時ポーハタンに歸る

○二月廿六日晴第十一時に妃エンマ婦人あまた伴ひて船中へ來り程なく歸りて十二時に王ミニストル等を引連れて來る船中奇麗にして胡樂を奏し水夫は帆桁毎に數

百人立並て祝砲二十一發二度打たり國君を祝すは此數成よし水夫米國へ對して訊ひしことなれば此方關係なしされと對面を乞けるまゝコモドールの室に行て對話し祝盃對食などして暇を告て別れける第一時頃皆歸りたり船の繕ひも成りて石炭も積終り明日なれ出帆せんと聞ゆされは客舎の費用などひけるかこたひは王より設けし事なれば更に遠慮なしとドル言けれと條約もせぬ國にてかく有けるとてろの意にまかするは本意なしといへと渠は領掌せすされはのれ等より王にもミニストルにも御國の織物漆器など贈りて當座の謝辭を遞客舎のあるしなどにも品物與へて謝しぬ御國に歸りて此由を言上して政府より謝物を贈られける事になりぬ

○二月廿七日晴島のミニストル王の命とて暇乞に來りぬ佛のミニストルも來りて此程ひとし謝辭有りて第三時八時半砲を引揚て祝砲十七發ホノルの山の砲臺にて打ては船にても答炮有ホノル、港を出帆して洋中に出れば船は丑寅にむかひて颯けり

○二月廿八日晴東風七十五度西北經緯二百五十一度五十八分三十五秒港より百里

○二月廿九日晴東風七十三度北經緯二百五十四度三十九分五十一秒西二百二十八里

○三月朔日廿三日晴東風七十二度西北經緯二百五十四度四十三分四十三秒西二百四十六里

○三月二日晴北東風六十九度半北經緯二百五十六度三十四分四十五秒西二百六十六里

○三月三日晴北東風六十六度北緯二十八度十四分三十一秒西二百十里

十日あまり碇泊せしかはホノル、港を出て一日二日は心地あしけれと日毎に空晴て波もいと静なれば下の船室の窓を開てあれは風も入て心地よくいつしか船にも馴て打寄て食事もしたしめ甲板上に出て運動もせしましをのづからしくに成れば春の日の永きを覺けり港を出て見るものとは例のうき鳥はかりなりけふは上己なれば

うき鳥を友とてろみれ古郷は櫻かさして遊ぶ乙女子

とよみ出ければ正興古郷人にかはりてとて

君をおきてなど花鳥にるまるべき同じをもひに暮す古郷

と聞へけるかく興して心慰はかりなり

○三月四日晴西北風六十一度北緯二十九度五十七分二十秒西二百三十里

○三月五日晴西北風五十九度北緯二十七度四十分二分西二百四十八里

○三月六日晴南風六十三度北緯三十三度三十分二分西二百一十一里

○三月七日晴西南風六十三度北緯三十四度六分五分西二百六十三里

今曉二時前也北の方にあたりて都下にて火事の雲に映するか如く凡る三里はかりの間空の赤きこと紅の如くなりしか小半時はかりにして消うせたりかゝることは風波の前兆など言へるものもあれと夫は愚成ことにては北閃とて必北緯四十度の邊よ

り北にはまゝあることなりとて北は陰氣勝て陽氣ををさへるまゝ地方近き邊には陽氣を蒸發するゆへなりとそあやしむことなかれと士官水夫等まで人々に告げるよしをのれは寝てしらすけふるの事て遺憾なりまたありなは告よと言しか其後此事更になし

○三月八日晴西南風六十度北緯三十六度五十七分十九秒西二百七十里

サントウキスにては五月頃の季候なれときのふけふは又寒くなりて御國の彌生の空にかわるることなく夜船の上に出れば月はかすみたり米利堅のカリホルニヤの地方へ近しといふ

古郷にかわらぬ影をあふく哉かりほるにやのはるの夜の月

○三月九日雨六十度曉ふかくサンフランシスコ港の入口の山にある常夜燈彼ライストい見へるとて船にて炮聲を發す天明の頃スクー子ルといふ船寄て一人乗移りけるこは水先案内のよし登は遠見所にて帆影やへ次第乗出し夜分は燈火を目當に砲發よし何れの港も此規則はたなし此港の新聞紙とて出せしに御軍艦咸臨九十五日以前着船せしとるしてありけるよし語りぬやかて港口に至れば左右高山入口一里ばりもあるべし港に入て巖石の島有これにそひて三里はかり入てサンフランシスコの市町の前に至りて碇を投しける朝九時半五半なり余多かゝりたる船のうち合衆國の軍艦はさらなり英佛の同じ船も皆御國旗を槽に引揚て祝砲を打臺場にて

も二十一發を打ければボーハタンに答砲有其砲聲鳴る神の如く烟り晴てみれば山
 すそに人家建つゝきて波戸塲には男女群集して賑なる街市なりサントウキスより
 は大に勝りて家屋も四階五階造にして美麗にみゆやゝありてまた碇を引揚蒸氣の
 みにて靜に舳ける兩岸の間凡四五里もあるべし次第に狭くなり左右すなをなる山
 々木立はなし牧牛馬また綿羊飼立たるか蟻の如くにみゆ赤くまた黒く種々奇なる
 岩島所々にありて風景よし午後三時に過也子ビヤールトの船製造所へ着船かゝる大
 艦も陸地へ付てつなきたり此地は入海の奥なる河口にある島なり北緯三十七度四
 十二分 二分 昨日の正午より百五十里サントウキス島ホル、港より二千三百三十二里
 といふかくて威臨丸へは攝津守喜毅朝臣木村勝麟太郎大御番練所 佐々倉相太郎
 山本金次郎濱口奥右衛門鈴藤勇次郎肥田濱五郎松岡馨吉小野友五郎中濱萬次郎伴
 鐵太郎以上教授 岡田井藏根津欽次郎赤松太三郎小杉雅之進以上手吉岡勇平 鐵所小
 永井五八郎同上 牧山脩郷木村宗俊 醫師 水夫五十人火焚十五人大工一人鍛冶一人乘
 組正月十二日に品川を開帆して神奈川に至り米人ブルーク去人名 測量船の船將也
 時風波の爲に船損して用ゆる事あたはず便船にて歸へらんとい外に士官二人水夫
 八人を雇て勝麟太郎を海外初ての航海なれば此人々を雇はせ給ふこと也正月十九
 日浦賀港入して水を汲を出帆して四月十日にて二月廿五日此地に着船せしよしな
 り喜毅始誰もくといひ來り今朝いとはやくボウハタンのみけるよしサンフランシ

スコよりテレグラフも告しとて待かねて來りしよしかゝる異域にて御國の人に
 逢しは常の旅とはかはりていとなつかしくとみに言葉も出ぬ計なり互に安寧を賀
 し航海の辛苦を語あひけるか此御船も風波の爲に損しも多し殊に綱具諸の道具な
 と古きゆへ用ひかねて難儀せしよしなりブルークは殊更功者なれば北緯四十三四
 度まで北へより航けるゆへサントウキスへも寄らす直に此地へ來りしといふ御
 船の損し所を改けるに中々手重の修理せねは歸帆ならぬよしにて渠等懇切にあつ
 かひて御船の修補専ら取かゝりけるかくてボーハタンハ石炭を積入るゝまでさの
 み日數も費さぬよしなればそのれ等はそのまま船にあることゝす

○三月十日曇て折々小雨十二時に陸にありて子ビヤールトのコモドール名官の家をと
 ひけるか海岸をはなるゝこと三町ばかり入口にひくき柵門有家は五階造外面は練
 化石もて造り三尺はかりの開戸石楹あり十五六疊はかりの席を布窓は硝子障子内
 に結の薄ものを掛けて以て美麗もあるしもてはやし家婦子供まで出て親しく酒をす
 ゝめたる御國の産の新刀白鞘一腰を贈りければ喜悦の体也家の四面草花あまた植て
 美事なれば案内を乞て見逃るにサントウキスと違ひ緯度も御國の下總邊と同じけ
 れは季候も違はず草木のことなるものもなく少しつゝかはりし花はあれと目馴し
 もの多しやかて暇乞して家を出て隣に喜毅の旅舎有これも屋造同し士官の家をあ
 けて客舎になせしといふ此客舎に至れば喜毅は三階にあり勝麟太郎以下も此家に

止りしといふや、物語して船に歸りまた夕かけて此家に行久々に湯あみして心地よしはからずもサンフランシスコの統領はた官吏五六輩とひ來りてはをのれ等を明日なん招とす迎に來りしよしなれはるのま、挨拶して歸しやりぬ統領は此部にして尤高官なるかかく案内もなく忽卒に來忠順と森田行は今夜一宿せり正興を打つれて家を出ればはや初更の頃なるか春深くかすめる月影に見渡せはことなるものもみへすいと長閑なる景色いはんかたなし

異國といへとも同じ天の原ふりさけ見れば霞む夜の月

などい、つゝ船に歸りぬこの頃神奈川へ商船の便り有けるとてふみことつてんとありければうれしくとどりく無事のこともはた航海のありさま杯言やりぬけふ摘たるいとめつらかなる草花を紙におして

古郷の人に見せんと異國のことなる花をねくるひと本

と文のはしにかきて遣りぬ

○三月十一日曇折々雨朝とく昨夜面會せし統領はた高官の吏人ボーハタンに來りコモドールタツテなる引合せにて改て對面すれば迎に來りしよしを述て歸るやかて十一時にタツテナルはたテイロル等案内にて正興をのれ忠順喜毅各下司の人々を伴ひて少なる蒸氣船アクテイウ名に乘れば胡樂を奏し統領むかへて室に入つてもてはやしける森田行はボーハタンに殘りたる船を出せは番船にていふ番船といふ義

常なり大砲數十挺備大守る何れの港にも有則浮蓋橋なりて御國旗を掲て祝砲十七發ありはボーハタンにて答砲有一發にして止けるは如何成ことかとあやしみけるかサンのせざるは恥たるさま也されは怪我せしよしテレガラフも告げるか此方へは咄しもちの事なり八時前サンフランシスコの波戸塲に着機橋の長さ六十七間幅五六間もあるべし蒸氣船直につきて船より馬車に移る正興をのれと統領タツテナル四人同車喜毅忠順テイロル同車はた下司家司までも順々車に乗連て出れば男女群集して見物したり街市縦横にはしりめぐりて見物の爲め無益の道を旅宿に至る町並のホテルの事也五階造りにして練化石もて造りたる大家也三尺の入口を入て長八間幅三間はかりの席に花毛氈を敷てあまた腰懸を設けて有此席の入口の邊に姿色の婦人あまた見へけるまゝ目馴ぬ事なればあやしみければ後には何方もかくあれば國風のことなる事と覺へたり統領はた高官の人々挨拶して歸しければやかて階段をのほる數多廊下有て爰かしてへ通して部屋く有三階に至る正興をのれ忠順の部屋をさためけるか正興の室に集りてけふの物語などしてふしぬ部屋毎に寢床をもふけ白き藪ふのものまた奇麗なる陶器有

○三月十二日春雨しめやかにある客舎の窓は硝子なれば座して市中を見渡すに練化石もて造たる三階より五階まで家建つらね屋根は平にしてブリツキ鐵のを張天水

を家のうちへ取りて其水を遣ふよし塔の如きものまたは煙り筒高く出しあるは風車の大なるもの家根に造り有こは機關を運轉して物品を製するよし往來の人は馬又一疋の車に乗り荷物を運ぶも商ふものも馬車にて負擔のものを見ず道は凡五六間も石を敷て車道とす兩側軒下は板敷にして歩行のもののみ往來する也客舎のむかふに市中自在に引て用ゆるガスタンブの元有石炭を焼て其氣をくたに引ゆへに油火は更になし十二時に統領はた高官の吏人訊問とて來りたれば殊更に挨拶して歸しやりぬ今朝十時に喜穀はタツテナルとにも子ビヤールトへ歸りけり

○三月十三日晴十一時此地に在留せし英咭喇魯西亞佛蘭西はたサルジヤのコンシユルとひ來り和親の國の人々は江戸に在るミニストルの安否杯をどひ親しきもてなしけるゆへサルジヤの人はねたきさまにみゆ此港より凡百里も隔たるカリホルニヤの奉行より書記官を使にこし日本使節を招度よし述けれと急く旅なればとて斷ける和親にもなき國の官吏より招請するといふは不審なきと外國普通の情とみへたり十二時にコモドールタツテナル船將ピーソン等勝麟太郎を誘引て來り兼ての約なれば午後二時より統領の招きに應じて例の車に乗連て市町屋に行て方五十間はかり柵しはたしたるうちにてをのれ等の車を見ると祝砲十七發打たりイットホウあり盛三また三四町能き家並の町を行てサンフランシスコ部落の惣役所なるよしにて門はなく入り口階段に熊毛の冠り物したる銃卒左右に列すけふは殊更見物男女

群集してこの邊の道路寸地も見えぬはかり也タツテナルピーソンテール等に誘引れて階段を登れば統領の他官吏出迎ひ案内して又階を登れば戸口を入長十間に巾八間も有へき板敷にして向ふに高さ四尺はかり長三間はかりの床あり花毛氈を敷椅子あまた有り左右正面折廻し二階の機敷の様に柵に造りて吏人めきたるも見物す正面には樂人赤き筒袖にて數人有て胡樂を奏す席中惣して白聖もて塗り天井に三とこ牡丹の咲きたるかと思ふはかり硝子の玉に造りたるか七つ八つ付たる金のかな物にて釣たりこはガスタンブ成べしさて統領案内してむかふの床にのほれば町噂の挨拶有り凡文武の官人百人余りもかわるく來り各名のりて手を取て行や、過て下の板敷に市町の役人どて江戸の町役人類なるべし人充滿したりテール挨拶するよしにて大聲を發すれば一同に帽子をとりて黙禮して出るこは使節に市中人民まで禮を述しといふことなる由英佛魯蘭のコンシユルも來りて面會しかくて有合の酒をすゝめむとて別室に來れよと統領案内して階段を下り兩開戸の口を入れば十間に六間はかりの廣き席に飯臺三側に設け白き絹を掛種々の草花を挿さまくの形に造りし菓子よふのものも金銀もてつくりたる食物杯飴りて饗膳の体なり正面に統領左右に正興おのれ忠順はた下司の人々勝麟木郎各の間にタツテナルピーソテール和親の國々乃コンシユル杯はさまり夫より文武の官吏下輩まで凡百五十人も一同に飯臺につき各コップ大小五六を與へ各盃とす皿を置て肉のあ

つもの數々引替出す大なるコップに氷を一くれ入てサンバントいふ酒をつき思く
 に食したりやかて統領立て食盤を打鳴らさばはるかむかふに立たる人受て又打鳴
 らせは胡樂止席中靜になれは統領何か大聲にいと長く述べは座中一同に立て大聲
 を三度發しワッペン一同に盃をかたむけて手を打あるは食盤を打鳴らし胡樂も始
 り其聲耳を覆ふはかりなりこは何事やらしらねと人の眞似して酒呑もいとおかし
 後に通辯者に聞は日本使節來りけるを悦て我 大君を祝し奉るといふ事を述しよ
 し也又統領立て始に同じくすれば使節を賀し條約取結の事を祝すとて盃をかたむ
 けたりやゝあつてタツテナル立てをのれ等に代りて華盛頓の大統領を祝して盃を
 傾ける夫より各國のコンシユル等互に賀し席中の未々まで思ひく言葉を設け
 て祝し盃を傾けるか祝詞の勝劣に寄て手を叩はよし盤を打は次なるよしサンバン
 酒の瓶の口を切音は砲聲にひとし席中かまひすしき事言葉に盡しかたし我もく
 と祝詞を述ていつはつへきとも思はれすされはテロルにかきりなしなどそゝの
 かせは渠は能心をしりて立て統領にさゝやけは領掌せし様子にてやかて立てまた
 盤を打鳴らしけふは日本使節を祝して酒宴かきりなければはや納むべしと言けれ
 はるがまゝ各座を立てをのれ等は謝辭を述て立けるか最前の如く胡樂にて禮を正
 しく一同送り馬車にのれは統領みつから送るとて同車して波戸場に至る爰にて手
 をとりけふのあつきもてなしを謝して別ける小舟にのりて少なる蒸氣船に移りて

夕第四時頃より颯けるか第七時合子ビヤールトへ着てポーハタンに歸る人を打寄
 てけふの事とも語合てうち笑ふ凡懇親を表したる禮と見れば眞實も見へけれと又
 をしりて見れば江戸の市店などに爲人足などいへるものゝ酒もりせるはかくもあ
 るべしとおもはる異境の事なれば左も有へけれとかくまで事かわりたるもてなし
 は夢路をたどる心地なり

仙人のすみかもかくやこと人の世に珍らしき圓居也けり

○三月十四日晴きのお送し蒸氣船歸るよしなれば統領に刀白縮緬船將オルトンに縮
 緬客舎の主しへ陶器杯贈りてきのお殊更の變應を謝して遣りぬ森田行塚原昌等き
 のお残りたる人々に此船にてサンフランシスコに行たり子ビヤールトのコモト
 ル頃日の怪我を下司もてとひけるに此人は過し年メキシコ名地の戦争に左の眼を破
 りしかこたひ右の眼をいためけるよしにて妻子はいと愛ける様子なれとコモト
 ルは天命なればせんかたなしとあんしたるさまなれと次第に快氣に成べしといふ
 夕かた喜殺の旅舎に行て物語などす此子ビヤールトの小屋く一見せしか三十間
 餘も有大棟外は練化石もて造り蒸氣仕掛にして種々の細工場五棟有此細工場諸器
を造るさま目を驚かしたれど華盛頓に行て見れば此邊は更に不
監よつて華盛頓の所に委しれど記すゆへにこゝは略記するなり
 ○三月十五日風雨コモトールタツテナルとテロルはをのれ等より先に行て大統領
 へ告て使節を迎るの用意せんとてけふなん少なる蒸氣船にのりて十二時出帆せし

かポーハタンにて祝砲十五發此の數なる由船中一同甲板上に出て聲を揚て別を告
 る此タツテナルは數日同船せしか篤實にしてかつ勇剛戰爭には毎度功あるよしを
 のれ等初ての航海を以て信切にいたわりて恭なし士官水夫等まで心服して徳を稱
 じける外國人といへば惣督にも成る人物は平凡ならざるもの自然の理なるべし抑
 此サンフランシスコの部落は北米利堅のカリホルニアのうちなるか二十年前合衆
 國にて買取子ビヤールトより川上三十里はかりにして金銀山を見出し盛に産出す
 るによりて宇内の金相場も下りしといふ他邦の人も此稼をするを勝手にゆるしそ
 の掘得し金銀は皆買上る事よし此港は人家も少くいさゝかの村落なりしか江戸
 の内海に似たる地勢にて船繋によければ西洋各國の商船輻輳し近來清朝争亂絶へ
 す此國人避て多く移り支那町といへるには漢字もて看板杯出したる家三四町建つ
 きたり僅二十年來なるよしなど今は繁花にて都會の港となりぬ西北向山の麓に
 て我函館の地勢に似て人家稠密なり砲臺ニケ所有三段に砲門有りて練化石もて造
 りたり波戸塲は五六十間も杭にて棧橋を造り大船直につきたり碇船の船もあまた
 有波戸塲の入口に柵門直に運上所有其かたはらに病院も有り我威臨丸の水夫病る
 もの五人はかり此所にて療養したり街市は凡長三十町横十五六町もあるべし能家
 作つゝきたる町は三四町も二三條にして未は明地多し此地は金銀を産するゆへ貨
 幣を造る所有水銀は近き邊より出しといふ此外産物は更になし神奈川に航する商

船函館に行鯨漁船は多分この港より出るとぞ

○三月十六日晴て寒し威臨丸の修補は渠心を用ひてこの月のうちには落成にもなる
 べし抑此御船は使節警衛の爲なれば巴納麻地に至るへきなれどかく修理に手間と
 りてはせんなき事になりかつ渠の事情もやゝしければ威臨丸は爰より御國に歸
 ることゝすされは喜殺はしめ暇を告て別けるかくて十二時に子ビヤールトをポー
 ハタンハ出船す番船にて祝砲有發十七タ四時にサンフランシスコ波戸塲の邊に碇泊
 ○三月十七日快晴森田行はた下司等はこの頃此町に至りしかけふポーハタンに歸る
 金貨幣を鑄造する官舎に行一見せしに蒸氣仕掛にて見るうち數百の貨幣鑄るよし
 純金へ銅をませ湯になりたるを流して棹に鑄て夫を板に延へ圓形ハルに打抜耳を
 やすりにてすり是等は女の業なるよし目方を掛改て表裏へかたを打よし惣人數三
 十人もあり金庫には棹金山吹銀夥多數有しと語るを聞たり

○三月十八日晴雨定らず統領はた官吏四五人暇乞とて來りければ此程の饗應を謝し
 威臨丸の修理水夫の療養など厚く挨拶して別れける船將の所用も濟たるよしにて
 タ五時半過也時サンフランシスコ港出帆臺塲にて又祝砲船にて答砲有港口を出る頃
 日没して洋中に出て午に向て帆ける

○三月十九日晴西風五十六度北緯三十五度五十七分二十四秒西港より百十七里
 今朝少し地山をたにみしか夕方またかすかにみゆ碇泊せしゆへ心地あしけれと波

静にてさのみ事はなし

○三月廿日晴西風六十三度北緯三十二度四十分二秒二百五十里

米利堅のガリホルニアの地方にそひて行事なるか三百里もへたちて航するゆへ例の如く四方雲水の外見るものなし

花鳥の色音もしらて此春は雲と水とを詠くらさん

○三月廿一日快晴西風六十四度北緯三十九度三十分一分六分五秒二百四十里

○三月廿二日快晴北西風六十五度北緯三十八度二十五分六分五秒二百十里

○三月廿三日快晴北西風七十二度北緯三十二度四十分一分五秒二百一十一里

サンフランシスコ港を出て南にひかひてきのおけお北緯も二十度に至れば日影は薄暑を催し彌海穩なれば舟の上には日覆ひを張りてはせけるが日毎に晴て青海原かきりなく例のうき鳥をのみ見て春の日もくらしかぬるはかりなり

浮鳥をともしなふ春の海原や永き日影をくらしかぬる

○三月廿四日快晴東北風七十四度北緯三十九度四十分一分五秒二百二里

誰もく船暈の心もなく船の上へのみ出けり此邊は米利堅のメキシコ地に近しと聞ゆ

うきふしも馴るればなれて春の日の長開を覺ゆめきしこの海

○三月廿五日快晴北東風八十二度北緯三十九度三十分一分五秒二百十五里

○三月廿六日快晴北東風八十五度北緯三十七度三十分一分五秒二百十三里

次第に暑を催し裕また單衣帷子思ひくに着しけり海上は曇を敷きたる如く藤九郎なる鳥もみへすべといふ鳥有り形も藤九郎に似て愚成る鳥なれば船上にて手捕にして遊ひたり

○三月廿七日快晴東風八十七度北緯三十四度三十分一分五秒二百四里

○三月廿八日快晴東北風八十七度北緯三十四度三十分一分五秒二百三十里

○三月廿九日快晴東風八十九度北緯三十三度三十分一分五秒二百十五里

○三月晦日陰東風八十五度北緯三十一度三十分一分五秒二百十五里

この頃は彌生の霞のけしきも水無月のてる日の影となりけふは太陽の直下を過るよしなれば正午には物の影を見ずこれも久しく聞しことなれど今初て見る事也けふは風少しありて凌よし

くわいりし春の日數もあるものを何いそくらん水無月の空

○閏三月朔日四月一日晴東風八十一度北緯三十九度三十分一分五秒三百里

はや巴納摩近ければ調度など陸揚の用意せよとあれはどりく支度をなし船將始士官等まで久しく世話に成し謝辭を述羽二重縮緬などそのほとくに分ちて贈け

○閏三月二日陰東北風八十五度北緯三十九度三十分一分五秒二百八十里

○閏三月三日陰夜雨東北風八十六度北緯八十二度四十二分西二百四十里

○閏三月四日快晴南東風八十六度北緯七度二十分西二百里

○閏三月五日晴夕方小雷雨後晴東北風今朝五時半過る頃中米利堅イスパニヤ領なる巴納摩の港に至り海岸より凡三里も沖に碇を卸す昨日の百卅里北緯八度五十七分一サンフランシス港より三千四百七十二里といふ此港は少灣になりて遠淺にして島嶼多く或は虎に似たりまたは龍のわたかまりたる形も有て奇景なり船二艘かゝり米利堅の合衆國の軍艦ランカストル名船は二年つゝ勤番なるよしコモトールタツテナルの乗來りし合衆國の飛脚船有テイロルは此船にむたりランカストルのコモトールカヒティンはテテールポルハタンもとび來りやかてスクー子ルに似たる船來りて荷物を積川蒸氣船にて曳て行ぬけふのあつさ堪かねける程なりしか夕方地方には火雲山の如くみへけるかやかて風きそひ雲起りて雷鳴はためきけるか地方はかりにして舟にはさのみ雨も強からず晴ければ

鳴神の雲もあしとく雨晴て巴納摩の浦は夏の夕なき
くわゝりし彌生ともなく鳴神やけふのあつさを洗ふ夕立

○閏三月六日晴今朝第六時半過川蒸氣船迎に來りローノツク號の船將例のテールなどひかひに來りしかはポーハタン船將ヒートソンはた士官等舟の上に送り出で數日同航せし名殘をおしみ手をとりて別けるかをのれ等も外國人といへど初ての

航海御國より數日辛苦をともにせしかいと心厚くいたわりける真心をねもへは御國の人にわかるゝ心地してけへり見勝なり

姿見ればことなる人とおもへどもその真心はかはらざりけり

乗馴しポーハタンを出て川蒸氣船にのれはランカストルポーハタンとも御國旗を引揚て祝砲有十七ほどなく巴納摩の波戸場につきこの街市はホノルにも劣りて人家少くいと危なる家なり波戸場に大なる屋根有りて川蒸氣船直に着たり此屋に蒸氣車あり見物人夥敷銃卒出て制したりカヒティンテール案内にて此車に乗れば此港の官吏ハスバはた在留せる英佛其他各國のコンシユル妻子を誘引て見送りて何れも同車して先一番さきにたつ車に蒸氣を仕掛て黒烟を發し機關運轉して車の四輪をめぐらす御者一人機關を覆ひたる上に在り次に順々七八車をつなきたり蒸氣に近きは烟りかゝり音もかしましければ極の後にあるを上席とするよしゆへに蒸氣に次たる車には荷物を積み其次に輕輩のもの次に家司下司杯乗りて終の車にをのれ等はた謁見以上の下司まで乗たり一車凡長七間巾九尺はかりにて左右三尺おきに窓數々あり硝子を用ゆ堅に道をあけて左右腰懸を仕付て横に四人つゝ並て廿八人乗内廻り金銀のかな物織物などを掛けていと美麗也見送りて男女あまた乗たればめしるの枝にたし合に飛とし鐵路とて車道は薪を割たる如き木を横に並へ其上へ



て左右へはつれぬ様に作りたるもの也やかて蒸氣も盛んになれば今やはしり出んと兼て目もくるめくよふに聞しかはいかゝあらんと舟とはかわりて案事けるうち凄まじき車の音して走り出たり直に人家をはなれて次第に早くなれば車の轟音雷の鳴はためく如く左右を見れば三四尺の間は草木もしまのよふに見へて見とまらず七八間先を見ればさのみ目のまはる程のこともなく馬の走りを乗るが如し更に咄しも聞へず殺風景のもの也一時^{時我半}はかり走りて家あり休所と見へて車を止此家に至ればパンに酒杯與へてしはし休らふ巴納麻は季候極めてあしく他邦の人は一泊しても必煩ふよしなれば陸に揚れば速に車にてアスヒンワル^{名地}に達し直に船にのる事とすしはし休らひて見るに暑は甚しくいかにも濕地にして雨あかりに日影のてりそふ如くいと心地めしく速にはしるは尤の事に思はる送り來りし人々この所に殘ければ車のうらくつるきたりかくてまた走るに高き山は切通しに成りて左右しまの如くみゆまたむかふより車はしり來りて行違ふときは僅か一尺はかりを隔てゝ更に見とむる事もならず一瞬に過けり道の曲りて見通し成らぬかまたはむかふより車の烟りみへければ蒸氣の筒のちいさき穴のふたを轉すれば螺を吹か如く其音聲山にひゞきて能く通したり鐵路の左右に丸太を建て銅の線を幾筋も引て有こはテレグラフなるよし道すから詠むるに凡平易の山々雜木繁茂して四時綠陰なるよし椰子の木は殊更多く^{能く似たり}芭蕉の實の多くつきたるかあまた有所々

に牧牛羊も有耕作の様子などは更になし五町十町を隔てゝ土人の小屋あり椰子の葉もて屋根を造り我蝦夷屋にひとし土人は男女黒色甚しく歐羅巴風にて極て庵末也地味は黒くけとふ土とかいふ灰の如し山川地理まで我蝦夷の黒松内越といふ新道によく似たりやゝ中道に至れば川有てむかふに人家多くみゆ爰はパナマとアスヒンワルとの間にパナマより出し車は此所までアスヒンワルよりも此所までにて互に繼かへることなるよし使節の車は通して行くとす此地は中米利堅にてイスパニヤの所領なるか鐵路たけを合衆國にて買得て五年前に成就せし其費用七百萬ドルと云ふ車の數も多しこれは合衆國の富商言合せてこしらへしとそこの邊は赤道下に近ければ目馴ぬ鳥もみへて極て異草奇獸もあるべしと思へど輻の鳴雲の中を走るか如く何ひとつ見留るひまもなくはやアスヒンワルといふ港街に着ぬ森田行

奇獸珍禽簇異花有椰株處兩三家眼前風景難看取電激奔過露露車

と聞へければをのれも口とく

雲にうかふ仙人もかくいかつちの車はしらし岡越の道

今朝第八時に^{五半}パナマを發して第十一時に^{四時}こゝに至る四十七里半^{我ニナリ}といふいと速なり此町は家數もパナマよりは多く各國の商人商買の爲に設し會所よふの大家に至る港は少灣なれど東を受船かゝりよき港なり家の造りさまサンブ

ランシスコに同じしけれど熱帯の地なれば風の通すよふにして様頼もありて我家作に似たりやかて小舟にのりてローノックといふ合衆國の軍艦に乗組たり船の上に胡樂を奏して提督出て迎ひ船室に入る此船は蒸氣スクリフを燃たる車水中にありブレガット軍艦ローノック號長三百十七フート我五十二巾五十四フート我九大砲五十二挺二段備千八百五十五年ゴスホルト名にて製造三千四百噸我二萬四千石積といふ提督メクロニー名船將カルテチル名同次官六人醫師三人勘定役一人僧官一人軍兵指揮官一人同次官一人蒸氣機關方頭一人書記官一人測量方一人同見習一人水夫頭二人大砲方一人帆縫役一人機關方七人兵卒ソルタ水夫ロスタども惣人數五百四十人乗組四ヶ月以前より使節迎船のため此港にまちしよしポーハタンより船大なり甲板上廣く艦にテッキとて高き所あり真中に左右のへりへ橋の如く造りて有士官等此所に上りて指揮する也二段目の艦に船將の室左右にコモトールカヒティンの部屋有外廣く左右大砲六挺はかりをはつしてあらたにカームルの部屋を仕付砲門を窓となして能き部屋也忠順部屋次に正興をのれ合部屋にして寢床二段に有森田行下司まで三人四人つゝ合部屋にして家司は對食所を仕切て部屋とし其余は大砲の間に幕張して部屋とすれば船は奇麗なれど都合はあしくポーハタンのテール使節の爲に此船に有て何くれとあつかひコモトールメクロニーは威儀正しくカヒティンカルテチルは實直にて氣の輕き人也隔意なくもてなして心易く予思はれけ

るやかて船室に打寄て例の酒肉もて饗應ありて物語せしにメクロニーは過し實の年合衆國の軍艦あまた連てコモトールベルリ名はしめて我國に來りし時ポーハタンの船將にて來りしといふまたベルリに次たるアーダムス名は此港の番船のカヒティンにて此船に來り昔語するに我國の事は能しりたるさまにほこりかほなるもにくき人物也されは今にガヒティンにてありけり

○閏三月七日晴八十八度今朝第九時にアスヒンワルの港を出るとて

岡越の巴納麻の車とく過てあたらの海の舟出成けり

十五里地方にそひて夕第三時にポルトベルロといへる港に入て岸につなぎたり深き入江は十町はかりにして雑木繁茂したる山裾にいさゝか人家有てなたの北の岸に岩清水流るゝ所へ船をつなぎ極もて水を引入けり此水を船に賣るとて合衆國より來りて夫婦小屋に住けり此邊は歐羅巴人コロン闖龍なるものはしめて米利堅の地方に航し發見せし地と聞ゆ南米利堅の地かたなり清水のもとに人々行けるか草木茂りて細流に鰐魚の子とてとかけの大成ものにて三尺はかりもありしとて猿多く一種のものにして手足長く尾も又長く尾の先自由にはたらき木の枝などに尾をもて下りまた立て歩行形奇也面は眞の黒色此船にも飼てあれは人々もてはやしけり

ましらまで姿ことなること國にかはらぬものは夕月の影

○閏三月八日晴八十五度きのふより水も充分に貯たれば夕第三時ポルトベルロ港を

出帆して赤岩の奇成島にあるを見て沖に出来は子丑に向ひて帆けり

○閏三月九日晴陰定らす東北風八十七度北緯七十八度五十八分西緯七十九度五十九分港より九十里けふは地山もみへす風つよく動搖甚し

○閏三月十日晴東北風七十八度北緯七十三度〇四分西緯七十度三十二分百十九里向ひ風強ければ蒸氣はかりなりしが動搖きのふに同じ

○閏三月十一日晴東北風八十二度北緯八十五度四十分西緯八十八度四十分百三十七里此邊開礁の多き所とて船將甲板に出で繪圖にあわせて心を配るさま也

○閏三月十二日晴東北風七十九度北緯八十八度三十四分西緯八十二度三十四分百八十三里

○閏三月十三日晴東北風八十度北緯九十一度五十七分西緯八十四度五十九分百七十三里夕第四時七ツ頃より北東にキユバ島みゆる次第に近く成て凡三里はかりはなれて航す島はイスパニヤ領して此邊第一の良島多葉粉コーヒー豆豆の類にて防寒によし歐羅巴に茶の代りに用ゆ砂糖を産す地方凡百里もあるべし見渡したる所は山もなく緑陰一帯の地にみゆ海燈一所有りてそのかたはらに少し人家有夕陽のかかやきしがみるうち島のうへに月の出たる風景よし

夕日さすきゆはの島やま暮そひてあたらの海の月に成空

○閏三月十四日晴東北風七十三度北緯九十三度五十七分西緯八十三度四十七分百九里今朝もキユバ島みへけるがきのふにかはりて連山波濤の如し此港にイスパニヤより兵三萬を備けると

そ

○閏三月十五日晴東北風七十九度北緯九十四度三十七分西緯八十四度三十八分百七十里

赤道下南北緯度十度までは四時とも晝夜平等時なればパナマの前より短影に成りて我國の春秋分のことし風は二十度までは北東風のみ常に吹て餘の風更になし二十八九度より北によればさまくの風吹來り波もあらく成るよしこは熱帯なれば冷風を送り短日なれば晝のあつさも短し四時大暑なる地は天よりかく成し賜ふ實に天地間は不思議なる事ともなり

國あれば人は住むなり天地の恵にもれぬ四方のうみやま

○閏三月十六日晴北風七十九度北緯九十七度二十四分西緯七十九度四十一分百八十二里頃日水夫のうち重く病るもの二人はかなく成ければ帆木綿もてなきからを包み足しの方に彈丸をつけて船の上に出せは僧官來りて經よひさま也コモトールをはしめ士官まで一同出て送る様子なるかやかて胡樂を奏し船の左右より海に投したりアスピンワルに久しく滯泊せしゆへ病るもの多しとて皆恐るゝさま也都て船中にてはかなく成るものは士官以上取置て何れの港にても土葬しコモトル杯高官の人は硝子の器に入て本國に送ることにて水夫等は水葬なるか普通の法なるよしとあはれなることゝもなりされど水夫如きものにもコモトールまで出て送りしを見て我國人はあやしみけるは彼は禮儀もなく上下の別もなく唯眞實を表して治むる國なればかくせし

ことゝみゆ

○閏三月十七日晴北西風八十二度北緯三十九度五分二百二十三里夜來順風なれば蒸氣を止てスクルーフを引揚あまたの帆をあけて舳けるか夜半よりまた蒸氣を用ひたりスクルーフ車鐵の輪ワリガキの大なる重もさ數十貫の車を手軽く引揚又卸すと自由也きのふけふ次第に冷氣になり日も永くなりければ暮しかねけるまゝそこら尋ぬるに水夫とも木の實をもて種々の彫物をしたるありこはアイツレノットといふハ其名ハイツト木の實を由我栗の形に似て肉白くかたき事象牙の如しアスピノワルノ邊に多く産するよし士官等に乞ければ三ツ四ツ與へけるまゝ人眞似して根付を彫りしに誰もく同しく此事をはしめけりまたバムルノットといふは我びわの實に似て皮を削れば椰子の如しやしはコケノットといふ惣して熱帯中に生る木の實は堅實なるものとみゆ

○閏三月十八日晴西南風八十度北緯三十三度四十分百四十六里

○閏三月十九日陰午後雨北東風六十七度北緯三十四度三十分百七十三里

○閏三月二十日陰東風六十一度北緯三十九度一十分百八十三里夕第七時半華北米利堅の合衆國紐育ニューヨークの入口サンテブツクといふ所に碇を入たりはるく萬里の外の海路さわりなく着ける事のうれしくて誰も上陸を急きたる折しも水先案内のもの來りて日本使節此港よりあかりては都合あしければ直に華盛頓に參るへきよし

し大統領の命なるよし告來りければテーロルは上陸して蒸氣車にて華盛頓に行きて迎船の用意するどて別ける船中一同本意なき事とて其儘碇泊す北緯四十四度四十分正午より七十八里アスピノワルよりこの港まで千九百八十二里といふ港口の前に大なるしま有テアグ島とて周廻三百里あるよし港の街市までは三里もあるよしなり

○閏三月廿一日曇東風船出の様子もなければ何ゆへなるやとコモトールメクロニーにとひけるか爰より上陸の事をテレグラフィもて華盛頓に達しけるまゝ此夕刻までには答もあるべしといひぬされと船中士官等皆此港の人にて久しく他邦に在勤してけふ歸帆なれば妻子もとりく迎ひけるよしにて上陸を希望するもことよりはりもメクロニーもはからひ兼しさま也

○閏三月廿二日晴北東風船出の様子もなければかくむなしく過るは本意なき事なりされは何くれとメクロニーにすゝむれば順風なれば舟出せしなと聞へけるか十二時前碇を引揚てサンデブツクを出帆してもと來し海路に舳戻しけり

○閏三月廿三日晴北東風地山は見へねと都府に近きゆへにヤスク子ール位の船しばく見掛たり夕第五時半華北ハムトント地名へ着船爰は華盛頓の川口の外へ少し南に寄たる大灣の港なりサンデブツクより二百里餘といふ士官一人此邊の炮臺有所に行て使節着船の事をテレグラフィもて華盛頓に達しけるとぞ江戸の海を開帆

して此港まで一萬二千九十九里半なるよし凡萬里の波濤といへるはこそわざにのみ聞けるか實地を涉りて恙なくつきぬる事のいとうれしきて

神と君の恵なりけりわたつ海の萬の波を涉り得し身は

また來りしかたをおもへは遠き旅の空のあわれもふかき春の夕暮なれば

あめ理かの山に入さの影は今我うら安のあさ日なるらん

此港は東に海をうけて星國とはや、夜反對なれと東へ程度三十度寄てあれは彼の夕陽は我朝日なる事をしるなればかよくし也あやしむ事なけれ

このローノツク船も名譽に成ければとて船將の室にて盃を舉て祝しけりコモドールに刀鞘カビティンに脇差同上士官等には蒔繪のコツフ杯そのほどくくに與へたり刀劍は宇内の絶品とて殊更に悦びけり

遣米使日記中

○閏三月廿四日晴午後雷雨又晴今朝此港を見渡すに左の出岬に炮臺あり少し隔て白聖もて塗りたる大成る堂有學校とて三四百人も集るよし人家もつらなりてみゆ港の奥の方に島を炮臺になすとて普請の様子にみゆ岸より一里餘も隔たれば遠望なから一圓平原雜木繁茂の体也かくて朝第十時頃フルトルヒヤと名付たる川蒸氣船長さ二十間餘もあるへし櫓はなし屋形造りにして舳に御國旗を建其もとに樂人二十人はかり赤き筒袖白き股引にて冠物も花やかに種々の樂器を携艦には花紙を引揚てけふをはれと粧ひ飾りて左右の火輪白浪をけたて、帆來り此ローノツクの傍に碇を入れたりやかて例のテール先立てカヒティン名シユボント名同リイ名ロイテナント名ボルトル來りて面會せしか此人々はペルリ我國に來りし時船將にて渡來せしゆへもあれは此度使節の馳走役に命しけるとろシユボントは殊更に大統領より委任状とて見せけり彼の外國事務ミニストル名レウキスカス名の名代とて同し鯨なるレッテヤールト名面會すれば航海の勞を慰使節渡來忝よしを述べたり通辯にはホルトメン名といへるを命じたりとて引合ける是も先年下田に來りし人なり此港の炮臺に詰けるコロチル名をはしめ士官あまた悦に來り道すからなれば炮臺を一見せよとすゝめけるまゝ諾して歸しやりぬ荷物杯は別船にて送るよしなれば手元の調度はかり携下司家司杯は先へ川蒸氣船に移りやかて案内あればメク

ロニ一日頃の挨拶して船上に出れば一同送り來り端舟にて川蒸氣船に乗移れば胡樂を奏しロノックにては祝炮^十七を打て水夫は一同數々の帆桁に登りて立並ひ同音に大聲を發したりては暇乞の禮の尤厚き事なるよしシユボント等案内にて船中を見巡るに上の段左右に部屋あまた有其前に花毛氈を敷たる廣き室なり端の一の部屋をそのれ等三人の部屋と定め中段には廣く席を設對食所なり又其下の段の家司どもの部屋とすかくて對食所に案内して一同食盤につきけるか金銀の傍したる菓子よふのもの造花などを建て、心を盡したる饗膳と見ゆ例の酒肉をすゝめけり第三時に船を出し二里はかり颯て炮臺の前に着船コロ子ル官等出て案内し波戸塲をあかれは左右銃卒^十ナリあまた立並ひ樂隊も有祝炮を打炮臺に入て見るに川口の海面へ造り出したる石壘高く桔梗の形に似て前面はかり堀の外に低壘有炮門有火庫所々に有て我^五砲臺の新築せ合衆國第一の炮臺とて周圍一里直經六町あるよし少し後のかたにコロ子ル官はた士官兵卒までの住居有日々見巡りて改るよしなれば數多の大砲能みかきて有^十は言はるにそのれは地盤の事は深くしらねは得失のしはなれたれは軍艦の實用にはい、があらうん所々の砲臺を見しは多くは實物にして實用は實備は軍艦の方途に勝りし成へし懸して彼の軍法は虚にして實物にして實用は^{船名}ボナハタン(同上)ナイヤカラ(同上)皆彼の誇りし大艦なれと精兵は僅十二三人其^余はみなソルター(同上)マタイヤカ(同上)皆日風隊も全し都て何事も進退速なる故に我國人恐^屈れけれども手足の如く進退せし故也我國の義をもて一度彼をみちんにするは安き事也^{と思}ひりかこゝかしこ見巡るに士官の妻子など美麗なる姿にてあまた見物に出しか

花を贈りて親しきさまなり薄暮になりぬれば船に歸るやかて帆出し川口にてまたく暮はてけり夜もすから帆けるか兩岸見渡し兼る程にて追々せまく成ぬこの炮臺より華盛頓府まで百六十里といふ翌曉までには八十里もはしるといふ

○閏三月廿五日晴今朝第十時頃にや東より西に登る川の右なるインジニヤ名地といふ所の棧橋に船をよせて魚類はた牛乳など買入直に船を出してきのふの如く饗應有此川筋左右は更に山なし平原雜木繁茂して見所なし折ふし小屋掛の人家有て我蝦夷の石狩川にひとし河水は運流にして濁水なり此頃雨ふりて出水せしにやと人々^ふ洪水の濁さは此川は川上^不毛の廣原谷地を自在に押流して落る川なれは濁水なり^き今此川も上流は谷地^不毛の地多き懸なるへしのはや華盛頓へ五六里にして左に木立こもりたる中に大成る堂見ゆ爰は藝祖華盛頓の起りし所と言又少し行て右に石垣の炮臺よふのもの有ては華盛頓の墓所^何府にも墓有けるか爰もなるよし此ところには必ず船を止て樂を奏し各帽子をとりて禮拜して過る事とす禮なき胡國といへどかくするは自然の理なるへし此邊川中二町計もあるへし川蒸氣船に男女あまた乗りて帆るにしはく行逢けるか互に蒸氣の筒を鳴らして螺の如しこれを合圖に船をかはして行違と矢の如し洋中とかわり船も輕きゆへ帆るいとしく兩岸の風景流るか如し二里はかり行て右に人家多く建つゝきたる村落有やかて水上遠く華盛頓の街市見ゆさすか都府なれば人家もひねくしく中にも大統領の居所右に

職事堂高くそひえ目馴ぬ人家塔の如きものなどあまたこゝかしてに旗を建てどなる風景霞にこもりて見るは畫ける盛氣樓の如し

河舟にのほりてみれば霞たつ華の盛のみやこなりけり

第十二時に九時街のはつれなる子ビヤールト船製造海へ着船爰は都府の總海軍所とて手廣く搦へたり頭役とか吏人の總代とて着の歡に來り陸には男女群集して家のうち外屋根までも登りて見物すやかてをのれ等にジュボント始各誘引て陸にあかれはコモトール官ブカナン名人出迎これもペルリ渡來の時船將にて來りし人なり其他五六人出て挨拶せしか見物人充滿して道もなきまてなりそか中に新聞紙屋とてうこら馳歩行何か書しるすさまなり後に聞けは速に其日の新聞紙を摺立賣出すとのよしかなたの二階には寫眞鏡を掛けてをのれ等上陸の体をうつすよしなりさて板を敷たる上を三十間ばかり行て美麗に飭たる四馬の車にのる正興をのれにジュボント添て同車右順森田行同車夫より順々兩三人つゝ同車して下司家司まてはあまたの車數なり騎兵あまた乗つれ胡樂を奏し銃隊足並を正し先へ二銃隊龍行車の左右に銃卒列行惣跡よりも二銃隊龍列行子ビヤールトの門を出て街市に出れば五階七階の石造の家また練化石の家も有見物夥しく所々にて鐘を打鳴らすは敬するの心なるよし兩側の三四階の窓には婦女子多く花をたはねたるをのれ等の車に投入るこは婦人よりは花を贈るを禮とするよしなれば使節を敬するの心なるへし

少し進みては止り二三町行ては休けるか我國人を見物の爲なるへし物見の車あまたはせ違ひ往來も家も人滿たるさま江戸の祭の如しかく見物蟻集せし事は華盛頓ひらきてより初ての事なるよし言けれと我國へ對しての言葉かとおもひけるか左にあらす何れの國より使節來りても風俗もかわらす殊にひとりふたりの事我は鎖國なりしか初て海外へ出風俗制度も獨異れり人員も七十人に及しはいと珍らしくおもふもとはりなり凡二里ほど行て客舎に至るこの家は方一町もあるべし四辻の角にて五階造の大家美麗を極たり正興をのれは合部屋にして十五疊はかりの席なり例の花毛毳敷て椅子あれどもこれは片付て褥を敷て平座す彼の人には入さるよふに成しとどりく打寄てけふの道すからの物語などせしに見るもの皆奇なれば笑に堪かぬる事も有けり外國事務ミニストルレウキスカスへけふ着ぬる事を告はた對面の事を書翰もて達しけるかくて食事の案内あれば二十間に六七間も有席に食盤を設け着の悦なればジュボント始對座し下司等まで一同に盤につけ入立派成饗應例の酒肉をすゝめけり此客舎は暫時滯留する事なれば彼は朝八時五時半午後三時八時半兩度を常食とし晚五時六時半に茶を用ゆいさゝかの肉をそへてパンを食する事なれとをのれ等には我國の食事の時に調へよと言けるまゝ三度の食時を告げれば別席にてかくしたりこわ心を用ひしと覺ゆ

○閏三月廿六日陰午後晴此宿はしはしなからも旅舎とさためければ浪のうきねより

は少しは心も易くなりぬ玻璃の窓より往來を見るに大路廣く石を敷き兩側二間通りも少し高く煉化石を敷樹木を植て中は馬車はせちかひ軒下は男女歩行すると絶へずさすか都府なれば車も多く賑やか也石を敷たる道を鐵輪の車にてはしりければ其音かまひずしき事朝より夜半までも話しも聞かぬる計いどうるさしけふコンダレス官の人ワイスフレシテントとて大統領の次官なるよしはた高官の人々七八人來り面會すれば議事堂とて國政を議する局なるよし外國の人は入ぬ事なるか我國は格別なる事とて此局に招事を衆議一決せしと言書を贈りて不日一見を約した

○閏三月廿七日晴けふ十二時にミニストルレウキスカスへ面會の約なれはとく支度せしに供人など省略して參るへき由ジュホント等言けるまゝをのれ等も旅服のまゝ家司も兩人つゝを連れて各下司をしたかへ例の馬車に打乗ジュホントはしめ案内して客舎を出て此屋をまはり二三町にして大統領の構に隣し高堂に五階にして石造なり至る爰は國事館とて外國事務金藏方其他の諸局有よし二階に登り扣所に案内してやかて別間へ通しけるか二十疊敷はかりの席にて外國事務ミニストルレウキスカスに面會こたひ使節の命を蒙りて渡來の事を述我外國事務宰相よりカスへの書翰を渡し迎船の事をはじめサンフランシスコにて威臨丸修理のとまで厚く謝しける渠も使節渡來の事は大統領殊更に悅國民一同歡喜のよしはた合衆國諸部落一見い

たさは案内せんと述けりあすなん大統領謁見の事を約したり此席は外國事務ミニストル日毎に詰ける局なるよし机を設け書籍など取ちらして少しもとりつくらふ様子もなく唯平常の体にし面會しカスの婢レツテヤールト名其他高官の人々五六人來りはたカスの孫女其外婦女にあまた引合て挨拶せしかかる公館に婦人の出るはあやしみけるか後には國風なる事をするカスは七十有餘の老翁なれど丈高く穩和にしてさすか事務職と見へて威もまたありけり外國の使節に初て對面せしにいさゝかの禮もなく平常懇志の人の來りし如く茶さへ出さず濟ぬるは實に胡國の名はのかれかたき者とおもはるかくてもと來し道を客舎に歸る明日謁見の禮をジュホント等にとひけるか更に何の心得もなし我國風にてはかゝへよと云けるまゝ我國に在留せしミニストル名トウンセントハルリス名か我

大君拜謁の禮を見ならしてはからふといへはそれにてよしと答ければ我國にては禮を重んずるときはその席に出て習禮とて其とふりせし事なれば謁見の前にはからひ給ひかしと言ければ彼にはなき事なれど大統領へ告るとレツテヤールトとみに出行しかやて歸り來り明日は都合あしければ今參るへきやといへど夕景なれば斷て行かすこたひの被遺物は明日は都合あしければ他日受取へきよしを言けるまゝ諾し置ぬ

○閏三月廿八日陰十二時に大統領の謁見なればけふをはれととりく支度せしか豊

前守正興狩衣太刀巻をのれ同しく太刀形忠順朝巻太刀各烏帽子は叡森田行布衣成瀬
 正典も同じ御用中調役徒目付素袍徒目付格なれはかき勤通詞は八耶村五麻の上下きて正
 典にはジュボントをのれにハリイ忠順にハレツテヤールト各附添て四馬の車に乗
 車の取後をのれ等も下司もけふは供を連たり正副使森田成瀬侍二人給一筋草履取以
 へはねたり客舎を出れば先に鼠色の羅紗の筒袖きたるもの二十人はかり立並ひの類
 推すへ次に樂人三十人騎兵五六騎次に御國書入の長持赤き革履ひ掛たるを梓に入昇
 せ定役小人目付通詞附添次に正典をのれ忠順と下司まで順々車に乗つれ左右ケ
 ル隊一行に足並して樂を奏しつゝ行に大路は所せきまで物見の車はた歩行の男女
 群集かきりなしをのれは狩衣を着せしまゝ海外には見も馴ぬ服なれば彼ははいどあ
 やしみて見るさまなれどかゝる胡國に行て皇國の光をかゝやかせし心地しおろか
 なる身の程も忘れて誇り貌に行もおかしやかて大統領の居所鐵の柵門有入て七十
 間はかりも行て堂の前に至る騎兵歩兵我供人まで此所に至る車より下りて直に石
 の階段を登りひと間ふた間をすきて扣所に至る正副使監察の席として森田行以下
 各別席に有をのれ等か席楯圓の形にして七間に四間もあるへし花やか成藍もて文
 を出せし敷物前に三口玻璃の障子にして内に戸張を掛け是も全く色の織物なり四
 方に大成玻璃鏡を掲前に卓を置我國の蒔繪の料紙硯其他さまく飾りて有こはべ
 ルリ渡來の時遣はされし物と聞ゆ此席にレウキスカス出て挨拶して退ぬやかてジ

ユホントリイ左右に附添謁見の席へ案内す成瀬正典御國書を持ちたり御國書の金泥
料紙内箱は総柄内張大和錦金粉イツカケ紅のひも純子を服たる上置に入紫糸の席
總付此器出す上箱は黒塗り紅のひもなりこれはジュホントへかねて渡し置たり席
 の入口に至れば兩開戸を明たりむかふへ五六間横十二三間もあるへき席の正面に
 大統領フ名ハブカントイ左右に文武の官人夥敷後には婦人あまた老たるも又姿色な
 るも美服を飾りて充満したり正典をのれ忠順一同に席に入一禮して中央に至り又
 一禮して大統領の前に近く進み正典御掟の趣たからかに述べは名村五八郎通辯し
 たり成瀬正典御國書を持出しければ正典御書とり出し大統領へ手渡しにすれば箱
 は正典よりカスエ渡す最前の通り中央に退けは森田行調役徒目は一同出る此時自
 分の禮を述て扣所へ退去すればジュホント來りて我國の禮は右にて濟しやとふ故
 濟しと答ければ又出よと云まゝ一同に出れば大統領手をとりて日本鎖國以來はし
 めて和親を結び第一合衆國へ使節を立られし事又統領はさらなり國中の人民歡喜
 限なきよしはた厚き御掟の趣御國書賜はりし事とも殊更に忝なきよしを述口述の
 横文を渡しけり高官の人々五六輩も手をとりて挨拶すれと限りなければ余は一禮
 して席を出るかくて最前の通り旅舎に歸る夕第四時過ハ半時にジュホントレツテヤ
 ールト案内にて外國在留のミニストルはた自國のミニストルの家をどひけるは普
 通の例なるどてすゝむれと和親の國のミニストルハ左もあるへし和親にもなき國
 の人はどおまじと斷ければ諾しけりされは旅服に成りて馬車一二輛にうち乗りい

とく走りめぐりて其家の前に至れば名札を御者にもたせて取次に渡すのみにて
 我名札は國字にてしるし車を下らす濟ぬは輕便の事なり數軒なれどとくはしり
 誰の家なるやしらす過ける中に英蘭のミニストルの家は通りて面會せしかいと美
 麗なる家にて妻子と出て逢たりかくて夕方歸るうち寄てけふの有さまを語るに大
 統領は七十有餘の老翁白髮穩和にして威權もありされど商人も同じく黒羅紗の箇
 袖股引何の飾もなく大刀もなし高官の人々とても文官は皆おなし武官はイボレツ
 ト金にて造りたる總の如きもの兩肩に付袖に金筋是も三筋を第一とし二筋一筋
 洋各國のあり有太刀も佩たりかゝる席に婦人あまた装ひて出るも奇なり能く考ふ
 るに歐羅巴の事はしられどサントウキス島は國號なる故西洋の王國の風に習しや
 大に体裁有て婦人は別に面會せしなり合衆國は宇内一二の大國なれども大統領は
 惣督にて四年目毎に國中の入札にて定けるよしなれば今年十月一日に代るよし後
 入札なるか前にしるへからずといへは今の大統領の條有も國君にあらざれど御國
 のといふよされは此建國の法も永くは問敷と思はるも國君にあらざれど御國
 書も遣されければ國王の禮を用けるか上下の別もなく禮義は絶てなき事なれば狩
 衣着せしも無益の事と思はれけるされど此度の御使は渠も殊更に悦び海外へほこ
 りてけふの狩衣のさまなど新聞紙にうつして出せしよしなり初て異域の御使事ゆ
 へなく仰とを傳へけるは實に男子に生得しかひ有てうれしさかきりなし
 悉みしらもあふきてそ見よ東なる我日本の國の光を

あろかなる身をも忘れてけふのかくほこりかほなる日本の臣

○閏三月廿九日薄曇英國和蘭のミニストルキーのミニストルは名札はかり置て去りぬけふ大統領へ遣はさるゝ品々客舎に飾
 付て目錄をジュホントへ渡す其品々は眞の大刀一振馬具一揃紅厚ふさ掛物十幅大
 野住吉の畫家の筆なり翠簾屏風十雙純子豎幕一對ミニストルレウキスカスへ下さ
 れの品々鞍籠時輪に風風に目錄を添へはた正興をのれ忠順より大統領へ贈る蒔繪火
 鉢三同食籠一對ともに渡しけるとみに持行もせず三四日其儘飾置て士官男女日毎
 に來りていと珍らしかりて見物し新聞紙屋は其品を寫眞鏡にかけ新聞紙に出し杯
 して後に大統領のかたへ送りしなりかゝる品々大統領の所持にはならずその事と
 もを記録して百物館に納る事よし都て吏人へ贈りし品とても大統領出して彼の
 館に納る事とて己かものにはならずされは如何成品もワイフ妻女へとて贈れば
 我ものとなるよしなりかくてけふレウキスカスの招請なるか兼て夜出行はせぬ國
 風なるよしを言けるかどかく彼は夜陰をよしとし今宵第九時五ツ時の招なれどカ
 スの事なれば斷もなりかねて夜に入て例のジュホント等の案内にまかせて馬車に
 乗りて夜はしめて出しか車の前の方に硝子の燈籠ニツ有往來は兩カスの家に至る
 さすか宰相の招なればいかなる禮かそれもひけるに堂の入口より廊下も間毎に男
 女數百人たゝおし合充満してガストランプは天井に夥敷掲げ金銀もて飾たる玻璃器

はり鏡にかゝりて白晝の如くいとまはゆきはかりなりてはいかなるどかどあやしみけり人をおしわけく一間に入ればカス出迎殊更に懇志の挨拶あり孫女子供もとりく出て手をとりたり椅子にかゝりければ席中男女れし合はるかはる來りて手をとりて挨拶すれば通辯も届かね何か更にわからず雑沓極りたりジユホント手をとりてかなたへ案内するに奥の一間に至れば饗應の席と見へて大なる食盤に金銀もて飭たる中に旭章と花簇を建て和親を表する事とゝう爰にて酒肉をすめけりやかてまたあなたへ案内にて行は一席敷敷をいと清らにしてかたわらにミシユッキとて胡樂に胡弓よふのものを添へてはやしけるか男ハイボレット付け太刀を佩女は兩肩を顯し多くは白き薄ものを纏ひ腰には例の袴のひろかりたるものをまどひ男女組合て足をそはたて調子につれてめくるとこま鼠の廻るか如く何の風情手品もなく幾組もまはり女のすそには風をふくみいよ／＼ひろかりてめくるさまいとれかし是をダンスとて踊の事なるよし高官の人も老婦も若きも皆此事を好てするよし數百人の男女彼の食盤に行て酒肉を用ひてはこの席に來りかわり／＼隔る事とて終夜かく興するよしなれとをのれは實に夢か現か分ぬはかりあきれたるまてなりジユホントをそゝのかして主に暇を告て客舎に歸る凡禮なき國とはいへど外國の使節を宰相の招請せしには不禮とどかひれは限なし禮もなく義もなく唯親の一字を表するど見て免るし置ぬ

何事も姿を葉のとなれば夢路をたどる心地こそすれ

女子は色白く艶にして美服に金銀を飾りをなる姿も見馴しか髪の毛赤きは犬の目の如くにて興さめけり稀には髪黒く目もまた黒きものあり亞細亞の人種なるべしそはおのつから艶に見ゆ

思ひきや色香も深きたをや女の姿ことなる花を見んとは

○閏三月晦日晴子ビヤールのコンマンドル官新規發明の手銃とて數々持來りしがグユールの六挺かゞみさま／＼の元込の筒など各奇工を極めたるものなり夕第四時頃より大統領の方に奏樂有まゝ來れよと例のジユホント等案内にてけふはとそきて旅服にて車に乗りて行しか堂前寂寥として銃卒一人の守衛もなく正堂にのほり案内を乞ければボーイ下男也の一人出きたり堂内人更になし一間にしはしやすらひしか下婢一人見へけり客舎の下婢も全し凡て下婢はやかて謁見の日の扣所に成りし楕圓の席に通ししかけふの花やかなる敷ものもなく吳座支那製のを敷たり玻璃の障子を明て椽頬に出れば堂下一段低く見渡し方百間餘もあるへき廣芝にて中央に白石もて造りたる石燈籠の臺の如き者立て水を丈余も吹上たり其かたはらに臺ありて赤き衣服にて二十人も集り例の胡樂を奏し庭中一圓男女群集したるは萬をもてかそふへく思はるをのれら椽頬の椅子にかゝりて一見せしか大統領はた同じ姪女三人出來り挨拶してどもに見物せしが大統領は見得す成りぬ姪女のレエ

ン名は年齢廿七八位にて容顔美麗殊に秀才の人なり婦人云大統領の朋友此群集のうちにありて面會に行たり見わけよとて双眼鏡を與へけるか一様の風俗數萬の中なれば知らずやかて歸り來り何くれともてなし婦人はそのれ等の腰刀を殊にめてけり暇乞して歸らんとすれば堂内見巡よといふまゝジユホント案内して委く見巡るに堂一宇石造の五階にして二階より上は大統領の住居成よしにてゆかす下の段は表座敷の体なり先に謁見の席を第一の廣間とし中に廊下を設け兩側に六七席有更に人なく我寺院の無住の本堂に似たり所々の鴨居の上に白石もて造たる首あり代々の大統領の首なるよし我國の刑罰場に見しにひとし堂の西に出れば長さ三十三間余も有へき花壇を屋根まはりとも玻璃の障子をもて包たる故種々の異草奇花有造たる庭は更になし堂の後は前にいへる如く廣芝にして都下一圓に見渡し堂前は圓く樹木を植て左右に道を敷鐵柵の高さ五尺はかり成るが有のみ往來を隔て、向ふに廣き植溜よふの所に白石もて造たる馬大馬位也に乗たる勇壯の像あり是か三代目の大統領成よし日の暮る頃客舎に歸りしかけふの有様はいかなるや茶多葉粉も出さすたゝ椽頬にて數萬の見物に引出されしか便所をとへと此邊になければこらへよと云空堂を見巡りて歸りしは狐狸にたふらかされしかをあやしみてジユホントにどひければ頃日謁見の時堂内に充滿せし男女は中官以上の士官等使節へ對面の爲に出しが下官以下國中の人民使節に面會の爲にけふ庭中へ出し事なるよし

を聞てうたかひも晴にけり國君にあらざる大統領ゆへ一人に受し使節にあらす國中の人民までもるゝかたなく饗する心なるへしては合衆國の證也今宵ポーハタン船のコモドールタツテナルは紐育の邊なる曰か家に歸るとて暇乞に來りしか我國より世話に成殊に篤實なる人なれば日頃の厚意を謝し縮緬一疋を贈り別を告たり

○四月朔日廿五日晴て靜なりくゝりし春の日數もうきねの波にいつしか暮行けり此都府は北緯三十六度なれば我江都と季候もひとしく首夏の景色になりて袴を着して寒からずされと折々風はけしく吹しきりて雷も鳴暫時に晴たり朝夕晴雨定らずジユホント云渠御國に來りしか寒暑とも順序を追て正しく海外第一季候の能所と覺ゆ此華盛頓は暑中寒暖計百度に近き事もあれとどかく一定せず不揃の季候なるよしを言たりされは我國は中和を得し上國成事をしるけふは閑暇なれば此ホテル客舎のを殘る所なく見んと乞ければあるし案内したりまつをのれ等の部屋の次に十五六疊敷はかりの席あり各の家來詰ける次に廣間ふた間あり三十疊敷はかり成し花やか成氈を敷織物の戸張四壁に大なる玻璃鏡を掲げガスランプの器天井に三所つゝも掛美麗にして客對の席なり此の邊りはべ切て外にフルダート番をして出入を改む廊下を行て左へ曲り少し殿を登り又長き廊下に部屋くゝ有森田行以下司家司未々までの部屋くゝとなし出口には番卒有此邊我國人へ貸渡したれば他の人を入れず又廊下を行て見れば三十間に十間も有へき板敷の間に正面高き所に

大なるオルゴール有此席はダンスを催しましたはソント日曜に宗門の説法など人を寄せし所とみゆ食事場は一所は二十間に五間もあるへし一所は長五十間もあるへし食盤二かわに置いて八百人まで一席につくよし又蒸氣を仕掛たる所有百五十馬力の由機關を所々へ通して二階には洗濯する所有紙漉の舟の如きものにサポンを入れて布を数々入置は機關運轉して布をそきやがてとり出して臼の如きものに入置はいとくめぐりて水氣を去りまた取出して戸棚の中に衣桁の如きもの引出し是に掛けて入置は暫時にして乾たり

數多の洗ひもの下女一人にて扱ひ糞焚する所に行てみるに鶏の丸燻杯數百を鐵の串にさしながき田樂火鉢の如きもの、兩かわに建て機關の運轉にて一同にめぐりて程よく焼るなり浴室も所々に有けるか一疊はかりの風呂のうちはフリッキ葉を張り龍の口二所有水も湯も自由に出たり蒸氣にて送る仕掛なり惣体の部屋數五百有りて部屋毎に人を呼鈴の紐あり諸方より引纏て主し居る見せに鈴を掛並へ番付をしるして有六階造にして外廻りは石にて造り内は練化石なり六階に至り屋根に出れば平々にしてブリッキを張て砂利を敷軒は三尺程高くして船の垣立の如し都下一圓に見渡し高堂所々に有て塔の如きもの數々家作は煉化石の赤儘なるもの多くて風景は雅地更になし我都下の回祿の跡を見る如くにて華頓の名もつきくし此ホテルの部屋くくに皆旅客有遠路來りたるも又都下に勤むるものも商人の家もな

く客舎に住めるも數多あれは男女夥敷人數なりをのれ等出入の度毎には廊下にみちて見物し我國の品物の海外に稀なれば紙一枚も珍らしかりて争をふさまなり
○四月二日快晴パテントオヒース百物館といへる所に行て見よと例の人々案内して午後車に乗りて五六町も行ば高堂あり柱敷石まで惣マルメレン石燻石の如き石かへけるなりにて造たる三階の堂内に入ば華盛頓の獨立戰爭の圖はた寫眞の像杯の大なる額有左右部屋部屋有此局の頭役の部屋に行て挨拶して二階に登れば兩側數々の棚を玻璃の障子にて圍たるが三十間計もあるへし合衆國にて用ひし蒸氣機關はしめ種々奇巧の機關の雛形數百種有器物の農工凡日用各國の種類我國の農具其他の品も有り先年ミニストルハルリスに賜りし時服は其儘掛て有各國の條約書までも納たり蒸氣の雛形などはゆめく見まほしき事なれと男女數百人附纏ひていとうるさく我國人を見物とみゆされは一通り見めぐりて歸りぬ

○四月三日晴けふは御條約とりかわせの約なれば午時より例の人々案内して一同旅服のまゝ下司伴ひて車にのりて國事館に至るレウキスカスの局に至れば外に高官の人兩人書記官等出て更に何の禮もなく机の上にて御條約を取かわしたり御條約書は和文にて大和綿の表紙紅の糸もて大和綴にして奥書に外國事務閣老の名判また我 大君の御名と御判有武田蘭文の譯を添たり黒塗の箱銀銃紅の紐付服紗は紅綸子なり彼は英文にしてレウキスカスの名判大統領の名判有蘭文を添へ綴糸の

先を寄せて銀の丸き器に入れてラック如きの印章有銀のかな物打たる箱に入たり互に改めて取かわせたる證書此方は和文へ正興をのれ忠順名判してカスは英文へ名判し双方蘭文を添へて取かわしかくて旅舎に歸る夕第五時七時頃より是も約せし事なればジユホント案内して和蘭のミニストルのハウス宅のとに行三階造立派なる家なり席に入てミニストルはた妻子等まで出て挨拶しやかて別席にて饗應例の酒肉をもてはやし物語などするに此ミニストルは實直なる好人物にてレウキスカスの鯉なれば殊更にもてなしけるか和蘭國は二百年來通商の國なれば我國は親しきさまを顯し米人にほこり貌に物語するもさすかにくからず覺ゆけふもダンスを催しける事にや姿艶なる少年あまた來りたり庭に行きてよとありければいと珍しく庭に出れば花壇多く種々の草花有綠陰に小たかき所有て腰を設けたり此所は清らかにして休らひて多葉粉杯用けるレウキスカス來りて手をとりて殊更に隔意なき体にもてなし此ミニストルは蘭のミニスと和蘭より來りて我娘をうはむたりとたわむれなど云て去りぬかなたに帷屋を設けて何かもてはやすさまいかなればとへば大統領の姪女來りしといふ常はかゝる序にては隔てもなく興じけるも我等に對してかく帷屋にかくれし事なるよし蘭のミニストルは殊更にもてなしければ厚く謝して暮かた舎に歸る大統領の謁見濟でより此都府の高官下官の吏人等各妻子を引連れて面會に來りければ日毎に時を定めて逢けるが百人二百人にも及ぬ初

ジユホント云御國とは違ひて妻子を引連れ來り手をとるを禮とすれば煩はしくは斷へきやといふ其國に行ては其國の禮をもて對するとなればいとほしと云ければあまり日毎に數百人に成各名披露して老若男女のけちめもなくいとうるさじされと姿艶の少年などの手をとるは我國風にてはいとおかしき事也數人のうちつみたる花やまたは名札入などの軽き品を贈るも有是等は挨拶の品遣すとなりやとジユホントに聞じか我國の品物は殊更珍重するゆへ返謝すれば限りもなく贈り物せしに至りぬれば此度は品物の用意もなければ答禮も成兼るゆへ贈物は斷けるよしの書翰をジユホントへ與へよと云ては悉はからひなり都府の吏人といへとあまりの人數に成ればあやしみてとひければ三百里五百里の在方より妻子を引連蒸氣車にて走り來り滞留して我國人を見物するもの多し高官など余儀なき人計面會の事を乞けるが終には夫々の手筋を求て市人まで來りしとみゆれと一様の風俗にして更に見わけかたし今宵は此ホテルに滞留せし男女數百人逢たり面會とはいへとをのれ等立並て左右にジユホント等附添通詞出て入口を開けは一同に押入りて充滿し吏も妻女を先に出し手をとり黙禮すれば夫も次て挨拶し何役の誰あるは何々の功有もの我はベルリ日本記行を見てよく事情をしりたるもの何を發明せしものなりととりく己が功を唱へて挨拶するはとかわりたる事なり日毎に面會の体は我國の遊行上人か回國して男女に十念を授るによく似たりとて笑けり

○四月四日晴午時にコンダレス館議事堂也に行の約なれば例の人々が案内して車のりて
七八町東へ行はコンダレス館に至る長二町許巾一町許もある三階造の高堂惣体白
きマルメレン石もて造り屋根の上に丸く大なる楕の如きもの今普請中にて半組た
てたり正面の石の階段を登るに二丈もあるべし入口正面に華盛頓國初の圖其他十
まぐの額を掲げ所々見巡るに口々に番兵有評議の席とて案内するに二十間にさ
間もあるべき坂敷にして四方折廻し二階棧舖にして合天井の如く格子に組て金銀
粉色の模様ある玻璃の板を入高き事二丈餘も有べし正面高き所に副統領ワイスマ
イト前に少し高き臺に書記官二人其前圓く椅子を並へ各机書籍を夥しく設け凡四
五十人も並居て其中一人立て大音聲に罵手眞似などして狂人の如し何か云ひ終り
てまた一人立て前の如し何事なるやとひければ國事は衆議し各意中をのこさず建
白せしを副統領聞て決するよし二かひ機敷には男女群集して耳をそはたて、聞た
りかゝる評議の席のかたはらに聞ておしが何成と問べきよし云ぬれと素より言語
も通せず又とふべきとはりもなければうの儘出ぬ二階に登りてまた此機敷にて一
見せよとて椅子にかゝりて見る衆議最中なり國政のやんことなき評議なきと例の
も、引掛筒袖にて大音に罵るさま副統領の高き所に居る体杯我日本橋の魚市のさ
まによく似たりとひろかに語合たりまたこなたかなた見巡るに同じ席有けふ此席
は人なしこは合衆國諸部落の公事吟味ものを裁斷する所とそまたこなたに行は大

統領の來りし時の扣所とて見せけるか柱も天井も皆白石の室にて兩壁に殊に大成
玻璃鏡を掲げまたかなたに廣き席有椅子數多を置正面の白石の佛像めきたるもの
ありこゝは陰氣にして例の宗門を説所とみゆれと内評の席といふ總して國務は此
堂にて扱ふ事とそ吏人も多く常に大統領は出す副統領にて多分は事を決したるを
大統領は聞のみといふ國中第一の高堂美を盡したるもの也かくて客舎に歸る江都
在留のミニストルへ政府より便有とて告げるまゝ此程御使の任はて、御條約も取
かわせし事とも同僚に達す書翰認め各萬里外に在りて恙なき事ともの家書も添へ
てジエホントへ渡しけり歸國の後今に此便此ころこゝかしこより招けれともとか
く夜陰なれば國風とて斷其他所や止得さるかまた彼の所長を見て國益にも成へき
と思ふ所には行けるまゝ遊興は好まぬ國風とさつしてや今日此ホテルの廣き席に
て小供はかり集てダンスを催しけるか他所の事にはなし此客舎のうちの事なれば
しばし一見せよとすゝむるゆへ行て見るにガスタンブ夥しく照し八九歳より十七
八歳までの男女美麗に飜りて男女十人二十人程づゝ手をとりつながらてさまゝ
足どりしてあなたへなひきこなたへくゝり胡樂の調子につれて踊り男の大人一人
號令して進退する事種々有やがて女子一人四つ竹よふのものを兩手に持て踊さま
我國のおどりに似たりこは近き頃より初りしといふされは男女組合て風情もなく
めぐるは古風に成りて次第に巧手に移る者とみへたり一段濟ては見物一同に手を

打鳴らしあるは板敷を叩などしてほめるさま也目馴ぬ業ながら少年の踊にして少しは興ありけり

乙女子か立まふ花のかさしさへ姿かわれどさすがやさしき

○四月五日朝第十時四時頃也國事館に行てレウキスカスに面會し兩國間際の重事を談判せしが一通聞て委しき事はジュホントへ委任の事なれば旅宿に呼て談判せよとありければ其意にまかせて客舎に歸る午後二時八時前也子ヒヤールト海軍所なりへ行けどて例の人々案内し車に乗りて先頃上陸せし所なれば一里半もあれどひと走に此局に至る惣門立派に此所はかりなりに入はケエール隊樂人立並て胡樂を奏し祝砲有車を下れば局のコモドール名官ブカナン名入出迎案内して諸器製造の小屋に煉化石にて造りたる大棟十むねはかり其うち五つ所に蒸氣を仕掛こなたの小屋に至れば家のうちに反射爐有湯はさかんに湧たる様子其所に行けは湯口を切て前の土中に形有中へ火の溜の如く鑄込たりこれはホードホウイッスル野也集申なしむくに鑄たるもの也又こなたにストウムハムルとて鐵の高さ六尺はかりもある數千貫のもの蒸氣の仕掛にてをのれ等片手にても自由に上下するもの有下には鐵の盤有此家の隅にてめぐり三尺はかりもある棹鐵を燒て仕掛もて此盤にのせ庖丁を當て上の鐵をあけ十分に打てはひと打にて二つに成たり或は大鐵を燒て二つ繼て軽く打なからまはせは忽大なる碇出來たり蒸氣仕掛にて種々の細工をするさま目を驚かし

たる奇工筆にも言葉にも盡しかたし大炮の巢中へ錐を入外を削または大炮の彈丸見るかうちに百の數も出來たり手詰の玉ドントル管の製し銅板を延るなど殊に奇なり此機關は我國にも用ひなは國益は言はかりなしと思はれけるやかて外にて腰懸て休よとて一同並ひければ後にブカナンはじめ立たりけるかむかふに箱とり出し寫眞鏡に移しけり後に此圖を一枚つゝ贈れり廣き河端に出れば百五十ポンドの筒にて空彈三發ホートにて五發打たり此構のうちにもコモドールをほしめ海軍士官の家々ソルタートまでも住居有ブカナンの家に招て酒肉を出し各妻子を携來りねもころにもてなしけり凡數百種の機關の細工場ひとゝころも空なく皆細工をなし筒の鑄込まで時刻をはかりて其場に至れば鑄込の体を見せなどするは深く心を用ひし事成べしブカナンは我國に來りし時のことなど咄して酒をすゝめければ夕陽にも成ぬれば厚く謝して客舎に歸る

○四月六日晴今朝十時コンダレスの吏人等男女數百人群集して面會を乞ければ例の如く一禮して返しやりぬジュホント來り歸程を議するにをのれ等はもと來し巴納麻を越へて太平洋海を航すれば六月末か七月は歸朝も成りぬとポーハタンにて歸航せん事をタツテナルに語しか大統領に申てはからはんと云しを信しけるかいかによとどひしにポーハタンはサンフランシスコにて修理を加へければさは成かたく兼て大統領より命してナイヤガラといふ大艦紐育を出帆して南米利堅を廻り彼の

八月一日より五日則我六月迄には巴納麻へ着べきはつなれは着船次第テレグラフもて通達有し上出帆せよといふさすれは十五六日の遅延に成るまでなれは其頃をはかりて紐育を出帆せんと思ふされは本月十八日頃にも都府を發足の事と約しけりけふなん夕かけて大統領招請せしよしを頃日をのれ等はさら也下司までも大統領の書翰もて告げるまゝ夕第四時七時頃例の人々案内にて車に乗りて行例の楕圓の席に通しけるか大統領はた姪女三人レウキスカス外に高官の人々妻女引連て五六人來り挨拶して去りぬジュホントもて言けるはけふは賓客を饗するの禮なれば必婦人をしてもてなしけるか國風なれと御國にはなき禮なればあやしみ給ふらんと斷けるまゝ念頃の事と謝し置ぬかくて婦人出來り正興にはレエンをのれにはミニストルの妻なるもの忠順にも同じ森田行には姪女のいとやせたる老婆成瀬正典日高刑部の兩氏宮崎村山の警官拜調以上を限るまでとりく婦人一人宛附添て廊下をへたて、向ふの席に案内すこゝは十間に五間もあるべき花やか成席に食盤を設金の板に金の花瓶三所はかりに置花を挿金銀もて飾し菓子様のもの杯あまた有かく美麗の臺に我國のはんどゝもいふべき鉢に葡萄のなりたるを植て有陶器は此國になし染付の鉢などはなきものとみゆさて食盤の中央の向ふに大統領こなたに對して姪女レエン此右に正興左にをのれ大統領の左に忠順次に森田行成瀬正典横の方に日高刑部警官各のかたはらに婦人添またあひたくには高官の吏人有惣して

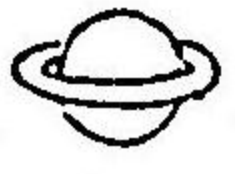
三十人はかり食盤につき通詞二人ををのれ等の後に立たりやがてあつものを出しさまくの肉など例のサンパン酒其他種々の酒などすゝめさすが大統領も對食せしとなれば少しはつゝましけなるか様子もしらねばかたはらの婦人の食せしを見て真似するもいとおかしレエンは亭主にひとしく何くれとはからひもてとなし權もあるさま女王の如く大統領は宰相のよふにみへける盃をすゝめながら我國の事ども聞けるが彼の風習に比してとひけるゆへ答もならぬ事多し大君の宮女は何人ばかりありしや風俗はいかなるさまなりやなどへとも程よくあしらひ置ぬ女は御國と米利堅とはいつれか勝れるやと言さすが女のとひふりといとおかし米利堅の方色白くしてよしと答ければよろこびあへり愚直の性質なるべしさて數々皿を引かへく十四五度に及ひ盃酒も濟ける頃箱子の大きな椀に水を入白布を添へて出しけりこはいかなるものかとそこら見まはせはレエン手を洗ひ口のあたりをそとぎけるまゝ其真似したり森田は手はやくとりて水を吞けるまゝ忠順かたはらにありて袖をひきければ心つきて手を洗ひけり貌見合て笑をこらゆるもくるしかくてもその席に出れはこの度遣されの品々馬具をはじめ銚子て有用ひ方など聞たり翠簾屏風は殊更に珍重し何をもて作りたるものとふ竹をもて造りたりといへばバ竹の事也くぞとめてけり竹は米利堅にはなし西姪女三人へ帶地に羽二重など贈ければ悦たりやかてけふの事ども厚く謝して旅舎に歸りぬ

○四月七日晴午後雷雨けふもコンダレス館の吏人とも男女數百人來り例の通り面會
 コモドールブカナンへ此程海軍局一見の挨拶に陶器の重箱に書翰をへて贈りぬ夕
 方同じ局のコロチル官の人來り閑談海軍の事に至りぬ種々奇工の手銃出來しが戰
 争にはいかにやとへは並通のグールにかきるといふさもあるべし

○四月八日曇けふはサンデイ日曜なれば國中何事もせぬよしなりされは人々どひこ
 す清閑なり着せしより日毎に所々に行數百人とひ來り更に暇もなしけふは日の永
 きも覺へて四方の景色をみるに市店は門を閉商買もせずテンブル時のへ詣てる男
 女少し往來するのみ我元旦の市中の体なり新樹緑陰の景色時鳥も鳴もやせんとな
 かひれば雲のたゞすまい風の冷しく吹來るさま緯度の同じとはいへど風景我四月
 の空にかわるとなし月を見て

よるひるのたかふ國そと聞はなを空なつかしき夏の夕月

○四月九日晴けふも夥敷とひ來りていとうるさし頃日司天臺に行て見よとすゝめけ
 るか空晴はたり夕月のきよくさし出ければ暮そふ頃よりボルトル案内にて車より
 行に大統領の居所の前を過ぎ十町はかりにして人家稀也新樹の茂りたる中に一構
 あり爰も高堂なり司天台の頭なるもの此家に住て妻子も有こゝかして案内せしか
 種々の測量器テレグラフ時計も奇成製のもの多しコロ子メートル船時計を旨航海必用品百餘
 もあり一船航するとき測量方のも此局より諸器はたコロ子メートルを受取歸帆

すれば爰に納るよし天文の圖など製したるものあまた有やかくれはてければ堂
 の三階に登り猶天井を押し明て上に出れば丸く木綿にて覆ひ中央に高さ五尺はかり
 の石の臺有此石は土中へ深く埋込て少しも動かぬよふに作りたるか三階の上まで
 貫てあり其上に長さ一丈もあるべき望遠鏡を仕掛四方に階段有腰を懸て見るに鏡
 は自由にうこきて見るによし上覆ひは望遠鏡の出るほその中を切抜てかたはらに
 ある車を廻せば覆ひは自由にまはりさて望遠鏡の一番先の鏡は直經二尺もあるべ
 し左右に種々の機械付て屈伸自由なり渠月にあてゝ見せけるか半月の欠たる所は
 氷を碎たるか如く鏡にあまりて片はしより見るに月中の文は地球圖を見るにひと
 し彼は月宮も一世界と見て何の國何の港と名付たりと云ふ實に雲に梯して渉るも
 あるべしとあやしむまてに見ゆまた木星を見れば○かく満月に星のろひたるか
 如し土星はかく月に輪をかけたるかとし時として此輪の間より恒星見える
 ともありといふ實に驚べき機械なりとひたき事も數々あれと通辯を俟てはかゝる
 事に至りては十か一二を辨するまで也凡測量術杯は彼の長する所なれば有志のも
 の留學せは益も多かるへしと思ふのみかくて宵の八時五時歸りける市店も士官の
 家も間毎にガランプを照し店には殊に多く掲往來兩側の玻璃のとふらふにも同
 し火を點し車にもはり器の燈籠有て自晝の如しされば提灯を用ゆるとは絶てなし

○四月十日晴ジュホントレットヤルト金方の吏人等來りて公事の談判有り夕第五時

七時より故のコモドルベルリの鯨なるセナート官のものゝ家に招しといふけふは
 断けれどベルリは初て我國へ來りしよしも有殊に大統領の縁家なればせちにす
 ゝめけるまゝ正興忠順ゆきたりをのれは小恙にてゆかすけふもダンスの催にて例
 の雑踏なるよしなり

○四月十一日曇朝十時よりジュホントレットヤールト金方の吏人けふも來り品々談
 話あり字偏生の使節書記官もて國産の品々に書翰をそへて贈りける

○四月十二日曇午後二時より例の案内にて七八町も行けるか測量地圖を仕立る局な
 り測量器圖を製する器械あまた書籍も多く有頭役の部屋にて酒茶を出し此局にて
 製したる地圖あまた航海必用の政府へ捧るよしにて出しけりをのれ等にも地圖を
 贈けるかくて夕第四時歸るけふは正興とともに行て忠順は行かず

○四月十三日晴合衆國の諸部落を一見せよと大統領言けるか只挨拶とのみ聞置しか
 渠は殘る所なく見せ度様子にて頃日すゝめけるは素より使節の任はてければとく
 歸りて復命をいそぎ鎖國を開きて初ての航海なれば我 大君をはしめ國人心安か
 らねは歸程を急けるとてさま／＼に断けるがけふジュホントレットヤールト來りて
 歸航の爲に巴納麻へまはさんとして紐育を出帆せしナイヤガラの船四五日航して蒸
 氣の機關を損し紐育港に歸りて修理を加へけるまゝ彼の七月一日我五月十日也頃まで
 は出船ならぬよしされはまた巴納麻へ廻しては歸程も遅くなりはた同所は極て季

候もあしければ喜望峯亞弗利加洲の南を廻りて航するかた大に便利なるよしをす
 ゝめまた七月一日まで此府に滞留はせんなきわさなれば其うち所々部落を一見し
 て紐育に至れば船の修理も間に合て都合よかるべしとカスの云けるよしを述たり
 思ふに頃日ナイヤガラ船出帆せしと言は偽りなり彼の大船出帆して直に損しける
 といふは信しかたし部落一見のとを断れば不興のさまに見ゆ何れの使節も諸部落
 を巡りて心よく歸りしか何故にかく断るやと云能々考ふれば合衆國なれば部落毎
 に統領有て國中への使節なればもゝかたなく使節をむかへけるとて部落毎に金
 を集て待ちけるよしされは部落の統領より大統領へ乞けるゆへ断かねるさま也こ
 れ國君にあらざる證なりされと其意にまかせなは限りもなく遊歴の理もあらざれ
 は船の修理は止を得ざる事なれば使命はてゝ他に行理はなければ此客舎に滞留し
 て待べしといへは渠もこまりたる様子也ナイヤガラは大船にして此府へは廻しか
 ねるよしなればせんかたなくボルチモール名地フルトルヒヤ名地を経て紐育に至り
 修理の成る期をまつべし夫にて諾せしなれば喜望峯をまはりて歸航のとすべし
 言ければやがてカスに告げる様子なり大統領も遺憾には思へどせんかたなく諾せ
 しよしを告來り各心を安んしける風習のことなるとはいへどかく約せし事も變し
 異情頼なきとも也我軍艦にあらざれば航海はせぬものと思ふ今宇内の形勢萬里
 外も隣國の如し實に航海の術は國家の急務なるべし

○四月十四日晴午後二時よりポルトル案内にてスミスチニナといへる奇品はた究理の館成よし百物館と同しく石造の高堂なり局の長官出て案内し廣き席に入ればエレキテルの器械種々有窓をとしてくらくし稻妻を席上に發しさまくの奇術を成じて見せけりまたこなたの席には椅子あまた有て究理の學問所とみゆかなたの廣き席は額堂なり米利堅往古よりの風俗萬國古今の人物の額なり四方に夥敷掲げ柱に少なる額に人の髪を付たる有て代々の大統領の毛成るよし禮なき事此一事もて知るべし廣き堂内左右に硝子を覆ひたる棚に萬國の物品鳥獸虫魚數萬種有鳥は生るか如く大成るは白鳥位の鳥もかすく有猿にも人体にひとしきものあり手足長きもの數十種蛇蠍の類または蛙などは瓶に入て燒酒に漬たる萬の數もあれは見も心地あしき事也かねの水盤に網蓋したる中に鰐魚の生たる有板敷に出して棒もて打てはいかりて口を開く實に鰐口とて大なり形はやもりに似て脊に鱗あり長さ四尺はかりなり我蝦夷に見し海馬海豹も乾したる有またこなたの隅に硝子を覆ひたる中に人骸の乾物三つ有千年を経しものといふ野晒の如きものにはなし肉皮とも乾きて全骸立たり男女といへと見わけかたし天地間の萬物を究理する故斯の如きに至るといへと鳥獸虫魚とひとしく人骸を并て置は言語に絶たり額に汗するといふ古語に反復せり則夷狄の名はのかれぬ成るべし此局のかたはらに長官の住宅有爰にて酒など出して妻子も挨拶し此局の事を記したる小冊を贈けり謝辭し

て歸るけふ大統領の廣庭にて遣されの馬具を馬に仕掛度よしにて下司を招けるまゝ成瀬正典刑部某を遣して馬に仕掛たるか大成馬にて美事なりとて大統領も姪女も出て見物し正典に乗るべきよしすゝむるとて乗ければ大に悦びたるよし後に聞けは正典等かへりて後姪女レエン乗馬せしといふ頃日往來を見るに婦人達者に乘る腰より下の提灯の骨の如きものは去りて男子の如き筒袖を着し端反りめきたる笠をかひり馬にまたかりはせず右より腰を懸たる如く左の足は所輪にかゝめ右の足は鐙をふみて少年の婦人もまた夫婦連などにて走りをのる事達者也

○四月十五日陰夕雨正典忠順馬を借りて我馬具を懸野外に遠馬せんとてリイホルト杯皆打連て三里はかり南なる別園に行てとく歸りたり馬は大にして良馬多しと云をのれは頃日齒痛になやみければ行かず學校病院幼院獄屋までも見よといへと斷て下司はた醫官を遣しける話しを聞くに病院男女席を分ち男子には男子女子には女子の看病人を添數百人有といふ胎内十月の孕子初月より十月までを一骸づゝ瓶に入燒酒に漬て有りとそこれは病院にて果し妊婦を解胎せしとそまた幼院は十四五歳まで成るよし衣服食物の世話能届たる様子に見ゆるといふ都府はさら也少し人家集りたる街市には必此院有とそ是等の事は我國も恥べき事なりけり

○四月十六日陰夕雷雨をのれ等を寫眞鏡にうつし度よし頻に乞けれと國風になき事なれば斷けるが大統領懇望成るよし言ければ諾したり寫眞鏡屋來りてうつしたる

一枚宛贈けり夕方レウキスカスの使にレッテヤールト來りて公事の談あり

○四月十七日陰午時暇乞とて大統領の館に行旅服也堂の正面より例の席に通れば大統領はたレウキスカス外に高官の人四五輩出來り大統領こたひ御使の御禮懇切に述て横文を渡しかくて滯留中待遇の厚き事どもを謝しけるか渠も念頃にあ挨拶し歸航は合衆國第一の大艦ナイヤガラにて送るゆへ安心せよ恙なく歸國を祝すとそ大君へ捧し品々は又整はぬとて花鳥草木を畫し本を五冊美事成る函に入たるを出して見せこは船に送るといふ正興をのれ忠順に金のメダイム大統領の像を鑄出したる金銀よふの鑄出しの二寸五分厚二分目方百目いたを美麗の二重箱に入たるを一つ贈りたりかくて堂を出國事館に至り例の局にてカスに謝辭を述て暇乞すれば森田行はしめ下司の人々へ銀のメダイム金と家司従僕まで銅のメダイム一つ贈りはた御國書の御返翰の寫とて見せけるまゝ本書をのれ等に渡されてしかるべしといへは御返翰は必在留のミニストルをもて呈する國風といふされは御禮の使節をたてし心にやあらんと推はかりて諾したり此返翰は歸朝の後大城の造置成りて次の年二月二日返して御禮を申上りさて國事館内を悉く見よと案内あり外國局の書記官の部屋には一人話たり各國の條約また各國在留のミニストルより書翰を國分して有我國在留ハルリスの書翰とて厚き書籍二冊あり事の輕便なるをしるべし金藏方の局に行は同しさま也金庫まで案内せしが堂内に石をもて造りたる砲臺の火藥ものにして金

銀貨幣僅計有爰は小出しの所といふ此堂を出てまた高堂あり海陸軍の局也士官など役につくも轉するも此局にてミニストル言渡すとといふ諸局とも長官一人に書記官兩人程にて濟よし國事の簡易なる事を知るにたる此所も出て馬車にのりレウキスカスの家セナート官一人魯蘭のミニストル家々に名札を配り走りめぐりて旅宿に歸るけふなん御使の任もまたく濟ければ此都府も發程する事なれば馳走役のジュホント外二人カスの鞆なるレッテヤールト通辯官のホルトメン等へ縮緬陶器など其ほどくくに與へける

○四月十八日晴歸路は急く事なれば薪水食料積入の爲にのみ諸港へかゝりて成べきほどは碇泊せぬ様に船將へ命令あるべき事をカスへ書翰もて乞けるか承諾して歸航中三ヶ所の外は碇泊せぬ様命を下しけるよしの返書有夜に入てレッテヤールト來り公事を談す荷物は便船にて紐育へ廻すとてけふ船に積けり

○四月十九日晴レッテヤールトはカスの鞆とのみ聞しか鞆養子也カスは老人にて諸事此人カスに代りて助る様子かゝる重職も我が子に助させるは簡便なる事なり此夕暇乞に來り頃日日毎に公私の事を談し隔なくもてなしけるまゝ名殘をおしみる様子なれば我國に航せよといへばいと恐るゝさま也彼の國といへども航海は海軍方ばかりにして富有の士官はさらなり商人も航海はせぬ者と見ゆされは我領國を開きてはしめて此國に航せしは愉快の事ども也高官の吏人もあまた來りて別を

告て去りね

○四月廿日朝第八時^{五半}華盛頓府の客舎を立出るとて

我君のあふせ傳へてたちかへる旅の衣そのとかなりける

例のジユホント^リ「ホルトル」倍従して馬車にのりて七八町行て市中に蒸氣車の小屋有爰に至る着せし日は警衛も夥しく見物も蟻集して祭の如きさま成しかけふは例の三人同車したるのみ衛士一人もなく見物も出す四五輛の馬車にて走りたりさて蒸氣車の小屋は高さ二丈ばかり長さ三十間もあるべし三棟はかりにて中に數車有をのれ等か乗し車は殊に美麗也四車をつらねて走り出けり巴納麻に乗りし事なれば同し事也七八町にして市町をはなれ平原に出麥畑少しありけるか我蝦夷人の作りたる畑の如くつたなき事なり人家は至て稀にして鐵路は往來の人を見ず所々に雜木のみ繁茂して更に風景もなくひた走りにはしり車の音は鳴神の如し十時にポルチモール^各の入口に有る蒸氣車小屋に至る四十里といふ^{我二十里}此部落の統領吏人等出迎ひ挨拶して馬車に乗れば騎兵銃卒樂人惣して三稜隊龍警衛し街市を廻るに見物の男女湧か如しやかて大成る堂に至る爰は此府の公館と見へ廣き席在右二階樓敷にして青草をもて注連の如くまたたませ垣の如く飾りて正面高き所に案内し統領はしめとりく挨拶せしか坂敷の廣き所に警衛の兵士銃卒まで足並して入來りやかて又順々外に出ればをのれ等馬車にのりて又市中四五

町行て夕三時客舎に至る此前を兵卒順々引とるを二階より一見して挨拶する事なり銃卒一聲に空炮數發祝砲のよしなり手前未熟にして炮聲亂けり此客舎も五階造にして手廣なれど華盛頓のホテルに比すればやゝ廉也此街は人家多く方一里もあるへし川そへにして繁昌の体にみゆホテルの前は町並より廣くして中央に石を組たる上に藝祖華盛頓の石像を立たり高さ數十丈なるべし夕第四時^{七時}統領の馳走とて席に行は數十人の對食例の盃を舉て祝しけり三階の窓の前に椽頬よふの所有り玆にレガテフを仕掛て有是を打ては一ミニウ^一の事也^時に夥多の火消來るといふやがてこなたかなたより火消走り來る其一組は車を兩馬に引かせ蒸氣を仕掛てあり爰に來るやいなやポン^三の^長事^ニをとり出し往來端の水道の蓋をとりて此車を入れ蒸氣の機械にて水を揚る事也車の先を屋根へひければ七階の屋根まで自由に揚りまた一車には長五六間をはしめ一間程までの梯數多積みたるをとり出し屋根に置町役人馬に乗り働のものも一組三十人位例の筒袖に頭巾をかむり^我火消の頭巾かくて五組はかり走り來り消防の体をせしか水は自由にして大雨の如くなりやかてもとの如く仕舞て列を正して順々引とりたりこは珍らしき事なれとかゝるもてなしは思ひもよらぬ業なりけり暮て花火を建てしか流星あるひは玉のくたけて散亂するも有もとの方にはみけんしやくともいふべき種々の車火の色もさまざまにかわり我兩國川に見しよりはいと巧にして車もくたも皆かね也高さは

一町余もありて火は屋根に散かゝれども練化石もて造たる家なればあやうけもなしホテルの前は見物人充満して火のちりかゝるもいとはず見物なしけりこは使節への興に設けし事と見ゆ

○四月廿一日曇けふは冷氣なれば袷を重たり朝第十時ボルチモールを立出馬車にて町はつれの車舎に至るこの所まで吏人はた衛士の銃卒送りけり蒸氣車は三輛にて美麗也走り出るやたちまち町をはなれ平原に出しが昨日の道よりは不毛の地にして村落二ヶ所有一とゝころは人家も相應にみへて馬車などにて行かふ往來も四五條有爰にジユホントの家有といふ凡五十里我二十里ほど行て川有ボンボウルスリツキ川と云濁水茶の如し橋有長一里我十里平面にして板なり橋の上に鐵路有りて走る又少し行て川有ビスリフル川板橋有長一里の四分一と云やゝ行てハーフルデカラス地と云ふ驛めきたる人家多き所に川有シユスキハンナー川といふ車を止て此儘行しやまたは船に乗るやとジユホント云川なれば船にて涉るとなるかあやしき事を云ものかなと咎もせずあたりを見れば車は乗つれしまゝはや川中に出たりいかなるやとゝへば長き平面なる渡し船は蒸氣なり蒸氣車走りて蒸氣船にのりたれば車の蒸氣は止て船の蒸氣をもてはしる川のひかふ岸に大成棧橋のはねたるを卸し船の舳を押付れば車の蒸氣を運轉して陸にはせたり奇成事驚はかりなり眠り催したるものは此大河を涉りしをしらで過けりかくてフユルトルヒヤ地の街の入

口なる蒸氣車やとりに至る夕第六時七時朝の十時より百里我五里を走りたり

野も山も見ぬとまらすいととくも轟はしる車なりけり

吏人等出迎ひ馬車に移れば警衛前後に二隊隊龍つゝ左右は町役人夥しく一行に列行見物は雲霞の如く街市見巡りて旅宿に至る此町は船着にて繁昌の地と見へ市中廣く人家も石造多し華盛頓府よりやゝ勝りホテル客も手廣く美を盡したり薄暮に着けるがけふは車のうちに走りながらパンを食せしまゝにて誰もく空腹に堪かねけりされど美麗の客舎にて器物なども金銀を用ひ手厚きさまなればよき料理も出なんとまぢけるに我國の風もしらねは例の肉のみなるか蓋物に飯を出しけるまゝこれさへあれはととりたればポートル牛の油入たるものにしていかに空腹なれど食する事ならず通辯もてさまゝに言てポートルを断けれと彼はあやしむのみやかてポートルは去りしとて飯を出しけりこたひは砂糖を入れてかきませたりいかんともせんかたなしたまたパンを食して濟ぬやとりにつきても茶もなし多葉粉の火さへなければ今朝より湯茶一盃も用ひず彼は水を呑はかり也凡世界中食物風俗一様なる中に我國獨異なれば異域の旅行の難儀は筆にも盡しかたき事ともなり

○四月廿二日快晴此地に金貨を造る官舎あれは其司等に公事を談ずる事の有ければしばし滞留せし事也フユルトルヒヤといふは外國船の繫泊はなけれと合衆國にて製造する諸器械は此地を第一とするよしされは富有の商人も多く人口十三萬とい

へり町も奇麗にして廣し馬車の行かふ音絶す咄しも聞へぬはかりまた乗合の蒸氣車にひとしき大なる車にて四馬にひかせ行もあり華盛頓よりは家の作りさまも美麗にして前に鐵の椽類鐵の柱など有見せには玻璃の燈器をまた用ひ軒には少なる玻璃器の數々をよせて横文字を顯したるに皆ガスをてらして白晝の如し

○四月廿三日晴この頃齒の痛てなやみければ外へも出す正興忠順は水車に物を製する所に行たりけふの新聞紙とて通辯者の見せしか聊我都府の事を記して有ければ譯を聞けるに心にかゝる事なれととふべき人もなく打寄ては案事ければ素り街説をしろして信するにもたらぬものと打捨ても早春に我國をはなれてより風の便りにだになければかゝる風説を聞てはさすが寐覺にかゝりぬ此は推量してしるべし

○四月廿四日晴此部落の統領はしめ吏人等あまた妻子を引連て來りければ例のとく挨拶して歸しやりぬ

○四月廿五日晴金貨を司る吏人來りて公事を談す

○四月廿六日晴金貨を造る官舎へ正興忠順行たり此市町にて製造する諸器を品々をのれ等に贈りけるうちに高四尺計の眼目鏡有玻璃の板七十枚はかりに此街の風景は又山河の景さまく寫眞鏡にうつしたるものなれば人物鳥獸も生るが如く此地の風景を實見するにたるものなり歸國の後内職上せしか御側をはなけふなん此町のはつれにて風船を揚しとて家司など行て見しとて語けるを聞に二間もあるべき

布に油をひきたる圓き袋に氣を込れは忽鞠の如くに成りて頻りにあからんとするを數々の紐をもて地に重りを置て結付置船は籠に作りて男子一人乗り御國旗と花旗を兩手に持此船を袋につけて少し揚りて砂を入釣合をつけやかて紐を切はなては空中に揚りたちまち三里も登りて目に見へぬ位に成りて風に乗りて紐育の方へ行しといふテレグラフもて彼地へ通しけるよしをのれ等に見せんとて設けしなれと其の事しらねはゆかすといしかきのふ船の水卸し有り行て見しやと云へるを普通の船の事と思ひて斷しか通辯の誤也遺憾なる事ども也風船ははやく發明せしものなるか風に駕して走る計空に登りて何の益なき事と彼もいへり

○四月廿七日晴此府の統領宿のあるしへ縮緬陶器など贈りて謝し置ぬ日暮てより花火を見よといふまゝ何れなるやととへはやかて客舎の前に來りて發しけるか先にポルチモールにて火消の來りて消防の体をせしか其火消と同一組つゝ車三輛に三十人つゝをひててんでに花火をもち客舎の前にては殊更に發し見物人湧か如き中へ火のちるもかまはず白晝の如し凡二十組もあるへし一組宛に胡樂ありて祭りの如し是も使節への馳走なるよし

○四月廿八日晴午後陰今朝第九時五半時フルトルヒヤの旅宿を立出馬車にて二十町も行けば大河有蒸氣船にて渡る蒸氣の波し船三四艘有馬も向ふの岸に至れば蒸氣車やとり有第十時蒸氣車に乗りて走る人家絶す有りて畑も多しホーリントン地名

といふ町は家屋多し猶二とこる相應の街市有カムドン地といふ橋有アムホイ地といふ町に至る爰まで九十四里といふ川端なり此所へ紐育より迎船とて大なる川蒸氣船の吏人等大勢のりて來りむかへけるまゝこの船に乗りて晝飯をどよのふ川を下りて海口に出てまた川に入紐育の波戸場へ着たり午後合衆國第一の都會の地なれば繫泊の船も夥しく繁昌の地と見へて海岸に見物人雲霞の如くみゆ波戸場には大なる小屋ありそのうちに馬車あまた來りてむかへけるまゝ例の如く乗つれたり御條約箱は美麗に花を飾り旭章花簇を建たる臺にのせ下司定役小通辯者乗添の如く四輪車を四馬にて引たり次に順々乗連て出しかけふの警衛の夥敷事都府に倍せり祭の如く少し行ては止り無益の道を廻りて行に人家も稠密にして家屋美なり見物の男女尺寸の空地もなし三十町程行て植海の有ける前に廣き道あり爰に臺を設けて有各馬車を出て椅子にかゝりければ警衛の惣兵順々前を足並して過る惣大將のコロ子官名のセテール首長馬長上にてをのれ等のかたはらに扣たり騎兵はかり樂人までも騎馬備も有野戰筒も六ポント位のもの六車一隊つゝ樂人先に立來りて向に開き一隊過れば跡に付て行また一隊來る隊毎に服色冠物まてかわりて美麗なり樂隊の號令官は杖の頭に銀の玉を付號令するさま大にこつけいあり兵卒のうち是は氣付の火酒をに小なる樽を背にかけて行二八の美人あり是は氣付の火酒を粧ひ飾りたるさま祭に等し合衆國第一の土地に陸軍殘らす出しか十二後隊龍にて凡八千人といふ騎

馬隊は士官なれども歩卒は過半商人にて役に出るよし武の實なき事を知るへし皆過行て又馬車に乗り十町はかり行て又戻りてよふく暮近き頃客舎に至る此ホテルも六階造にして美を盡したり數多の窓毎に少なる旭章と花簇をさし飾分のいたるか屋根には三間四方もある旭章花簇二本建て往來所々にも屋根よりやねに繩を張て各國の旗を懸具中に御國旗懸たる所あまた有子供など紙にて作りたる御國旗を持って是を振りて祝す市店に御國旗を賣もの有我江都に開帳佛の來りし如くもてはやしけり

○四月廿九日晴ソソテイなれば人もとひ來す市中も靜なり此地は北緯四十度餘なれど大都會成るゆへか我國館よりは暖地に覺ゆ

○五月朔日六月快晴午後一時此部落の公館へ正興忠順下司を伴ひて行けるか統領はた吏人等面會せしよし也けふも一後隊龍警衛を出したりをのれは小恙にてゆかす

○五月二日晴晝頃雷雨此客舎も華盛頓のホテルよりも廣し下に廣き席有て戲場なり暮方より毎夜見物人夥敷入よしなれとをのれ等の部屋は五階目の隅にて廊下に番兵守りて隔たり屋根に出れば街市一圓に見渡し繁花なれども我江都の三分の一もあるへし馬車の行かひ男女の往來いと賑やかにして暮方よりは例の玻璃器にガスを照して晝にとならずかく繁花の街は二條はかり餘の通りは大に淋しく空地も

所々に有華盛頓は都府なれど大統領をはじめ吏人等まで合衆國中諸部落四五百里もへたちたる所のものにして其職を勤るうち都下に住居し輕輩なく多くはホテルに住居て勤るもありされは人家も都下には少く市街も日用を辨するまでのとにして多くは此紐育より求るといふゆへに都下は人口少く靜なる地なり都下はかくのづかりはるべしフエルドルヒヤは富有の商人多く諸物を製造する所なれば能き品物多く人氣も穩順にして土地からよし紐育は各國の商船數萬を繫泊して諸州の人物入込貿易壯んの地なればおのづから人も薄情にして物價も品劣りて高し例のジエホントなど此府は外國人多く入込人氣もあしければ往來するにも心を用よと云けり何方も船着の大都會は人情の同じものとみへたり

○五月三日雨少雷佛蘭西のコンシユルセ子ラールとひ來て直に去りぬ此府に止るはナイカラの船修理落成をまつ事なれば外の部落へは行かぬ事に約せしかジエホントも斷兼しやポストン地名と繁花の地なるよ地名の統領はたナイヤガラ地名高數百丈の瀑布あり合衆國第の統領來りて面會せしか各の部落へ招度事を切に乞けれと先に大統領の云へるをも斷しは止を得ざるの事情なれば猶くり返し斷けれとさまざま設をして待けるよし斷て行かぬは統領の届かぬ事とにてすゝむれと辭を盡して斷けれはせんかたなく歸りぬポストンの近所の製造所にて作りし袂時計二を正興とこれのれに贈りける盤銘横文字と和字を用ひてこたひあらたに造り新聞紙にも其圖

を顯はしけり

○五月四日陰午後第一時より各馬車に乗りて野外へ行街をはなれて廣野に出れば所々に大石を掘出したる跡有り此邊石を切り出す所とみゆ石多く地味あしく池に成たるは石を出したる跡也白鳥の浮ぶを見るこは近き頃歐羅巴より移せしといふかゝる鳥さへなきとみゆまた杉の二年生位の苗木三四本を植てこは我國の杉を英國にて植付けし其苗木とろけふも野外まで見物の人多く町役人一町位隔てゝ立て人を制す様子也こゝかして見巡りてワシントンホルト地名といふ所は新樹綠陰の風景よしやゝ行て別園と思ふ家に至る爰は新聞紙屋の長なるものゝ山莊なるよし高樓に登れば兩岸赤壁の河にろひて風景いとよし市街にのみありては家作をはしめ人物器物目にふれしもの皆異なりしかかく野外にて詠むれば雲の行かひ鳥の聲まで五月の空の景色故郷にかはらぬはかのづから感深し

時鳥なきもやせんと思ふまで青葉すゝしき河そひの宿

作りなす物こそかわれ野も山も景色は同じ夏の夕暮

此園中にも婦女子あまたつとひて例のダンスを催よし也實はあるし使節を招請せし心なるべし酒盃をすゝめけるまゝ盃を傾てかへらんとすれはとゝめて啞人を見せけるよしを云いかなるとかと待しに姿艶の婦人二人來り何れも啞人なり兩手の指を屈伸してさまざまの体をなせば男子一人會得してをのれ等への挨拶を述べたり

啞人互に兩手の指にてさま／＼の体いとはやくなしけるは話しをするよし也此府に啞院ありて百人余も在りてアヘセを手具似にて覺させ一身の用を辨する爲にをしへたるもの也啞人までもかく教へけるといふをほこりたる爲に見せけるとなるへけれど富有の家に生れし人と見へて美服を飾りたる少年かく不具成るを外國人に逢せるは見るも氣の毒なる心地すれど渠は少しも恥るさまもなし人情の異なる事を知るべしやかて馬車にのりて歸りけるか二里はかりも有べし暮はてる頃客舎に歸る

○五月五日晴寒暖計七十六度船中にては彼の器を用ゆる貿易方の頭役外に兩三人來り面會して交易の事とも聞けるに渠は各大船十二三隻つゝも持て各國に通商せしといふ吏人といへど商人なればその道にかしこく我國物産の多寡價の高下などといひけれど商買の事はしらねは程よく管置ぬ此國に産する物は木綿と石炭のみ餘は皆輸入品なるよし我國の百物に富るとを發明せしまゝ夫等の事は別にしるし置ぬけふは端午なれば

古郷を思ふ心のますかゝみ軒のあやめのかけたにも見す

○五月六日晴七十七度森田行成瀬正典等運上所に行て此港の規則をとひしかその事をしるしたる書籍を贈りけり

○五月七日晴七十六度はしめて我國に渡來せし故のコモトールベルリの鯉なるベル

モント名といへるもの來り面會せしか渠の家に招ける事を乞ければ諾したりまたコモトールにて致仕せしセントルメン事のよいなるコール名といふもの華盛頓の近き邊に大成る製造所を構へて大砲小銃多く造るよしにてケーヘル五響炮を一挺つゝをのれ等に贈りけり和字横文字もて三人の名を一名つゝ彫りてあり

○五月八日晴七十八度此部落にて使節を饗するどて客舎に廣き席にてダンスを催す事なれば一見せよとすゝめけり夜陰に成てジユホント等案内してホテルの下なる戯場の席をまた廣くしてガスランプは白晝の如くてらし男女數百人湧が如し其中を通りて正面に高き所あり椅子にかゝりて一見せしかやかて男女組合幾組もかぎりなく踊といへど只くる／＼めくるのみ此人々は士官以上の男女兼て切手を出し有ければ入口にて札を改て入る事のよししはし見物して斷ければ別の席に飯臺を設け例のサンパン酒肉もて饗しけりまた行て見よといへど能程に斷て各部屋に歸りてふしけるか曉までもダンス壯なるよしかゝる大ダンスは彼は大饗なるよしにて新聞紙にも記してほこりけれど甚迷惑の事ともなり

五月九日陰八十二度午後二時よりベルモン宗の家に行的約也しか其席にベルリの後家のもとに音信よとすゝめけるまゝ其家に行けは美麗なる四階の家なりあるしはベルリの子にてロイテナント名なれば今航海中なる由後家は穩順にして威もある老婆也ねもころにもてなし娘や孫なども出て挨拶し我國に渡來せし時給はりし

品々はた求得し我國の器物飾りてありペルリは我鎖國を開て和親を取結し大功を奏しければ重く賞されけるか三とせ先に身まかりしとそこたひ使節参りけるは此人の功とてまた新しく唱けるよし語ければはからずも此家に來り在りし世なれはと云ければ老婆涙くみて言葉もなかりけり謝詞してこゝを出てベルモントの家に至る大家にして殊更花美を盡したるさまなり男女數百人つとひて例の雜踏也一席に食盤を設けて有各盤につく主しの妻女ベルリの娘歳二十四五上座につき次にをのれ等下司まで一同に椅子にかゝり佳着さまくなれと例の肉なればせんし數々出して酒をすゝめけるあるしは給仕のものにひとしくはたらき妻はあるしの如く主しは僕の如し又一間へ案内し茶を出し多葉粉をすゝめ都て金銀の器を用ひダンスの間は板敷を寄木にて作り惣して美を極たりあるしは此府の第一の豪富にして各國のかわせ金を家の業として用ひらるゝといふ能なる人物なれどかゝる富有の家なればペルリ犁になしたるものとみゆやかて厚謝して歸りける暮てダンスを催す様子也客舎に獨つくくこしかたを考れば我國人米利堅は南北極に涉りし大洲とのみ聞て合衆國あるをもしらざりしに六とせ先ペルリ渡來せし時は我國の武をもてはらはんを識せし者も多く有ていかにやと思ふうち寛大の仁徳をもて終に和親の國となりてはペルリ渡來の時此國にて議せし事など聞かく使命を蒙りて此地に來りそのペルリの親族に饗せらるゝも實に奇遇ともいふべきか宇内の有さま時勢のしからしむる所と思ひかへてふしけり

○五月十日晴八十二度午後二時より書籍數多納めたる堂に行大成石造の堂にして各國の書もあり我國の書地圖なども有爰は官舎といへるにもなし市中人民の建し書院也けふ此地の統領の家に招かれしか斷ければ直に客舎に歸る吏人等あまた妻子を伴ひて來り面會して去りぬ

○五月十一日晴八十四度此度使節を送迎の入費は彼も莫大なれと巴納麻の蒸氣車をはしめ都府に着せしより都ての費用は我政府より拂ふとなればジュホントへ云けるに使節の入費は總して渠の政府にて賄ければ少しも心配はなき様にと聞へければとかくはあるまじとふた度三度談せしに更にとりあへねはせんかたなく歸朝の後國産の品もて謝せらるゝ事と決したり合衆國の事なれば使節送迎の費用は國中にかゝりて大統領の金庫より出るにあらすまたフルトルヒヤは一万トルレル紐育は二萬トルレルを積てまちけるよし新聞紙にも記して其高は皆遣ふよし始はさまくもてなし日數重ぬれはうとく成ぬこは積金の残り少に成しゆへといふかく部落く市民までにかゝりしとなれば客舎の下男警衛の兵卒杯は其時限りのものなれば華盛頓をはしめ諸部落にて警衛の兵卒はた輕輩のものへ祝酒として二萬トルレル贈りけるまゝ心配せよとジュホントに渡しけるか一己にはからひ兼てテレガラフもて華盛頓に達しければ速にレッテヤールト來りて好意なれども斷て返すへ

しと大統領の命なるよし云けるとしてジュホント断けるまゝ和親の國へ來り使節より祝酒を贈るを断といふは不理なりと責ければ渠もこまりたるさま也とかふをし合けるか祝酒料とて出せしを断なればとて納るとは成らぬと云切ければジュホントも政府の命は背かたくせんかたなく案事けるかベルモントは此府にて一二のものにして大統領の命といへとも渠よりはからへは濟事の上にしてベルリの因縁あれは渠に頼むへしと云まゝそのはからひにまかせければ渠領掌したりかくて喜毅の書翰達しけるか咸臨丸の修補整けるか我水夫等七人重く煩ければ看病の人ふたり添へて彼の病院に残し快氣次第便船にて送れよと統領に頼て後の三月十九日サンフランシスコ港を出帆して歸國するよし告來りぬ後に聞咸臨丸サンフランシスコ島月函館に歸りけりハナイヤガラの用意も整たれば明日立出ると成ければ皇國へ歸さの旅なれば誰もく勇立て荷物など船に遣りいそかはしく支度するさま僅の日數にて歸る心地せしか能く思へは五ツ月も航海なるべしジュホント。リー。ポルトルの三人を招て頃日厚く世話に成りし事を謝しジュホント。リー。に刀鞘白ホルトルに短刀上を贈り祝盃して離別の情を述たりまたミニストルレウキスカスへは所々滞留もさはりなく明日出帆のことを告厚意の忝を謝する書翰をジュホントに託しけり

○五月十二日晴夕少雷雨八十四度午後一時に紐育旅宿出立馬車に乗り警衛兵卒少々出る波戸塲に至れば少なる蒸氣船レエンと名付姪女ロエンの名をもて船名となせ

しよし此船にのれは港内を乗廻し一見せしに波戸塲の左右凡一里はかりも數萬の船岸につきて櫓は竹の林の如し子ビヤールト船製造所は川のむかふに有又少しはなれて商人の子ビヤールトもあり川のむかふはフルクレイン地名といふ人家多くみゆ人員十三萬といふ英國の巨大なる蒸氣商船は近頃製造して宇内にならびなきといふ大船なるか昨日この港に來りしかは行て見よとすゝめければお出立の事なれば断てゆかず碇泊せしを見しか小山の如し船號キリートイーステルン長六百八十フット我巾八十三フット我深五十三フット我櫓七本蒸氣は外車と捻と兩方仕掛煙出し五本一階には八百人二階に千人三階に千二百人船將三人號令はテレグラフィをもて通す端船片側に十二艘つゝを掛ける二十四時之間に二百五十里より三百三十里まで颯るといふこは甚不辨なるよし淺き所には入らす石炭は夥敷費し荷物も十分積ては相場にひゝきて一時に捌かぬるよしにて無用のもの也と米人はそしりけるも尤なりかくて港内も見巡ければナイヤカラ船に乗組たれば祝炮有此艦は甲板を二重にして掛ならへし大炮二挺をはつして我國人の室となし艦の方上の間に兩方正興をのれ忠順の部屋有まん幕もて仕切森田行成瀬正典以下兩側に部屋く有ジュホント引合せて船將はしめ士官等まで夫々挨拶して今宵は碇泊也先に大統領より我大君に捧けし品々は船に送ると云しか更に何の披露もなければいかやとジュホントにとひけるか大炮小銃種々の器械まで揃へて皆此船に積入たりといふそは

品書ありやととへはコロ子ル官のもの一人乗組て心得たるよしなりをのれ等に所々より贈りし品も積入て有よしなれと混雜して更に知らず航海中見わけよといふまゝ捨置ぬジュホントをはしめ送り來り人々陸に歸りて又出帆前に來るといふ此船は蒸氣フレカット軍艦スクルーフ掛也船號ナイヤガラといふは合衆國第一の大艦なれば第一の勝景なる瀑布のナイヤガラの地名をもて姪女レエンか名付しといふ大砲八挺備船の長三百四十五フート我五十七尺巾五十五フート我九尺深三十一フート我三寸三寸我五寸噸數四千五百八十トン我三萬二千九百乗組カヒティン將船キーン名八士官はた見習まで惣して三十七人醫師三人コロ子ル官フレ、リウテナント官一人通辨のポルトメン惣乗組水夫等まで四百二十四人なり

○五月十三日快晴八十三度ジュホント、リ、ポルトル等暇乞に來りさすか日數重し懇志なれば名殘おしみつゝ別ぬ午後一時に紐育港出船蒸氣計に砲臺にて御國旗を揚て祝炮打たりやかて沖に出て

あみりかの浦山遠くかへり見て御國にむかふ船出嬉しき

遣米使日記下

○五月十四日陰七十度正午測量船位地北緯四十度四十分三十五分西經港より百八十一里久しく陸にありければ少しは船暈の氣味あれとなみ靜にしてさのみ事もなし今朝よりは地山も見へず東南をさして帆けり

○五月十五日晴七十二度東南風北緯三十九度二十六分西經百九十一里

○五月十六日晴七十六度東南風北緯三十九度四分二十五分西經百六十七里四分月のくまなくさし出たるを船の上に獨なかひるにけふは母君の一めぐりの忌辰なれば古郷には法會など執行ことなるか萬里の外の船のうちなればせんかたなく旅衣いと露けし手向の心を

いとゝなをしの涙にくもる哉あたらの海の夏の夜の月

こと國のことなるさまをかたらはやと思ひ出てはしのふ袖哉

むかしより例もなみの舟の上に手向にやせん露の言のは

○五月十七日陰南風七十四度北緯三十九度四十分五十分二百三里

○五月十八日雨南大風七十二度北緯三十八度五十分二百五十三里

○五月十九日陰南風七十六度北緯三十八度三十分二百三十六里

○五月二十日朝陰後晴南風七十八度北緯三十七度四十分百九十三里

○五月二十一日陰午後晴西風七十九度北緯三十七度八分百十五里

- 五月二十二日晴東風七十五度西緯三十四度五十二分百九十九里半
- 五月二十三日晴折々陰東南風八十一度西緯三十三度三十分百七十四里
- 五月二十四日晴東南風八十度西緯三十四度二十五分百三十八里この頃ナイヤガラ船の様子を見るに船中の作法などポーハタンはノックに同じこの兩艦は他邦の勤番船の交代序なればコモドル乗組船將士官まで人物揃ひて航海功者のもの多くみへけるかナイヤガラは使節護送の爲に仕出して直に戻る事なるゆへか船將カヒティンはかりにしてキーンといふ人はいまた東の海に航せし事もなくこたひ喜望峯を廻るは初ての事成よし士官もはじめての者多くはポーハタン杯の如くにはあらし船將も實直なれと一船皆伏さず品々不都合の事とも多し此航海は永き事ゆへ兼て食事なども對食は斷て自由に用ゆることになし置けるか都而食物類此方にて整積入ける約なれと皆渠の賄にして我食物の貯溝く渠の肉のみ多しされど各久しき航海に馴て永き日を暮しかね船上に出ては運動の爲歩行するのみ唯雲水の詠にあかし暮すも久しき事に成りぬ

海の名はあたらしき見らるる波の船の上哉

- 五月二十五日晴夜雨東南風八十一度西緯三十三度四十九分百十五里
- 五月二十六日朝雨晝晴東南風七十九度西緯三十一度二十四分百九十里
- 五月二十七日晴東風七十八度西緯二十九度二十九分二百二十二里半

- 五月二十八日朝陰晝晴東風七十八度西緯二十七度二十三分四十秒 二百二十里半
- 五月二十九日朝陰午后晴東風七十八度西緯二十七度五十三分二百三里夕三時頃より島山を見て人々悦たり第七時暮合島の港に入て碇泊爰は綠峯諸島のうちシントウインセント島のホルトガラント港なり西緯二十七度〇三分正午より五十里紐育より此港まで三千五十一里といふげふ大陽二十一度十七分に在るゆへきのふ直下を過ると聞しかあつさもさのみかわることもなし單衣にてよし夜に入たれば港のさまも見へねど人家に燈火多く花火杯たてて、繁花の地とみゆ數日にして碇泊せしかは家にやとる心地してふしたり
- 六月朔日七月十八日晴八十度此島は亞弗利加州に屬する綠峯諸島とて大なるもの十一小なるものあまた有惣して葡萄呀の所領にして此ポルトカラント港に吏人一人在るよし港内廣く山々圍て向にはシントアントニ島といへる大島有て船繋にはよし港街は昨夜見しとは違ひて人家も鹿なる板屋根にして戸數皆はかり人口五百どかいふ皆黒人半國のものもみゆ鹿暴の人物也綠峰の名はあれど山々平地までも青草木立もなく燒山の如し魚類青物更になし英船など石炭を積入る爲にかゝりしといふこの島によせしは水を入るゝ爲なれど僅の清水を手にてぐみて土人渴をしのみまてなれば此大船にとり入るへき水は更になし往古は木立繁茂して綠峯の名ありしか後に燒て變地したるものどもはるかゝる島へ寄しは船將の案内しらざるゆ

へ也いさゝかの石炭を積入てとく出帆するよしなり

舟よせしかひやなからん岩清水けふ水無月の名にかふもうし

あふりかの沖の小島に船よせて見れば爰にも人は住けり

○六月二日晴北東風八十度今朝第六時^曉ポルトガラント港出帆南の少し東をさして

帆ける正午^{西北緯二十六度三分}港より五十八里

○六月三日晴朝東晝南風八十一度^{西北緯二十三度三十八分四十二秒}百九十四里

○六月四日朝晴午後折々雨東北風八十度^{西北緯二十一度四十分}百八十六里半夕つかた

飛魚の船の上に飛入しかは吉兆なりとて人々悦ければ

ひれふりて魚の飛入る船なれば歸るは安き浦やすの國

○六月六日陰南風八十一度^{西北緯七度五十一分三十分}二百里

○六月七日晴夕陰南風八十度^{西北緯十四度三十九分}百六十一里數日の航海なるに熱帯

中は殊更波靜なれとさすか波のうねりにて筆とる事もなしかね只かたりあふ種も

なければ圍碁などはよしといへど石もなし人々考へてパンの元なる麥粉を乞て

石となし墨もてぬりければ碁石に成りされはとりくあらそひて消光する事と成

ぬ

○六月八日晴南風八十度^{西北緯十四度五十分}百六十七里半

○六月九日晴南風七十八度^{西北緯九度四十九分三十秒}百五十九里

○六月十日南風七十九度^{西北緯六度五十二分}百七十一里

○六月十一日晴南風七十九度^{西北緯四度五十三分}百八十九里

○六月十二日晴南風七十七度^{西北緯一度十七分}百九十八里四分三

○六月十三日晴南風七十六度^{北緯零一度十七分三十}百九十里今朝東半球に入る紐育を

出てはや三十日に成けるかポルトガラント港は水さへなければ舟よせしかひもな

く出帆せしとなれば食物は乏しく我國より貯し味噌も醬油もとく盡ていさゝかつ

ゝ用ひし酒さへもなし日毎にかつをふしを削り忠順の用意せし切干の大根にいさ

ゝかひめ置し醬油を點して用ゆるまでなり水も乏しくなれば從者などは茶さへ十

分には用ひかねたる事なりされは打寄ては食物の漸に成り古郷に歸りての樂しみ

は味噌汁と香物にて心地能食せんことをといへりかゝる辛苦もあるに都下に美食

して物好いふはつゝしむべき事になんありける湯あみも三十日せねばろれ等はう

しども思はず成りぬ

○六月十四日晴南風七十六度^{南緯零度三十三分三十秒}百七十五里今朝赤道下を過ると

いふ兼て赤道直下は炎熱堪かたくはしめて航するものは煩ふ事もあるへしと聞て

誰もく恐怖せしか暑八十度にも至らず單物を着してあせの出るほとのもなし

亞米利加地方を去る事五百里はかり南米利堅の地方を二千里を隔たる洋中ゆへ凌

よきとなるへし北緯三十度内はさまくの風吹て浪も荒き事ありしも二十度に入

て海面穩に成十度に至りて北東風に限り四時微風にして海面は疊を敷たる如し熱帶中なれば北東の冷風吹送ると成へし赤道を越へては相反して南風のみ冷風に成ぬ夕第四時頃よりは水蒸氣たちのほり舟の上露を見るもやとも違ひて夕陽赤く光りを失し肉眼にて大陽全躰を見るかゝる赤道下は又かく凌よきも實に天の恵を限りなし此邊は夏の一季なり

天つ日の道の下なる海原や夏はかりとて風は涼しき

○六月十五日陰南風七十五度南緯一度三十分東經六度三十分 百八十一里今朝アンボンといふ小島を右に見ゆ無人島なるよしけふの正午の測量はセキスタン器もて北にむかひて日影をはかる

○六月十六日晴南風七十七度南緯三度四十分東經八度二十八分 百八十二里赤道下南北十度の間は終歲晝夜平等時なれば夕第六時に薄暮に成りぬ十六日の月の食かけなからさし出たり彼の測量をとひしか月食四分半初虧夕六時十分復圓七時十五分といふ我曆には六月十六日月食四分四厘曉一時〇九分四十五秒を初虧とし三時四十二分三十六秒を復圓とありされは皇國の曉の月なるか今夕月のさしのほる食は同じ曉と薄暮との違ひを見るの證なり米利堅にはけふの食は見すといふ今かけなから出て三時に復圓すれば米利堅はるか西によれば見ぬ理をしりたり米州は反對の地今亞弗利加の洋中なれど全し食を見るは皇國に近く成りたる事はしられければ南を陰とし

北を陽として見馴し北斗もみへぬはなを遠き異域に航せし心地なり

あふりかの波間に出る十六夜の影は御國のあかつきの月

○六月十七日陰南風七十六度南緯二度廿八分東經十度廿八分 百七十七里ロアンダ港は程近けれど石炭を焚盡したれば帆はかり用ひて風にませかけるまゝ日數もはかりかたしされは水一人一日一ガルロン我一升つゝを與へればとさふより半ガルロンに減して與へけるよしを云軍艦にてかく大人數乗組水石炭杯積入るには其日積りもあるへきにかく云は船將の案内しらす水もなき島によせしゆへなれば船中一同不平を鳴らし水夫等は一ヨコツフに一盃の水なるよし己れ等が汚し水を乞て吞たりかけには船將を罵ても能く働けり我國人にかゝる扱ひしては今はとゝかざる事なり

○六月十八日陰南風七十四度南緯六度十一分東經十二度四分 百三十三里此邊亞弗利加のキンゴといへる地方に近しとそキンゴ河とて大河より濁水押出し洋中水の色を變すかく濁水なるは不毛の國たる事をする

○六月十九日陰東南風七十三度南緯六度三十六分東經十二度三十分 三十六里この邊は日毎に洋にして帆前にては船更にすゝますいつ港に着へきやと水の不自由成事甚しく従者など食事の外には茶も吞事成らぬ辛苦盡しかたし南風冷にして赤道以北の北風の如しければ日毎に東南風を送りて暑も凌よし

○六月廿日陰東南風七十二度南緯七度三十七分東經十二度三十八分 六十二里

○六月廿一日陰東南風七十二度東經八度廿一分八十里夕第六時半亞非利加地方葡萄牙領分ロカンダ港に碇泊此程より水も食料も立しければ人々安堵したり港内東經十三度〇九分正午より四十里ポルトガランド港より二千九百三十六里

○六月廿二日晴七十二度亞非利加州のコンゴといふ部内のロアンダ港にて西北に海を受右に洲の先長く走り右は赤壁の高臺なり港内廣く船繋よき所なり米の軍艦二隻碇泊其コモトール、ナイヤガラにとひ來りて面會したりこは亞非利加押の惣領にして類船四五艘此港に勤番せしよしなり港には魚類多く御國を去て初めて鯛を見て人々悦ぶける此頃水さへ乏しく成りし折なれば別に美味に覺ゆやかて船上に出て人々鯛を釣得たり

○六月廿三日陰七十四度朝十時より船將案内にて上陸せしに人家至て少く煉化石また石造の家もあれと至て粗なり一圓砂地にして濱邊の如し土人は眞の黒色にして男女も分らず女は坊主にみへけるか髪をろりたるにはあらし毛はちりれて少しもひす佛頭の如し男女とも腰に風呂敷よふものをまとひ頭より黒き木綿の大風呂敷様のものをまとひたるさま畫ける達摩の如し沓も用ひす砂上に平座して鹿暴極たる人物なり椰子の葉にて造たるよしすめきたるものを張て砂上に更紗木綿類品々並て賣る様子なり市中歩行せしか土人等我國人を見て集る事夥敷黒人のフルダート兵卒なり兩三人附添土人等を鞭打て追ちらすさま犬を追ふか如し駕に乘行を見

しか長二間余もある丸太に臺に腰懸有ものを釣り左右に布を下けて黒奴二人にて昇事なり米のコンシユル官の家に至りて休息し酒などすゝめけり船は涼しけれと陸は暑氣強し此街に葡萄呀の奉行所有けふ交代なるよしソルダートニヘロトン騎兵三四騎を引連れ古奉行馬車にのりて波戸塲へ出迎やかて新奉行上陸馬車にて官舎に行を見たり軍艦にては祝炮有炮臺左右二ヶ所有港内ホルトカル船七八艘かゝりて喜望峯の外亞非利加第一の港なるよしやかて船へ歸る

○六月廿四日陰七十五度石炭を積入る事日毎に夥し米より此港に圍ひ置しといふ小舟にて水を送りあるは小鳥菓物杯賣に來るは皆黒人なるか獸に近き人物なり

あふりかの波の入江に來て見ればましらに似たる蛋のさへつり
尾の長き猿の面色黒く奇獸なればとて正興忠順一疋つゝ買得て舟中の慰に成しけりをのれは青いんこの雛を一羽求たり

○六月廿五日晴七十五度米の船にて黒人を六百人はかり買得しといふ此地は人を賣る事を常とし米利堅は地方廣くして人口少なきゆへ北邊より買出して本國へ送るとなるよし黒人のうちに額より鼻へかけ入墨有るものも黒色なれば能見ねはしれすこは他へ賣らぬしなるよし亞非利加の南部は不毛の地にして海岸はかり開たるは他國より傾して土人を役使し又賣事なれば人はふへぬ道理なり今黒人の様子を見るに印度亞非利加皆一種の土人にして彼の釋氏はその酋長なるへししかる

に釋迦や阿彌陀を壇上に祭りて拜するは愚なる事なり毛ものひぬ頭を眞似してみ
どりの黒髪を削風呂敷を纏ひたるを見て金襴の袈裟衣を着し椰子を椀とせしを見
て僧のてつ鉢を用ゆる事兵に笑ふに堪たる事ともなり

○六月廿六日陰七十四度此地は水蒸氣登りて夕第四時頃より大陽中の黒點を肉眼に
見る日毎に同じ是も珍らしき事なり

○六月廿七日陰七十六度今日はソンデイなれば石炭の積入も休て船中靜なり四五日
碇泊すれば又出帆を急かれける

○六月廿八日陰七十五度碇泊の英米の船將來りて面會するに米の船將合衆國の部落
は何れをよしと見しやとといふ華盛頓は都府なれと靜なる地なり紐育は繁花の地
なれとフエルトルヒヤの方は惣して富有の地と見しといへは大に悦びて渠はフエ
ルトルヒヤのもの成よし日本人は一見して能く地の様子を知らるといひたり合衆國
の話しをせしまゝ英人は不興の体に見へけるまゝ止ぬ此度我國初めての使節を送
迎するを米人はほこりて咄しけるゆへ外國の人々は西洋の國々へは使節は參らぬ
やと責けるまゝいつも程能斷置事也

○六月晦日晴七十六度夕第四時ロアンダ港出帆洋中に出て南をさして颯る

○七月朔日^{廿八日}陰西南風七十四度^{東經十二度三十三分三十六分}百二十八里

○七月二日陰西南風七十一度^{東經十三度五十九分}百七十里

○七月三日陰西南風七十度^{東經十五度三分三十分}百五十五里

○七月四日陰南風七十度^{東經十七度廿九分}百四十八里

○七月五日陰西南風六十五度^{東經廿二度十八分}百七十五里

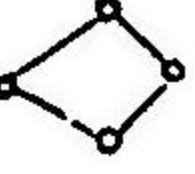
○七月六日朝晴晝陰夜雨北風又南風六十六度^{東經廿三度三分}百九十里

○七月七日陰南東風六十八度^{東經廿四度五分}百七十八里けふは星祭る夕なれ
は彼の二星はいかにと見れば北に低く見へたり

天の河流はおなし空なから逢瀬は北にひくき星合

○七月八日晴東風六十六度^{東經廿四度卅一分}百八十九里

○七月九日陰南風六十六度^{東經三十四度四十四分}百六十二里

○七月十日陰西南風六十七度^{東經三十五度三十七分}百三十三里兩三日以來我國の初
冬の景色に成南風寒き事北風の如し此邊はいつも浪荒く時化多き海なれと意外に
穩なりといふされとうねりは小山の押來るか如し水鳥多く白羽の鳥かもめに似た
り南極星は  如くみゆ北斗の如くめくるとみへて夜更て少し低く見へたり斗は
索より見馴し星は更に見へず天の河のみおれし

いつく迄海の景色はかわらねと南にすめる星は珍らし

○七月十一日陰朝西晝東風六十七度^{東經三十七度四十八分}百八十二里けふ喜望峯を
過るといへど地方よりは三百里も洋中なれば何の證もなければけふより少しつゝ

針路を東にとりて航す汝路は西に流るゝ事早く紐育より航する日數廿七日里程は七千九百三十四里といふ喜望峯クイデホウフといふ支那にはいかなる地なりやと船將にとひしかしらすといふ士官のうち知りたるもの有て答ふ亞弗利加の南の岬にして高山有吹おろす風はけしく地方に寄ては帆かたしとそ港は和蘭國より開きて能き港成りしか近く英領になりしといふ頃日は此地の冬なれば港に入れば雪もふりて凌難し我十月頃は夏成るへし南緯四十一度前後なれば函館の十月頃と全しされは海もあらき理成るへし西洋より東海に通航せしは和蘭を始とすされは能き港は和蘭にて開きし成へし後英國壯に成りて英領に成りしなるへし航海術は和蘭を第一とし英は次といふさもありぬへし

○七月十二日晴東風六十七度南緯三十五度三十七分百〇五里
○七月十三日陰夕雨南西風強し六十九度南緯三十八度三十分百里次第に波あらく大うねりなり

○七月十四日晴北風六十七度南緯三十七度三十一分百廿九里
○七月十五日晴北風六十九度南緯三十七度四十分百八十一里夏かと思へは冬に成四季もいかに航路に日數のみかそへて

六十あまりうきねの波を重てもまたあふりかの海の中路
○七月の望なれと氷る夜の月の北にさえたるも珍らし

喜望峯沖行船になかひれば北にてりぞふ冬の夜の月

○七月十六日晴西風七十度南緯三十七度五十四分二百里動搖甚し


○七月十七日晴北東風六十九度南緯三十八度五十三分八十七里半

○七月十八日晴東北風烈し六十九度南緯三十八度五十六分二百里

○七月十九日晴東風烈六十七度南緯三十八度三十分二百八里

○七月廿日雨東風烈六十五度南緯四十二度〇三分二百里此四五日は風烈しく動搖甚しけれと人々馴てかなたこなたへすへりなからも食事杯する様に成ぬ逐日玄冬の如し今日は南緯四十二度にして我國館と南北の違なれと度數は同じ兼ては喜望峯をまはりて東北をさして亞弗利加の東なるマルシユスといふ小島は佛蘭西領にして商家も有て船繫場なれば此の島にかゝりるれより印度海を航して蘇門答刺と麻刺加の海峡を通りて支那海に出る約なりしか此海路は波靜なれと熱帶中ゆへ風なく暑氣も甚しされは今南緯四十二度まで出けるまゝ凡四十度の邊を東へ航すれば風もたゆまず直に呱哇に航すればやゝ一月ほどは歸朝も早く成るへし志かし數日の海路食物などいふ自由なれと夫等を厭はずは呱哇に航すと船將云けるまゝ一日も早く歸朝を急ぐ事なれば其言葉にしたかひければ針路を東へとりて帆たり此程より蒸氣を止て帆力にてはしる

○七月廿一日晴北西風五十八度南緯四十九度四十七分二百廿里

- 七月廿二日晴北西風六十五度東經三十九度四十九分二百六十里
- 七月廿三日陰南西風六十三度南緯七分三十三度五十九分二百四十九里
- 七月廿四日晴北西風六十四度南緯五十三度九度四分三十分東百六十五里けふ晝頃極洋にて帆力少しもなく舟歩すゝます久しく休し蒸氣を焚支度などして士官とりく出
て帆などをあやつりけるこは舟すゝまさる故蒸氣を用ゆるとゝおもひしか後に聞
けはさわなく風四方より吹て定らず颯風の一種にして如此めくる事とて常の
颯風は  かくの如く吹まはず故乗拔るによし今の風は何れへはしる事もならず
進退極るものなれば蒸氣もてはしるより外術なし其風の模様みへけるまゝ蒸氣の
支度せしかゆへなく濟して聞て人々長縮したりたとへ船の沈没せずとも此邊南は
氷海に通り西より北は亞弗利加より印度の地方二千里もへたち東は豪斯多刺里亞
の地方まで二千里なるへしかゝる洋中にて若し船を損してはいかんとせんかた
なしと思へは心細きは舟の上成けり
- 七月廿五日雨北西風六十五度東經三十九度五十三分二百五十七里
- 七月廿六日雨西南風六十五度東經三十八度五十七分百九里
- 七月廿七日晴雨不定西南風六十一度東經三十七度五十八分百九十五里
- 七月廿八日晴又雨西南風六十度東經三十八度〇九分百六十八里四分
- 七月廿九日晴西南風六十度南緯七十三度五十二分東百九十四里

○八月朔日十五日晴西北風六十二度東經三十七度〇四分六十里午後右之方に小島三
つ有南に寄たるをホウロ島北に寄たるをアムステルダム島といふ伊豆の大島ほど
にみゆ山は三十フートといふ夕方甘里位に見る無人島にて温泉清泉も有といふア
ンステルダムは和蘭の都府の名なればはやく蘭人の見出したるゆへ名付しなる
へし

- 八月二日晴西北風六十三度東經三十七度〇七分百九十六里
- 八月三日晴西北風六十三度東經三十八度五十二分二百三十八里
- 八月四日晴北西風六十三度東經三十五度〇四分二百十里
- 八月五日晴夜雨北風六十三度東經三十二度三十九分二百里
- 八月六日晴北西風六十五度東經三十九度十分二百里
- 八月七日晴北西風六十六度南緯三十七度四十九分東百七十里豪斯多刺里亞の地方へ七
百里ほどにしてきのふけふ次第に針路を東の北寄に轉して航すれば暖氣に成りて
海も穩に成りぬ呱哇へは程近しとて大早に雨をまつ心地なり
- 八月八日晴北西風六十九度南緯九十八度四十四分東七十八里けふは海面池の如し午後
二時より蒸氣を用ゆ
- 八月九日晴東風七十度東經百廿七度〇八分百五十里
- 八月十日晴東南風七十度東經百廿四度三十六分百五十八里

○八月十一日晴東南風七十一度南緯廿一度五十三分二百里朝蒸氣を止

○八月十二日晴東南風七十三度南緯廿四度三十七分二百廿八里今日より針路は北に向ふ

○八月十三日陰東南風七十八度南緯廿四度四十三分二百四十里

○八月十四日晴東南風八十度南緯廿五度五十八分二百廿五里午後二時南に十里程隔てキリストダンスといふ島有長九里巾六里といふとき色にして尾の長き鳥の空中を飛

を見る此島に多しといふ

○八月十五日晴東南風八十度南緯廿七度三十五分二百十二里午後二時頃より地山を見て追々近寄夕第四時頃には間近く呱哇の浦山木立茂たる岩根の小島多く我松島の風景に似たりや、行て左にフリン島といふ大しま有四十日あまり地方を見ずしてけふ浦山を見て人々悦事限りなし折しも十五夜の月隈なく山の頂にさし出ければ思ひきや地まりめくりて南なる呱哇の浦わに月を見んとは

我國に見しもかはらす名にしあふ月さしのほる呱哇の浦山

○八月十六日晴東風八十二度今曉二時前九時半呱哇のアンニル港へ投錨此港南緯六度五十分昨正午より百里海濱木立しけり和蘭の旗を建てし海軍所有右の方に炮臺燈海有人家稀なり魯其他食料を入れて今朝第九時半出帆地方に添ひ東をさして行左にフリン島を見てや、行て廣き海に成り小島多し閩礁も多くして海路難し左に遠

く蘇門答刺の地方をみる咬啗吧港へ十五里はかりにして日没したれば閩礁多しとて碇を投して島かけに泊す此邊海面池の如し小島多くて松しまの大なる景色にて勝景也

松しまの小島の磯といわまほし月さしのほる呱哇の入江は

更て月のすみければ

中空にてりそふ影はかはらねとまた北に見る呱哇の望月

○八月十七日晴東南風八十六度今朝第六時出帆して第十時呱哇島の咬啗吧港に碇泊此港南緯六度八十分アエエルより七十里ロアンタ港より七千九百一里といふけふはソんテイなれば碇を投したるまゝなり喜望峯を過る頃は小袖重に厚き羽織にても寒きほどなりしか此程は次第に暑氣を催しきのふけふは我六月の如く酷熱甚し抑和蘭國は二百年來我國に通商せし船は此島より仕出し支那の外遠き海外より來りしゆへ西洋人をさしてジャガタラ唐人と言ならはしけるほどの地方なれば古來よりの沿革を委しくとひければ横文の筆記を借得て譯す左の如し

援答費亞は呱哇北岸に在る海港の一都街にして東印度和蘭領内の主府と云「テイリウオング」と云大河の口に有り西の方スーリタ街を距ると廿七時程港門濶大にして船舶一千二百艘を泊すへし其前に十七の小島散布して全く颯風の難を遮り船を碇泊するに最上の港門とす南緯六度八分東經百零六度五

十分氣候極て炎熱なり土地早濕にして泥澤多し因て和蘭風に倣ひ多少の滄を掘も通し水氣を導く此地昔は氣候健康にして人畜能く生長し人口十六萬東國中の繁花第一の真地と云しに一千七百年の末に當り大地震發爆し氣候頓に一變せり爾來氣候甚惡しくなり死する者極て多し千七百三十年の頃は人口猶七萬人ありしか全年より全五十二年迄死する者一千一百人に下らざりき是を以て死を避け近隣の「ウユルドフレーテン」レキスウエキ「アールドウエキキモーレンフリート」の諸村に逃れ去て留る者少なし而して新に郭外に村街數所をなす本街は甚た零落衰微し疆尸積骸の郷となり斯る良美の都府も一瞬間に翻て和蘭人の墳墓に變ず豈畏るべきの一天變にあらずや然と雖ども近年に至り總督官宿風を改革し其宜の規則を設け瘴癘を避け疾病を防の法を施し因て其功驗著しく顯て街中又繁榮に向へり方今バタバヤを分て七州二十四郡とす其第六州に支那街あり支那人の居る處なり本街の西南に當れり街郭極て廣大道衢至て整正なり千八百廿三年三月廿八日祝融の災に係れりと云バタバヤ中壯大の家屋は總督官の廳舎及他の諸官舎共ニウエキキニアリ街官の家交易場海軍藏庫骨喜藏寺院支那佛寺都兒格佛寺音樂堂戲場船舶製造所病院等あり此地は和蘭東印度領中に於て學校教館第一に居る百工藝術科の學校及兒童導教の小學校數所あり又バタバヤ新聞紙を弘むる所

あり街中アラキ製所酒ノ名ナリ石炭燔所磁器及陶器製所又コーヒー皮革染料等の製局なり街の中間に百般物品の大積場を置き又亞細亞物産の市場あり呱哇マツラの通商中利を分つ最大なりと云他邦に出す所の物産の最大なる者はコーヒー百萬九千九百九十ピコル千八百四十五年ノ記ニ由ルニニ當砂糖百四十五萬五千廿三ピコル胡椒一萬五千廿七ピコル藍百六十五萬三千八百六十九斤目ニ皮革十萬五千七百五十一枚丁子二千二百三十ピコルモスカートノツテン三千四百三十三ピコル肉豆蔻八百三十ピコル錫七萬五千五百三十七ピコル米四十四萬七千七百七ピコル藤五萬二千二百六十ピコルアラキ燒酒四千三百七十八樽總計六千五百八十九萬五千六百六十八牛牛他邦ヨリ輸入する所の物品は麻布棉布毛織食料酒金器及歐羅巴亞墨利加製の工器並ひに本邦印度諸國支那暹羅榜瓦刺西印度の物産を主品とす其價千八百四十一年に二千九百四十八萬三千六百六十三中甸に上れりと云全年に入港せし船千九百零五艘積荷十二萬四千二百二十八ラスト一ラストハ和蘭ノ其内千四百五十四艘は和蘭の船にして積荷九萬七千二百二十四ラスト本國ヨリ來リ或は印度領諸地より來りし者あり其餘は多く亞細亞暎咭喇亞墨利加葡萄牙より來れり街中千八百二十七年に建てる大銀舖あり其の出店サマラスラバヤ共ニ瓜哇ノあり其人口千八百四十五年の頃には六萬九百八十五人其内歐

羅巴人及び其別種人二千九百六十九人支那人一萬七千二百七十八人土人三万八千七百四十四人亞刺比亞人五百六十五人黑奴ネグロ千五百人と云ふ

援答費亞の始を原ぬるに當今本街のある處昔は「ヂヤガタラ」と云バタビヤの首府あり本島の酋長此に居り内外の政令を發したり千六百一年以來英人來りて此に居りしか全十年和蘭人之を奪取れり此頃までは蘭人バンダム名バタビヤノ西ニアリに據有し勢ひ強大にして其居りし英人を悉く逐ひ拂ひ已か有とせり其騷亂に由て家屋倒崩し城市壞廢せると又新に造築建立し全十九年より今の拔答費亞府となれり千八百十一年に至り英人又之を奪ひ全十六年の初に復蘭人返し與ふ全五十九年の記に十一萬八千三百人其内歐羅巴人二千八百人支那人二萬五千人土人八萬人黑奴及亞刺比亞人千人氣候常に我邦の夏の如し四季更になし年中中度の暖は七十八度三分冬は七十八度一分夏は七十八度六分日午の熱は八十度より九十度に至り夜は七十度暑氣益々減し其最高山には寒暖計氷點に下る者もあり凡二三月頃より十月迄好天氣をトし其余月は晴陰風雨不定之を惡天氣と名つく地震風雨頻りに多し時としては暴嵐驟風舟楫を一拂することありと云ふ

○八月十八日晴八十六度港街の波戸場より二里余も沖に碇泊すれば市街の様子は見へず大灣に成りて船數艘繋り小舟もて西瓜其他の菓物多く中にもナレンジュとて

久年母の如きもの多く賣に來れば入々あらそふて買得たり

○八月十九日晴八十六度和蘭國は舊來の通商國なれば總督に面會の事を申入しか明日を約し來る

○八月廿日晴八十六度今朝第七時過六時半一同下司まで伴ひて船將案内にて川蒸氣船に乗移れば和蘭總督の次官なるもの迎に來り全船して行に港内に有ワクトシキツフ船にて祝砲十九發一里半程行く波戸場に至る練化石もて巾三尺高さは水上三尺はかりも有長さ我一里もあるへき輕便にして堅固なる波戸左右に有ける中を行て少なる砲臺にて又祝砲有上陸すればコンマンド名官出迎警衛として騎馬隊前後に半隊つゝソルダート一ヘロトン出る例の馬車に乗りて走る事三里人家建つゝきたる街を少し行て堀割の川に添ひて行に左右往來人家間遠にして樹木多し中頃に支那街有三四町支那人の家つゝきたり家の作りさまざまに我國の風に似て垣に門などありて雅なる風景也總督の官舎に至れば堂前にて馬車より下り堂内に入れば總督体マルメレン石にて造りたる廣き高堂なり正面に總督印度領此邊蘭領の總督に人か物も見た左右に高官のもの列なり正興はカヒティンをのれはコロ子ル忠順は一等の士官伴ひて前に進むこたひ米利堅へ使節として行しか歸航はからず當港に入津せしまゝ訊問として來りし由を述べは懇に挨拶して酒一盃を出しけり御國産の縮緬壹反を贈り暇乞して歸る三四町戻りてホテルに至りて休息ホテルは中央に二階

の堂有左右廻廊の如くに造りて部屋に有庭中に六角堂の浴室有此前に警衛の兵卒列立したるゆへ挨拶して断ければ引取り紐育を出て四ヶ月湯あみせねば此頃のあつさといひゆあみせんと誰もく樂しみて浴室に入て見れば石もて造りたる風呂に濁りたる日向水にひとしき湯のいさゝか有けるか見るうちに皆もりてなしまた湯をはこひしか石の風呂に損したるものなればせんかたなし小さき桶にくみてゆあみのまねして置きぬ其心地のあしき事は詞に盡しかたし従者などは水をあみたり此地は極熱なれば湯あみする事はなく漢水にて濟けるよし誰も失望の有さま也やかて此ホテルの中堂にて殊更の馳走有ては航海中合衆國の政府より饗するよし也裏に菜園有種々の奇草奇花有中にもサボテンの大なるに花の咲たる有此邊の街中を見廻りて夕第五時馬車にて波戸場に至り川蒸氣船にて夕第六時過ナイヤガラ船に歸る街中の様子米利堅と大に違ひ歐羅巴人多く中にも蘭人多くして婦女の風俗もかはらねど支那人もあまた有笠をかむり賣物を荷ひて歩行さま我國風に近し土人は黒色にして赤き更紗を着し風俗大にかはりたり有名の地なれど人員少く街中至てさみし

○八月廿一日晴八十八度此港の西に寄てナンリュスといふ島に子ビヤールト船製へ行て石炭を積入るとて朝第六時出帆六里半行て島に至る子ビヤールトの前の小島に石炭園所有り其前に船着て陸に繋て積入る事なり

○八月廿二日晴夕雷雨八十六度夕景には水夫等一同に水泳するさまおもしろし我國人も同じく水に入たるものも有り

○八月廿三日晴薄暮雷雨八十六度夕刻此子ビヤールトへ行て所々一見せしか細工小屋五棟有り蒸氣機關などは此ころ本邦より來りしとて未整はずソルダートの居小屋に一むね有ヲシユル官士の家もあまた有魯西亞の船修履せしを見る大砲あまた陸に揚げたりこは我北地につゝきしアンムル邊へ廻すといふ暮かた歸らんとするうち夕立はけしければコンマントルの家に休息せしか懇にもてなし魯西亞の士官一人居留して物語などして雨はれければナイヤガラ船に歸る

○八月廿四日晴八十六度

○八月廿五日晴夕雷雨八十六度石炭も積終りれば朝第十時出帆してバタバヤのものと所に碇船

○八月廿六日晴夕雷雨八十六度暑氣酷烈なれど毎に夕立大雨ありて暑を洗ふ故に夜陰は凌よく朝も四時頃まではさのみのもなし

所からあつさを洗ふ恵なれや日毎にきおふ夕立の雨

○八月廿七日陰午時雨八十五度午後三時半咬啗吧港帆北をさして颯る蒸氣を用ゆけふは太陽直下なるよし

○八月廿八日陰東風八十四度南緯三十七度三十八分百六十里晝頃より左右に小島多くス

モタラに添ひて大なる島有右にも同じく島の間十里はかりもあるへし過ても又小島有開礁多しとて海路測量の圖を出して船將マストル方測量は困苦のさま也夜十二時過小島のかたはらに碇を投し曉第五時又颯る

○八月廿九日北東風八十四度南緯一度三十五分東百三十五里今朝島を見て午後又小島を見る米利堅の商船開礁にかゝり破船したるを見て人々恐れをなしけり

○九月朔日十月十四日晴北西風八十五度北緯一度四十五分東百八十八里三四の小島を見て過る赤道下を越へてけふの測量は南をむかひてはかりければ日月南に成しとて人々悦けり此邊は麻刺加海なり

○九月二日晴北風八十六度北緯四度五十分東百八十里

○九月三日晴北風八十五度北緯七度二十四分東百九十四里

○九月四日晴北東風八十五度北緯九度三十分東百六十六里はや支那海なり安南の地方によりて航す東は呂宋といふ

○九月五日晴北東風八十七度北緯十度五十七分東百三十五里

○九月六日晴北東風八十五度北緯十三度十九分東百七十六里

○九月七日陰小雨東風八十四度北緯十六度三十分東百七十五里

○九月八日晴北東風八十四度北緯十八度四十分東百六十六里

○九月九日晴北東風八十一度北緯十四度四十分東百卅七度午後より香港前の島を見へ

て夕刻近く成けるか夜中は入かねて蒸氣を軽くして船を遅々して進む

○九月十日晴東風八十四度今朝香港と支那の海峡に入り左右山々連り廣き所は一里も有り狭きは五町ばかりにして地方の嶺しを切割たる所を過ぎて香港の街市見ゆる船舶數艘林の如し午後第二時二分香港に碇泊此港北緯二十二度四十分昨正午より八十五里咬嚼吧港より千八百九十七里といふ數萬里の海路を涉りて此港に來れば我隣國にして曆も我に同じければ皇國に歸りし心地せられていとうれし東に航すれば一日を増と聞しかけふは九月九日なりされは唐詩を思ひ出て

唐の島山高き夕月夜けふはことさらおもふるさと

○九月十一日晴八十四度朝第九時頃より忠順ととも上陸して街市を見めぐりしに歐羅巴より出店の商人多く家屋も石造也支那人もあまた住て市店あれと歐羅巴の物品のみ支那の産は稀也ゴールフルニール事也の家は山の中腹に有繁華の街は一通り裏は坂に登り三通りもあるべし都て山裾に作りし地勢函館によく似たりされと函府に比すればやゝ狭少の地也米利堅商人の家に休て午後一時船に歸る暑氣は酷熱なり香港といふは支那地方に添ひて島山なり周回十三四里といふ山はかり也支那の地方コールン地名漢字有へけれとといふ小村に對して街市有十二年阿片の事より支那と英國の戰爭に成りて和議の時香港を分割して英領と成りしより家作も西洋風に造り歐羅巴人多く移住し英國の惣督此地に在留して逐日繁榮の地と

成人口三萬といふ廣東はよき港なれど近き頃英佛の兵火かゝりて荒たるまゝ成るよし爰より蒸氣船にて一日に達すといふ

○九月十二日晴八十度我國の事は風の便もなきか四月米利堅にて新聞紙にいさゝか聞へける事有ければ寢覺にも心にかゝりてパタビヤに至れば聞へんともありやとおもひしか更に何の便もなく此港にては我神奈川に通ふ商船もあればいかにやとどひけれどくわしき事も知らずけふ和蘭の蒸氣軍艦入津して長崎に在りしトングルキユルシユス名^ル來りしと聞てホルトメン^船は蘭人なればとく彼の船に行しまゝ歸るを待て聞けるかトングルは崎陽を交代して江都に至りまた函館に回りに來りしなれば江都の平穩にして大老職病卒と威臨丸歸帆して其コモトール榮轉せしと此事後に聞は勝此太耶の事なり聞しよし函府には下野守徳保内に面會せしといふ委しき事は知らねど我國の靜謐なる事を聞て人々安堵したり外國人に我國の安否を聞る珍らしき事なり

○九月十三日晴八十度石炭を積入るも小舟にて運ひてはかどらす御國近くなりければ誰もく歸心矢の如くなるに米の軍艦一艘神奈川へ行とて出帆と聞て故郷には歸帆の期もしらねは此港まで恙なく來り石炭積終は不日出帆して廿八九日頃には歸朝せんと同僚にも告家の文も此船に託して遣りぬ夕月の隈なくさし出るを見ておもふに米利堅は反對の地なれば同じ影を見す亞弗利加にて見しは曉と夕との違

ひパタビヤにては宵と夜半の違ひ殊に北に見る此時に來りては經度僅の差ひなれば御國と半時はかりの違ひにて殊に南に見てかわる事なく隣國の心地せらるむかし遣唐使は隣國に至りしを珍らしき事に云けれどこたひの航海は大なる事をする故郷のやゝ近くなる唐の島根の月はともに見る影

○九月十四日晴八十度けふも月のいとよく晴てあつさもつよければ船の上に出て納涼せしかけふは皇國の十三夜とて正興

古郷もともにもて見ん唐の空にすみける長月のかけ
忠順

武藏野に見し月影を唐の山のおもとにけふみつるかも
をのれも同じく

見よや人今唐にすむ影は我秋津洲の月の光を
もろこしの此港江の月今宵古郷人ともに見る影

○九月十五日晴八十二度けふの新聞紙とて見せけるか英佛天津より攻入終に北京に至り支那咸豐帝は轎輜に落行しといふ
七月四日に始り八月廿九日に落城なるよし後に聞は和議支那は弱兵にして艦兵大にさゝえしといふ國中にも明末再興を名として賊起り且長毛の賊と唱へて大につのるよし海岸諸港の炮臺とりて櫓のものは皆英佛燒拂しよし四百余州の中華とい

吾國威衰たれはかく成ぬ歎へし恐るへしこれ等の事は別記す此港に病院軍艦を有て戦争にてきつ受しもの皆爰に送り治療して本邦に歸すといふ

○九月十六日晴八十二度

○九月十七日晴八十二度我漂流人米利堅の商船に乗組居て歸國の事を願ふよし人をもて告ければ船に呼て糺せは藝州の二島といふ所の百姓の子にて水夫渡世せし龜五郎とて三十五に成りしか十年前攝州灘より江戸へ航し歸りの時十月頃紀州浦にて難風に逢ひ六百里程沖に吹流され五十日漂流せしうち米利堅の商船にたすけられフランシスコへ上陸せし時は十七人成りしか一人は死失一人は彦藏とて米人と成りて神奈川に至り一人は治作とて去年函館に歸り其余は行衛をしらすといふ此度商船に雇はれサンフランシスコより五十日にして此港に至りしか日本使節を聞て歸朝を願ふよしを言たりされは船將に告て此地のコンシユルに引合同船して歸國の事に決し江戸に至りハルリスより改て渡す事となすよし也多くは彼地に止りあるは外國の風俗に成て御國へ來り我儘言もあるにかく歸國を願ふは殊勝の事也

○九月十八日晴八十二度今朝十一時香港出帆午後洋中に出て暮るまで支那の地方を見る東をさして舩ける

○九月十九日晴東北風八十三度北緯二十二度十七度二十八分港より百七十五里

○九月廿日晴東風八十三度北緯二十二度十五分百六十八里朝十時頃より台灣の高山

欠

MISSING

ペレユツレ^人名ピストル

一挺

コルト^人名ベルトピストル

同

同ホルステルピストル

同

同改製式棚杖一個を附する者

二挺

騎兵刀革級を附する者

一口

騎炮兵刀同

同

オンドルオヒシール劔

同

樂人劔

同

上に記載せる小銃各個に附屬せる藥包子

百個

ホウキツスルに附屬せる彈藥包

三十六個

馬に準備せる物品

一具

ビユクのアウオウトレメント^{未詳}百具 カル^{未詳}

五十八

同 一具劔ハヨ子ツトを具する者コーゲルベルス

一具

爆發機

一箱

番兵局兵器の書

一箱

シブレイ^{未詳帳}

一張

ランスル

一個

大平南海輦道の報告

十三冊

ギリス名地より知里の方への輦送

一冊

日本の方に彼理の輦送

四冊

エモリ名地の境界測量

三冊

スコールクラフト名地の印度人種

六冊

日本の方に彼理の輦送

三冊

○十二月朔日おもひきや大城にのほるへきの奉書賜りけるまゝ朝とくもうのほりければ正興おのれ一同に御座間の庇にはい出れは亞米利加國へ御使として遣はされけるか格別骨折相勤むるに依て三百石つゝ御加増賜るよし

上意を蒙る次に忠順出れば同く御使の立會として遣はされけるか格別骨折相勤けるによつて二百石御加増賜りける 上意を蒙りしとろ月次の御禮も濟て芙蓉間にて同し御用骨折相勤るによつて黄金時服賜はりけるよし執政の方々並居て關宿侍從傳へらる正興おのれ金十五枚時服四つ、喜また新番所前なる溜にてをのれ取來る歳俸二百苞を地方に直し賜はるよし同し侍從傳へらるはた喜殺には殊更に月俸二十口を賜はり森田行下司の人々そのほとく月に月俸を一生之内賜り黄金時服なと賜はりけるけふかゝる御惠を蒙りしは夢にやあらぬかとつらくかへり見れば我祖父君歳俸百苞の家督をつき給ひ大司農にまで進みて稀なる君寵を得給ひ千二

百石までの恩波に浴し給ひ其時をのれまで新に召出されて月俸二十口を賜はりしか僅三十年の間四方に奔走すれと何の寸効もなく終に例しなき使命を蒙り神と君との御惠にて恙なく歸朝せしは僥倖といふへししかるに新に五百石の采地を賜りけるは積善の餘慶なるへしとかしこさは筆にも詞にも盡しかたし素よりのれは不肖短才なればかゝる御高恩を報すべき事もならぬは子孫のうち心あるものは忠勤して報せよかしとおもふのみ

異國の灘のりこへて五百重波かゝる惠を代々にあふかん

此一巻はくたくしくかき集てもとより人に見すへきものにはあらずたゝ海外に航して 神國のたふとき事をしりまた風土人情の異なる様海路の辛苦まで忘はてんも本意なければ其折の日記をつゝりて御惠のかしこさを子孫にしらせほしくおもひけるか公務にまきれて筆とる暇もなきか文の久しきといふ元年の卯月より函館の役に當りて官府にありては朝夕の暇に夏の鹿のつか短かき筆もてかきあつめけるか文月望の夜筆を止むる事とは成りぬ 淡路守源範正

村垣淡路守範正奴師航海日記乎美世良列計禮婆

鳥津都等播於毛波奴遊女乃南見麻久良奈可伎不那知耶宇美和多利家牟

與仁太加幾伊射遠能美可波於保布年爾起見賀免具美母都彌加堅流可奈

八十齡 藤原安清

明治三十一年四月二十五日印刷
全 年四月廿五日發行

記述者 故村垣淡路守 純正

右相續者 純正 四男

發行者 村垣正通

神奈川縣久良岐郡月太町太田二千
百二十三番地

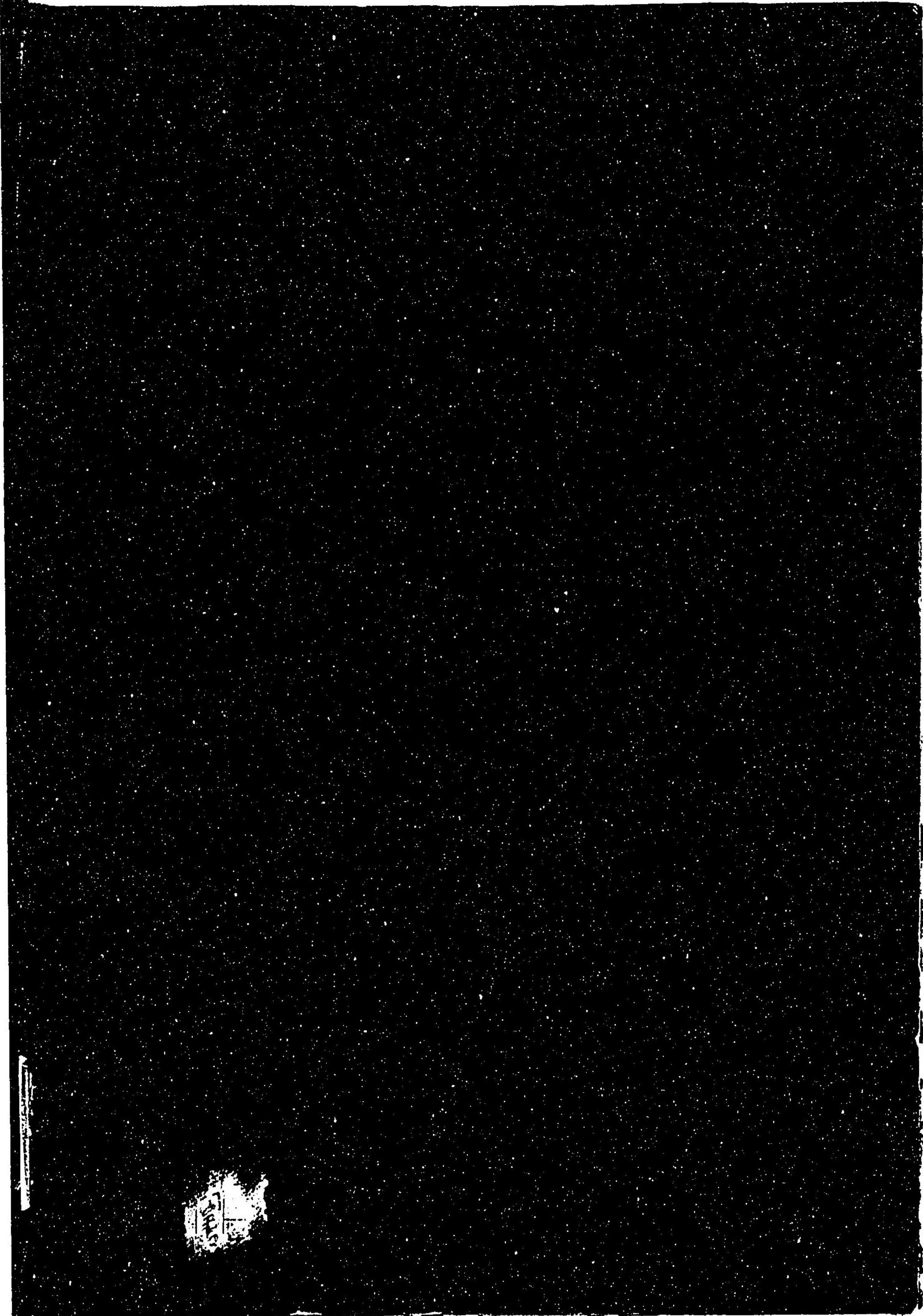
印刷者 田中市之助

同 神田區通新石町三番地
東陽堂員

發行所 東陽堂支店

同 神田區通新石町三番地

79
47



79

47

Ⓜ

026894-000-4

79-47

遣米使日記

村垣 正通 / 刊

M3 1

ADG-0011



